

# 調査結果の分析 乳幼児・小学生調査

## < 調査実施の概要 >

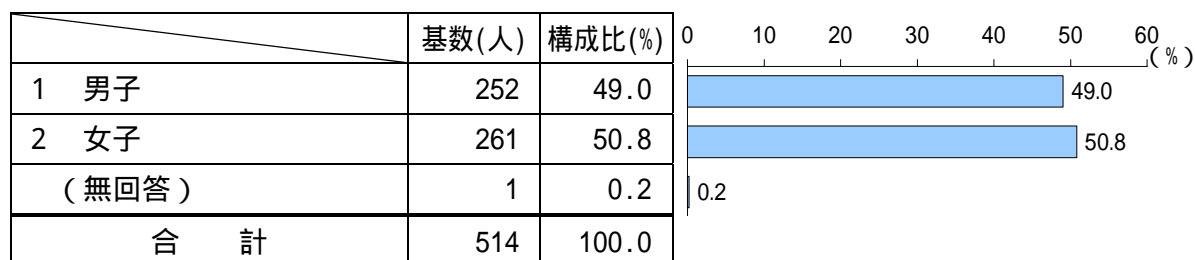
調査地域	江東区内全域
調査方法 調査期間	郵送法（郵送配付 郵送回収）平成19年9月28日（金）～10月19日（金）
標本数	800人
有効回収数	514人
有効回収率	64.3%

《乳幼児・小学生》については、保護者の回答であるため、保護者の心がけや姿勢として捉える必要がある。

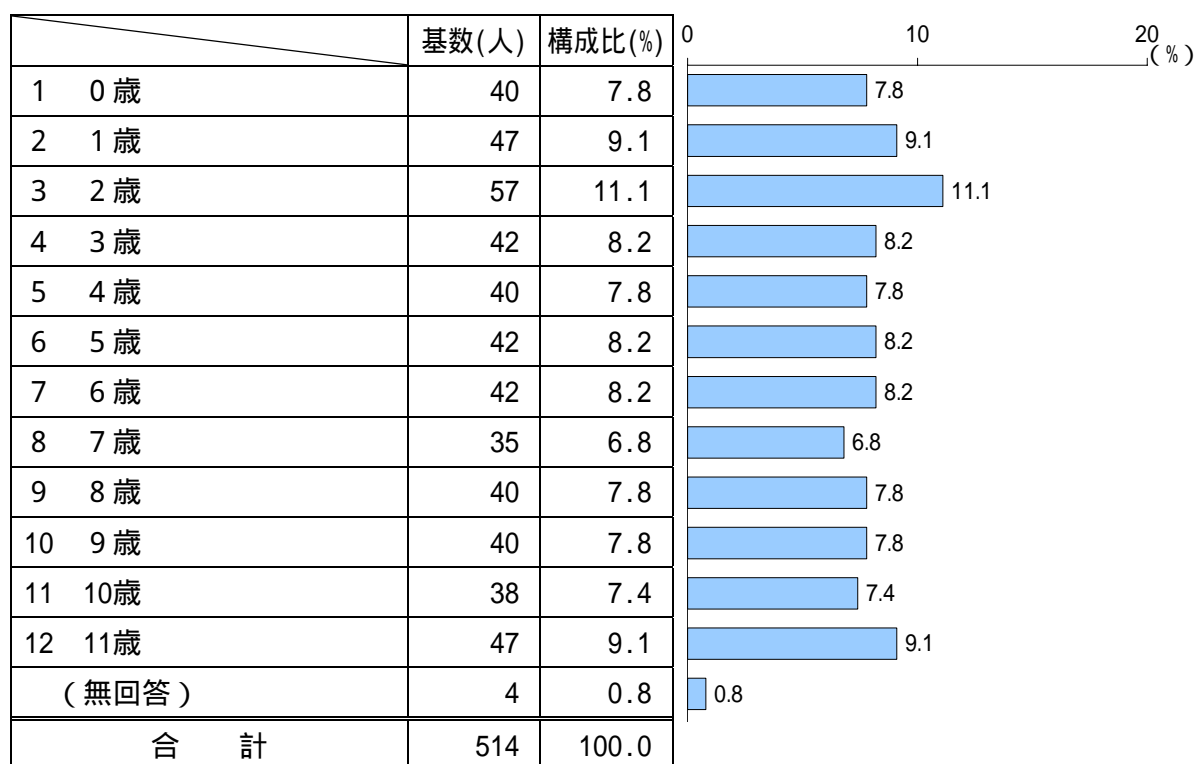
## 1 基本的な属性について

## (1) 基本的な属性

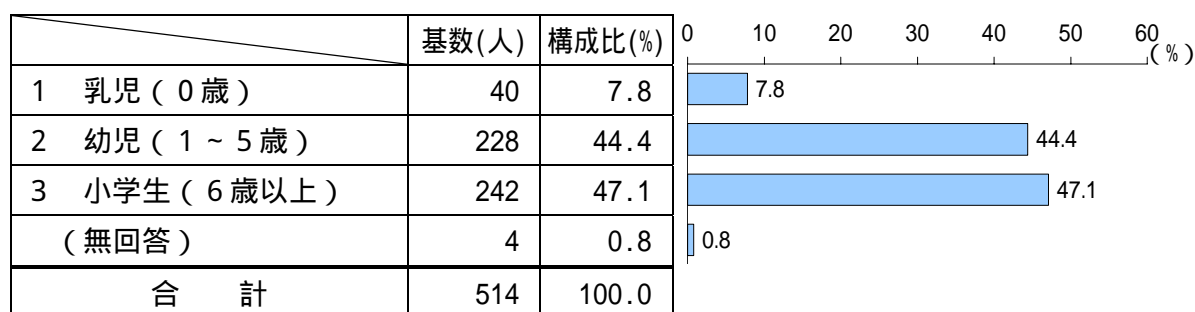
## 性別



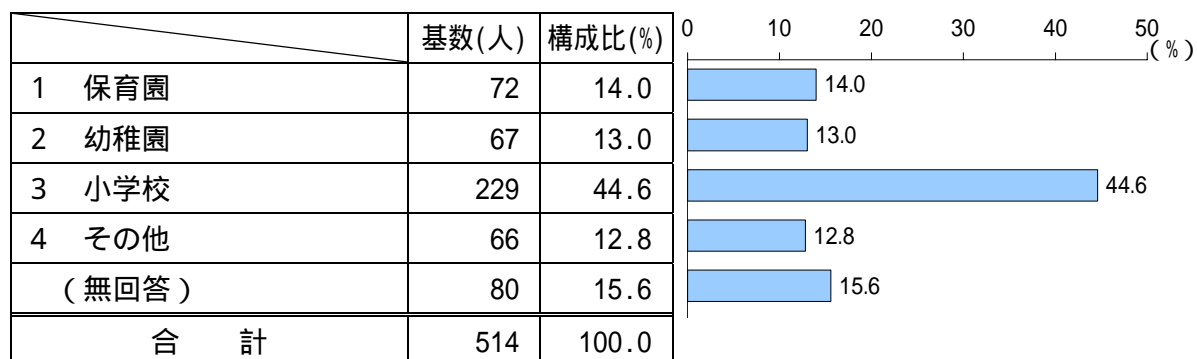
## 年齢別



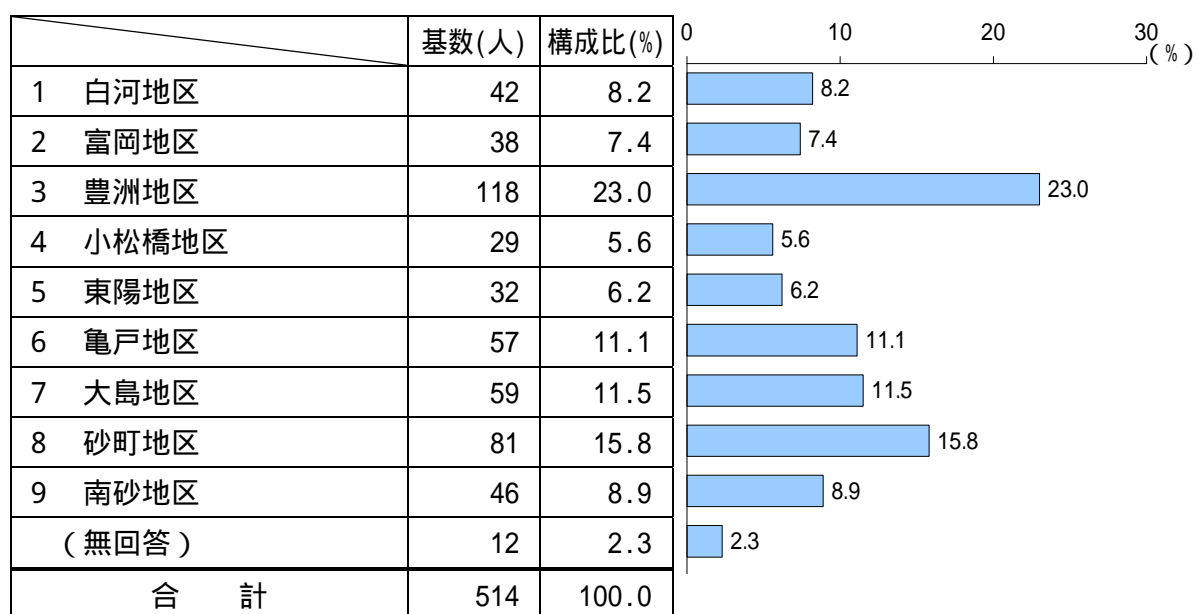
## 年齢別(3分類)



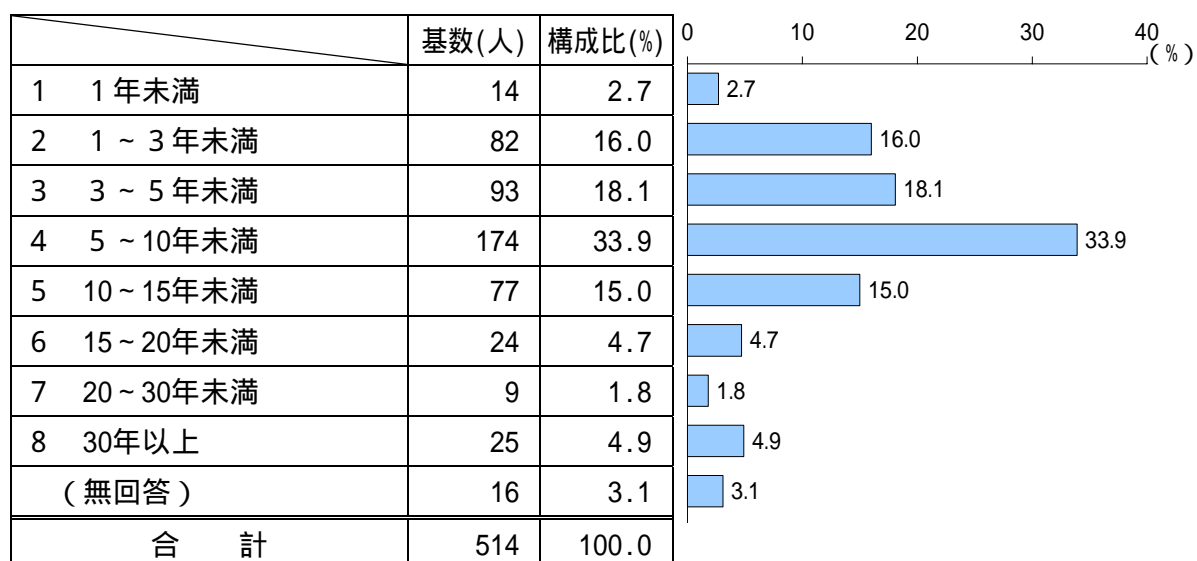
通園・通学先



居住地区



居住年数



(2) 乳児(0歳)と幼児(1~5歳)の身長・体重

乳児(0歳)の身長・体重

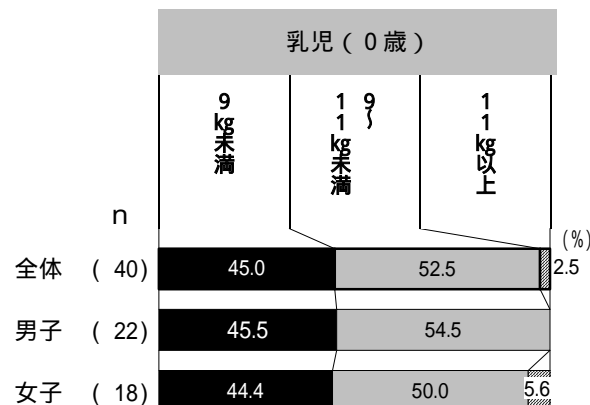
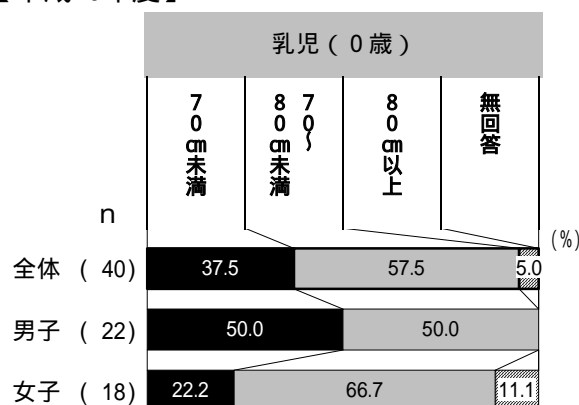
乳児の平均身長は71.2cm。平均体重は8.7kg

問4 お子さんのおよその身長と体重を整数でご記入ください

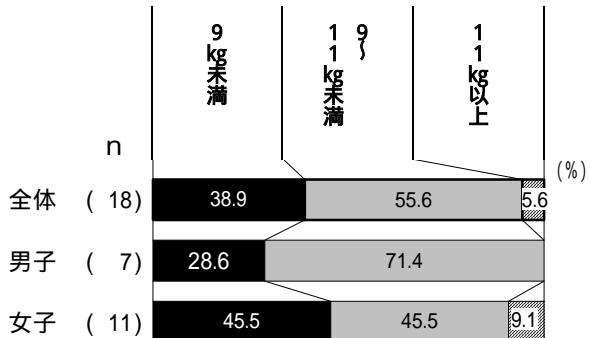
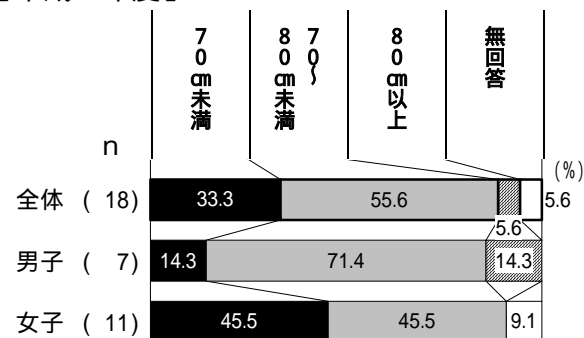
<図表 - 1 - 1> 乳児(0歳)の身長・体重

[身長・体重]

【平成19年度】



【平成14年度】



[平均身長・体重]

【平成19年度】

	(cm)	(kg)
全体	<u>71.2</u>	<u>8.7</u>
男子	70.4	8.8
女子	72.1	8.6

【平成14年度】

	(cm)	(kg)
全体	<u>72.1</u>	<u>8.6</u>
男子	73.3	8.7
女子	71.2	8.6

「全体」には、太字で下線を施している。

乳児(0歳)の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。(図表 - 1 - 1)

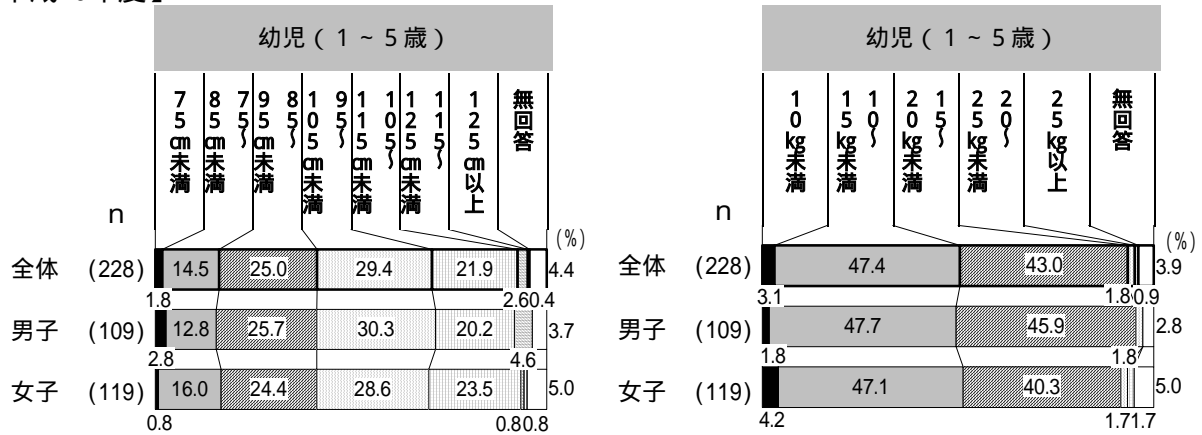
幼児（1～5歳）の身長・体重

幼児の平均身長は95.6cm。平均体重は14.3kg

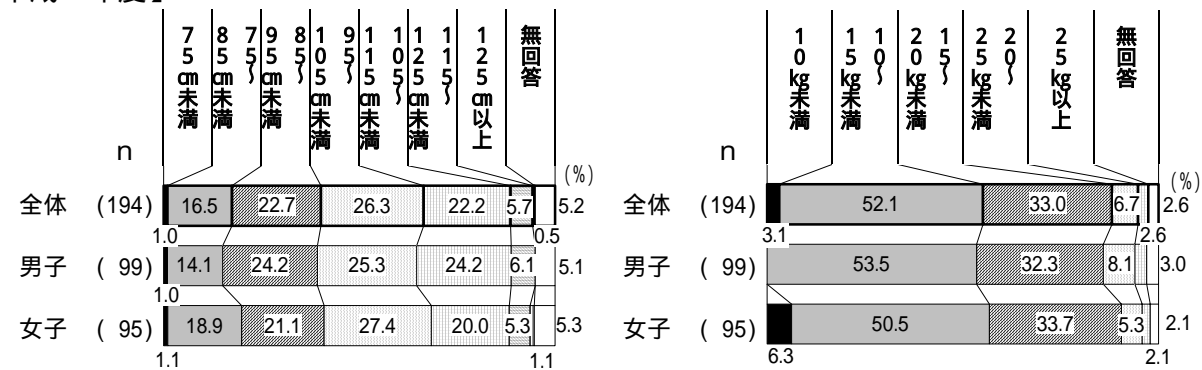
<図表 - 1 - 2> 幼児（1～5歳）の身長・体重

〔身長・体重〕

【平成19年度】



【平成14年度】



〔平均身長・体重〕

【平成19年度】

		(cm)	(kg)
	全体	全体	全体
全体	<u>95.6</u>	<u>14.3</u>	
男子	95.4	14.3	
女子	95.8	14.3	

【平成14年度】

		(cm)	(kg)
	全体	全体	全体
全体	<u>96.6</u>	<u>14.6</u>	
男子	97.0	15.0	
女子	96.1	14.3	

「全体」には、太字で下線を施している。

幼児（1～5歳）の身長・体重は、成長速度が著しいため、対象者の分布している概略を参考までに掲載するに留める。（図表 - 1 - 2）

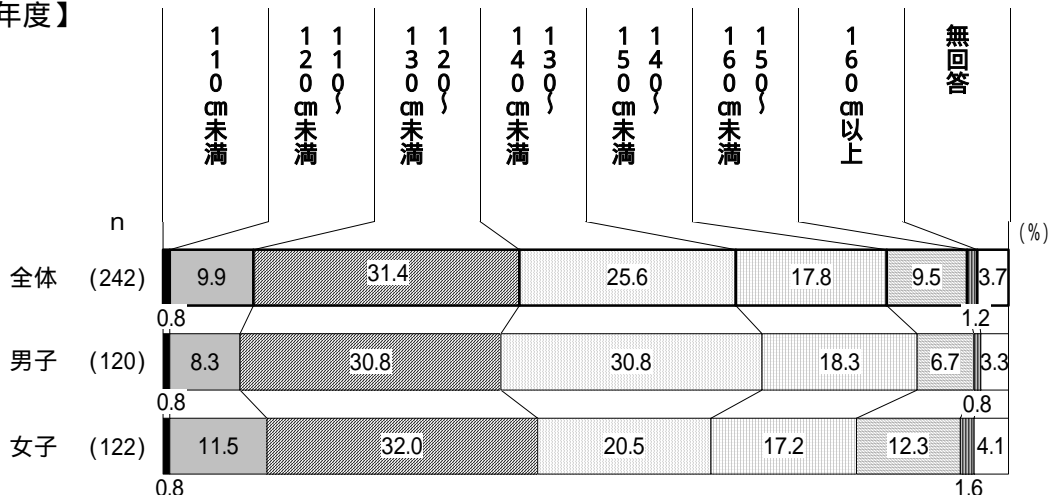
(3) 小学生(6歳以上)の身長・体重

小学生(6歳以上)の身長

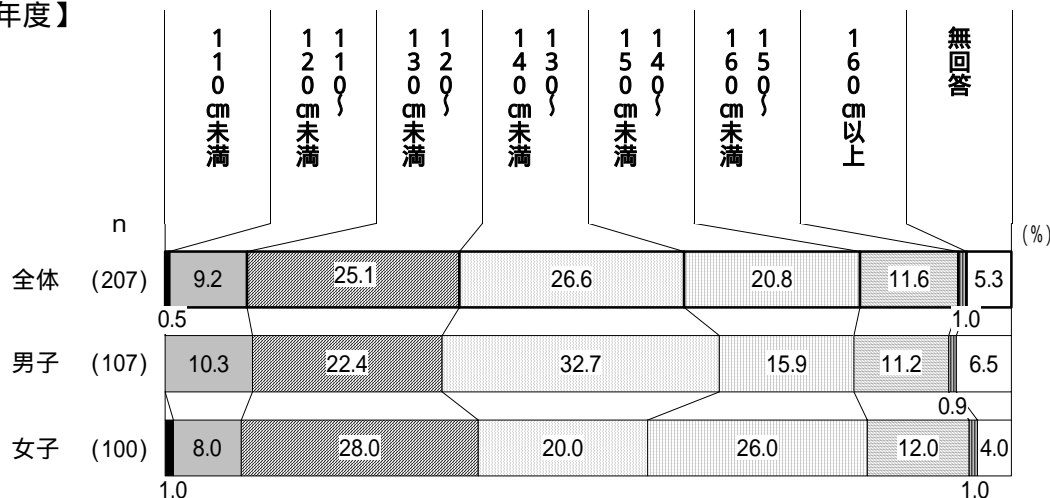
平均身長は年齢が上がるほど増加し、11歳で148.1cm

<図表 - 1 - 3> 小学生(6歳以上)の身長

【平成19年度】



【平成14年度】



身長は、平均身長が132.5cmで、構成比は「120～130cm未満」(31.4%)が3割を超え最も高く、「130～140cm未満」(25.6%)が2割台半ばとなっている。

性別でみると、男子の平均身長は132.1cmで、女子の平均身長は132.9cmである。従って、男女の差は0.8cmである。また、構成比では、男子は「120～130cm未満」と「130～140cm未満」が3割で並び高くなっている。一方、女子は「120～130cm未満」が3割を超え最も高く、次いで「130～140cm未満」が2割となっている。

平成14年度と比較すると、「120～130cm未満」が全体で6ポイント、男子で8ポイント増加している。また、「140～150cm未満」は女子で9ポイント減少し、「150～160cm未満」は男子で5ポイント減少している。(図表 - 1 - 3)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 4 >

〔平均身長〕

	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>132.5</u>	<u>118.0</u>	<u>123.1</u>	<u>129.3</u>	<u>133.7</u>	<u>140.7</u>	<u>148.1</u>
男子	<u>132.1</u>	118.0	123.3	131.3	133.8	140.5	144.9
女子	<u>132.9</u>	118.0	122.8	126.8	133.5	140.9	150.5

「全体」には、太字で下線を施している。

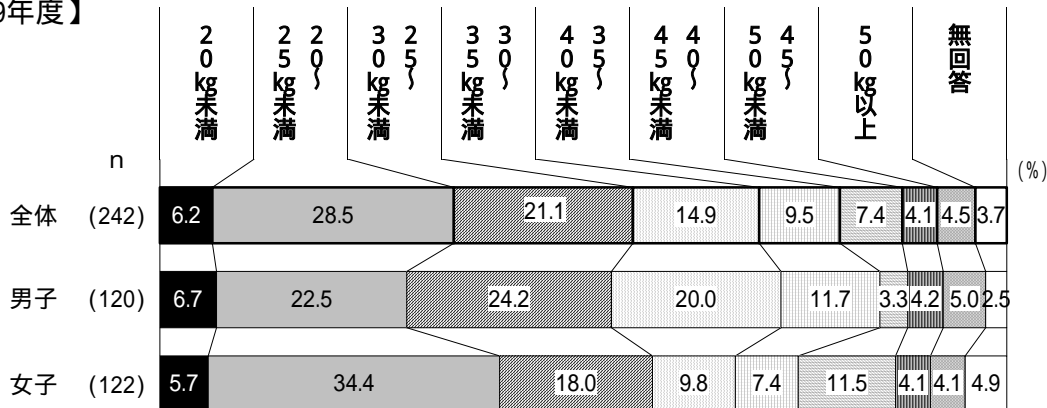
男子の平均身長は、当然のことながら、年齢が上がるほど漸増し、11歳では144.9cm となっている。高低差は26.9cm である。一方、女子の平均身長も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で150.5cm となる。高低差は男子よりも大きく、32.5cm となっている。(図表 - 1 - 4)

小学生(6歳以上)の体重

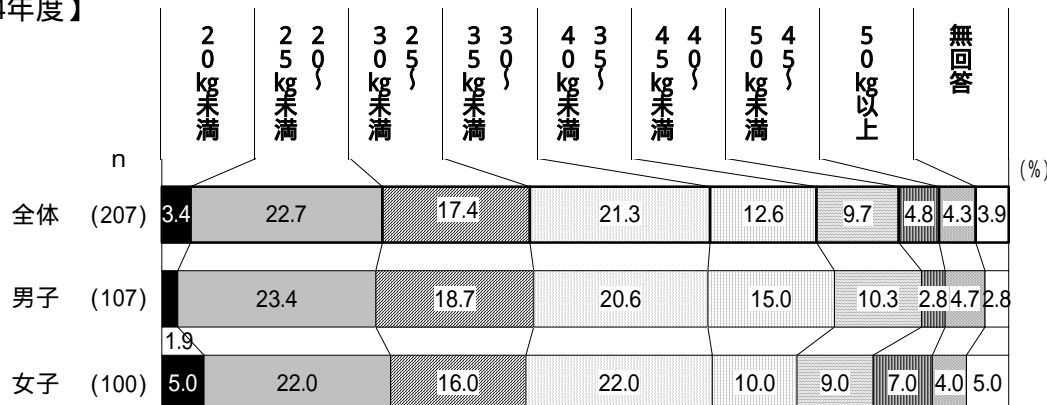
平均体重は年齢が上がるほど増加し、11歳で40.5kg

< 図表 - 1 - 5 > 小学生(6歳以上)の体重

【平成19年度】



【平成14年度】



体重は、平均体重が29.7kgで、「20～25kg未満」(28.5%)が約3割と最も高く、次いで「25～30kg未満」(21.1%)が2割を超える。

性別でみると、男子の平均体重は29.9kgで、女子の平均体重は29.4kgである。従って、男女の差は0.5kgとなっている。また、構成比では、男子は「25～30kg未満」が2割台半ばで最も高く、「20～25kg未満」が2割を超え、「30～35kg未満」が僅差で続く。一方、女子は「20～25kg未満」が3割台半ばで最も高く、次いで「25～30kg未満」で約2割となっている。

平成14年度と比較すると、全体では、「20～25kg未満」が6ポイント増加し、逆に、「30～35kg未満」が6ポイント減少している。性別では、男子で「20kg未満」が5ポイント、「25～30kg未満」が6ポイント増加している反面、「40～45kg未満」が7ポイント減少している。一方、女子は「20～25kg未満」が12ポイント増加し、逆に、「30～35kg未満」が12ポイント減少している。(図表 - 1 - 5)

#### 【性/年齢別】

<図表 - 1 - 6>

{平均体重}

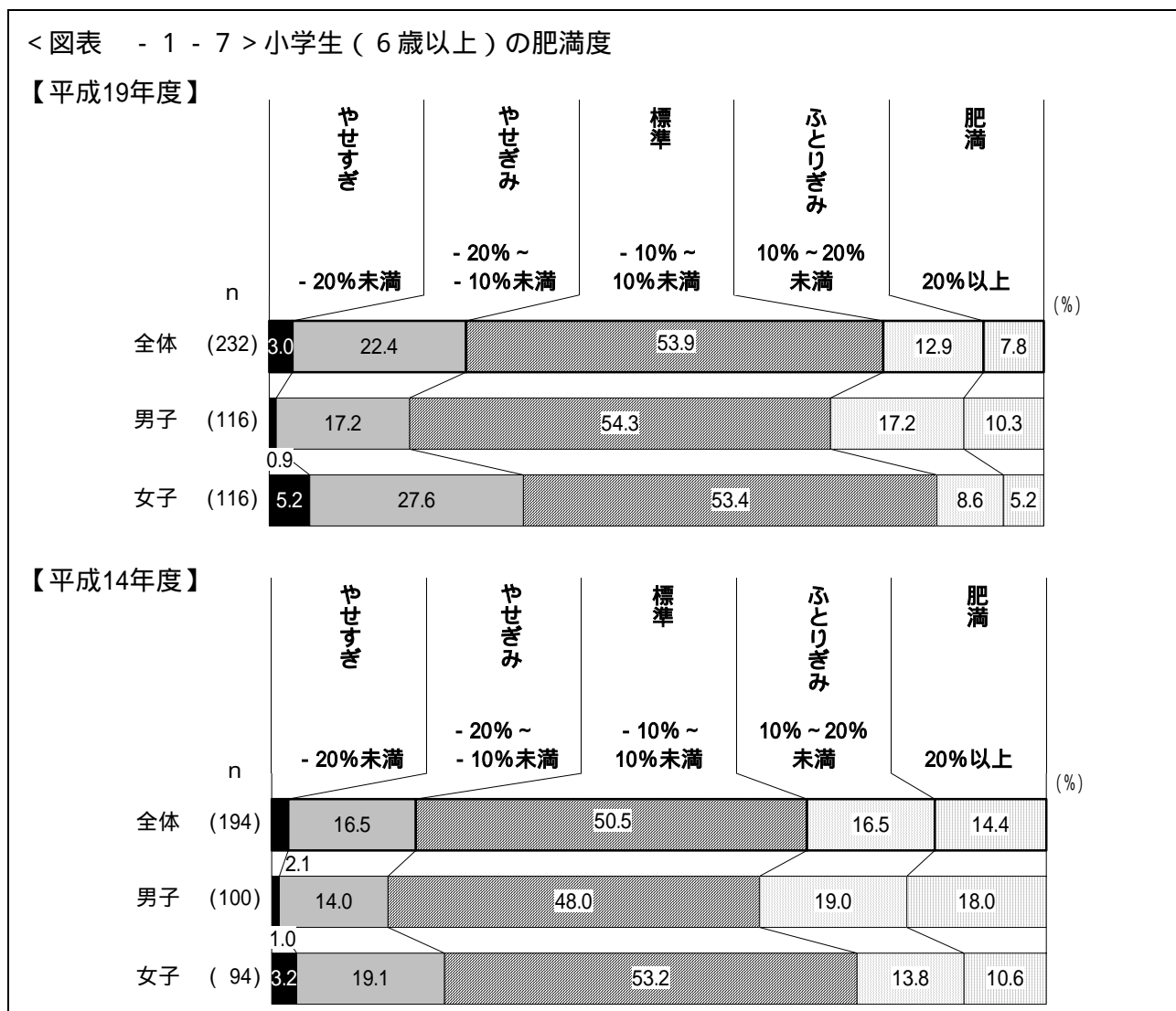
	(kg)						
	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>29.7</u>	20.8	23.0	27.5	29.7	35.6	40.5
男子	<u>29.9</u>	20.6	23.3	29.1	30.5	36.0	39.9
女子	<u>29.4</u>	21.0	22.7	25.3	28.9	35.1	40.9

「全体」には、太字で下線を施している。

男子の平均体重は、年齢が上がるほど漸増して、11歳で39.9kgとなっている。高低差は19.3kgである。一方、女子の平均体重も同様に、年齢が上がるほど漸増し、11歳で40.9kgとなる。高低差は19.9kgである。(図表 - 1 - 6)

(4) 小学生(6歳以上)の肥満度

平均肥満度は0.0%



小学生についても【中学・高校生調査】と同様に、日比式で肥満度を算出した。その結果、肥満度の平均は0.0%である。構成比で見ると、「標準：-10%~10%未満」(53.9%)が5割台半ばで最も高く、次いで「やせぎみ：-20%~-10%未満」(22.4%)が2割を超える。「ふとりぎみ：10%~20%未満」(12.9%)と「肥満：20%以上」(7.8%)はそれぞれ1割前後である。

性別で見ると、男子全体の平均は2.5%で、女子全体の平均は-2.5%である。構成比で見ると、「やせぎみ」は女子の方が男子よりも10ポイント高く約3割となっている。逆に、男子は「ふとりぎみ」で9ポイント高く約2割、「肥満」で5ポイント高く1割となっている。

平成14年度と比較すると、全体で「やせぎみ」が6ポイント増加し、逆に「肥満」が7ポイント減少している。性別では、男子で「標準」が6ポイント増加し、「肥満」が8ポイント減少している。また、女子で「やせぎみ」が9ポイント増加し、「ふとりぎみ」と「肥満」で、それぞれ5ポイント減少している。(図表 - 1 - 7)

【性 / 年齢別】

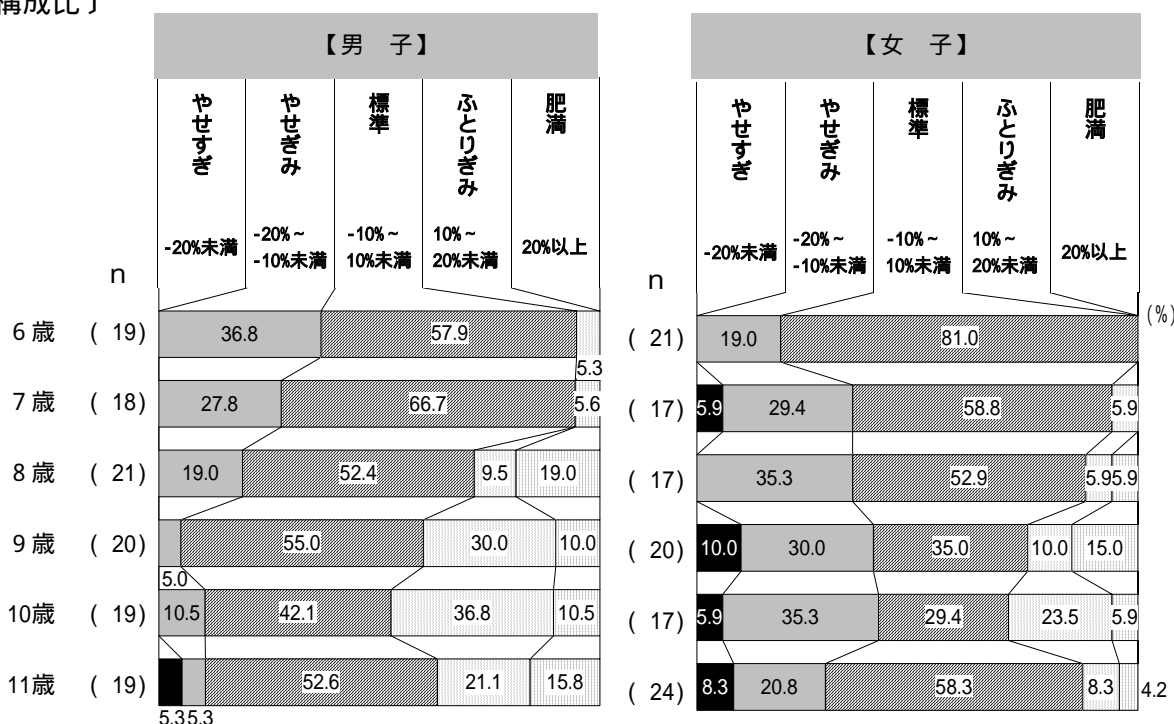
< 図表 - 1 - 8 >

〔平均肥満度〕

	全体	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳
全体	<u>0.0</u>	-3.4	-3.1	1.4	0.6	3.5	1.0
男子	<u>2.5</u>	-4.4	-2.8	3.7	4.1	6.7	7.1
女子	<u>-2.5</u>	-2.6	-3.4	-1.3	-3.0	0.0	-3.9

「全体」には、太字で下線を施している。

〔構成比〕



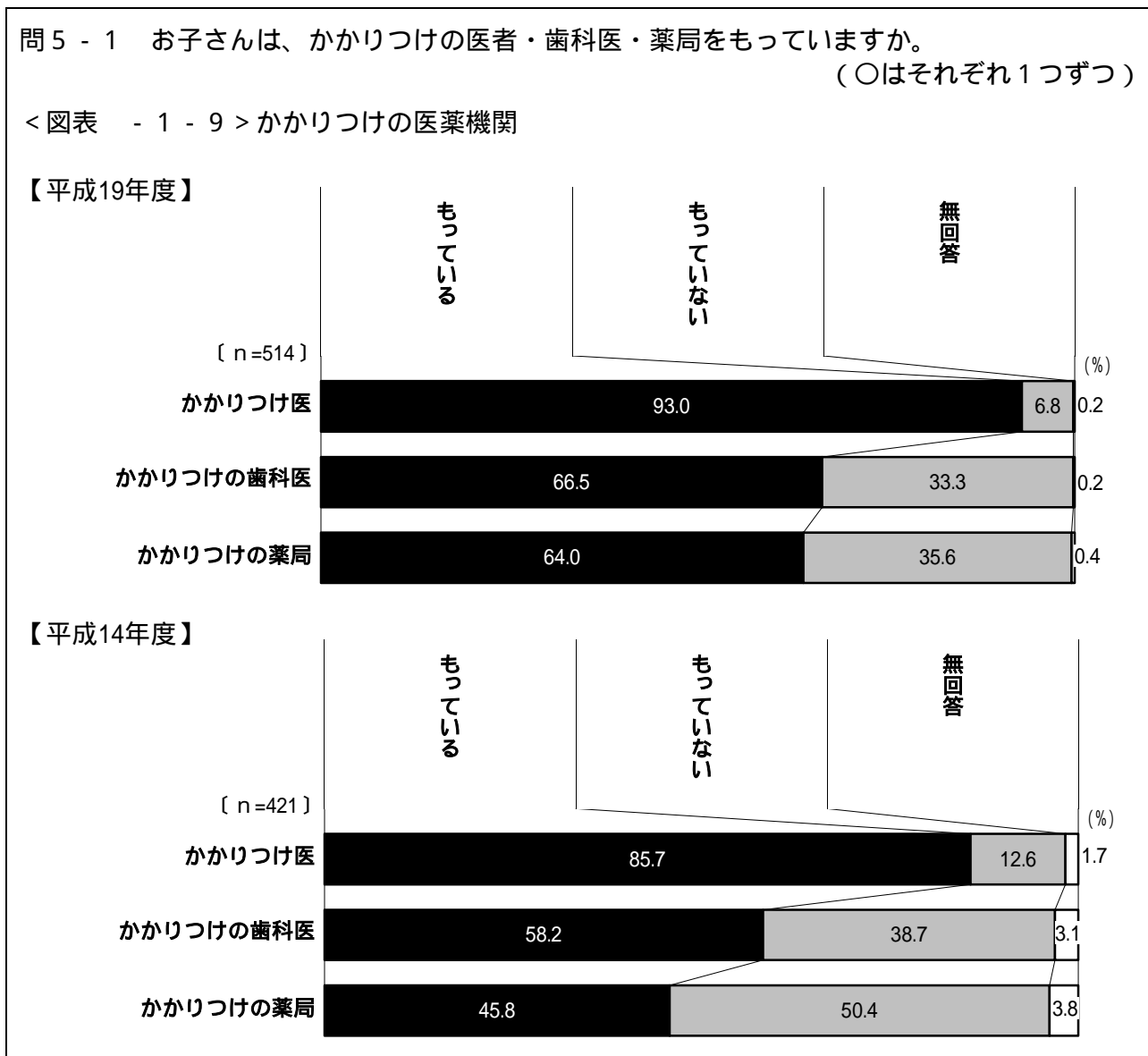
男女ともに人数の少ない年齢層が多いが、『健康日本21』の指標に合わせるため掲載する。

平均肥満度でみると、男子では年齢が上がるほど高くなり、10歳で6.7%、11歳で7.1%となっている。女子では、10歳を除いてマイナスであり、11歳で最も低く - 3.9%となっている。

構成比でみると、男子では「やせぎみ」が6歳で3割台半ば、7歳で約3割と比較的高い。いずれの年齢層でも「標準」が高くなっているが、中でも、7歳は6割台半ばとなっている。また、「ふとりぎみ」は10歳で3割台半ば、「肥満」は8歳で約2割と最も高い。一方、女子では、「やせぎみ」は8歳と10歳が3割台半ばで並び比較的高くなっている。「標準」は6歳で8割を超え突出し、11歳が約6割で続く。また、「ふとりぎみ」は10歳で2割台半ば、「肥満」は9歳で1割台半ばと最も高い。(図表 - 1 - 8)

(5) かかりつけの医薬機関

“かかりつけ医”を「もっている」が9割台半ばと高い



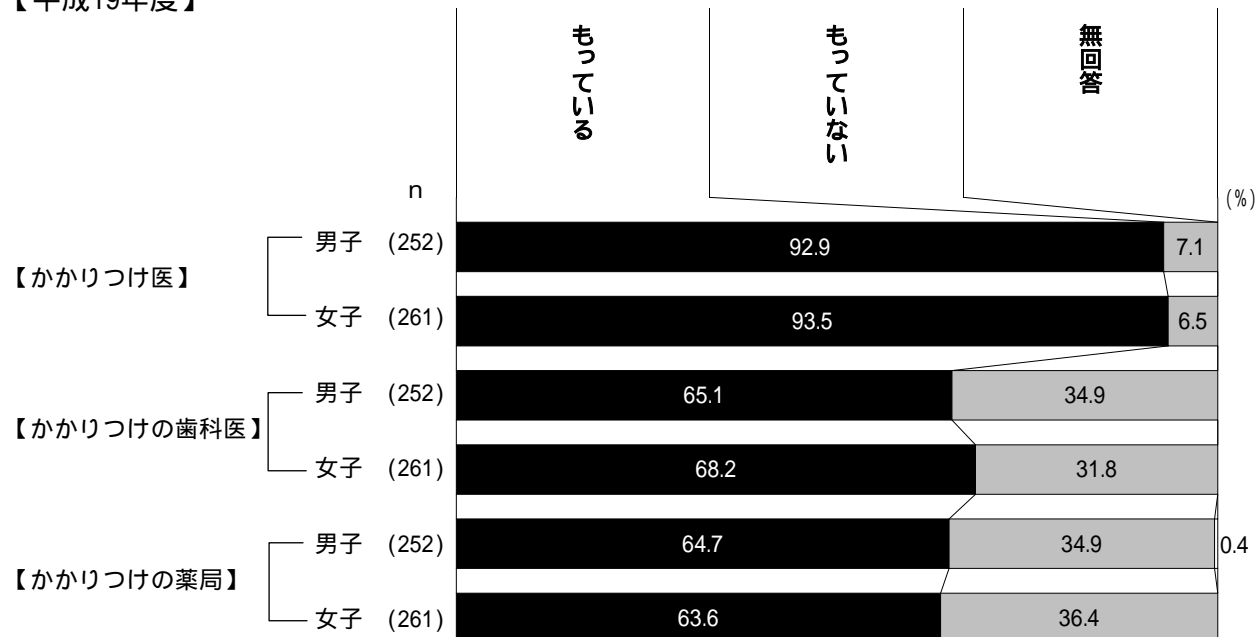
かかりつけの医薬機関では、「もっている」は“かかりつけ医”(93.0%)が9割台半ばと最も高く、“かかりつけの歯科医”(66.5%)と“かかりつけの薬局”(64.0%)が6割台半ばで並ぶ。なお、【一般区民調査】と【中学・高校生調査】では、“かかりつけの薬局”を「もっていない」が「もっている」を上回っていたが、この【乳幼児・小学生調査】は、「もっている」の方が上回っている。

平成14年度と比較すると、「もっている」がいずれにおいても増加しており、中でも、“かかりつけの薬局”は18ポイント増加している。そのほか、“かかりつけ医”で7ポイント、“かかりつけの歯科医”で8ポイント増加となっている。(図表 - 1 - 9)

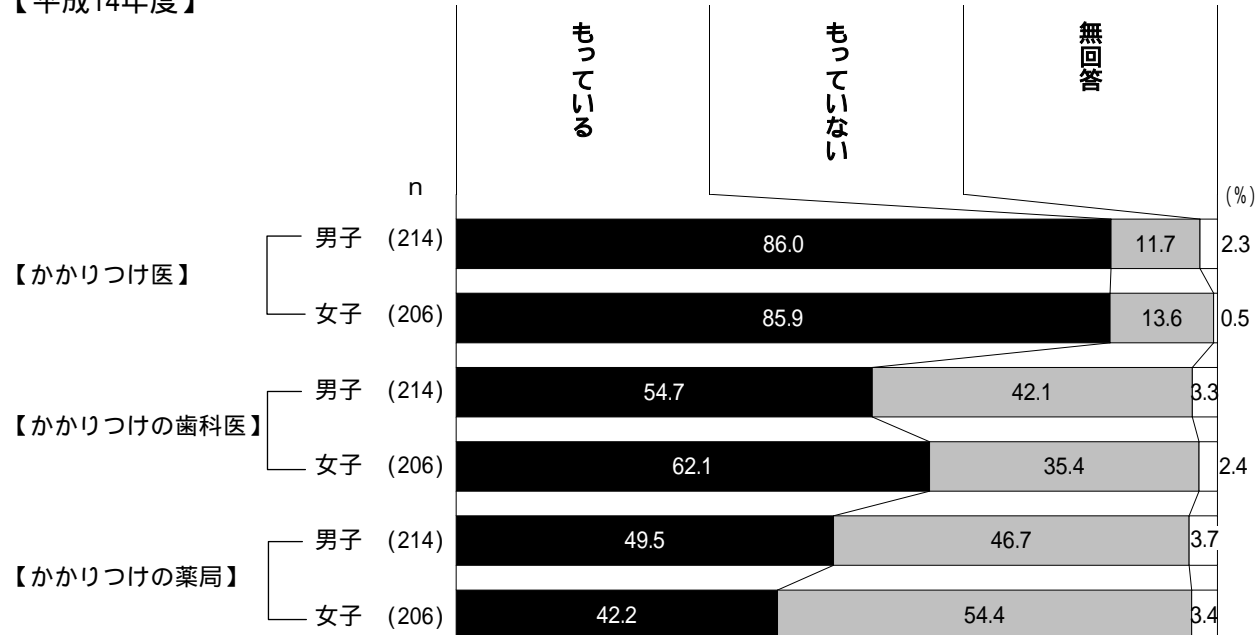
【性別】

<図表 - 1 - 10>

【平成19年度】



【平成14年度】



性別では、いずれの医薬機関においても、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、いずれの医薬機関も「もっている」は男女ともに増加している。特に、増加が目立つのは、“かかりつけの薬局”で、男子が15ポイント、女子が21ポイント増加していることがあげられる。また、“かかりつけの歯科医”では、男子で10ポイント増加している。(図表 - 1 - 10)

(6) かかりつけの医薬機関を選んだ理由

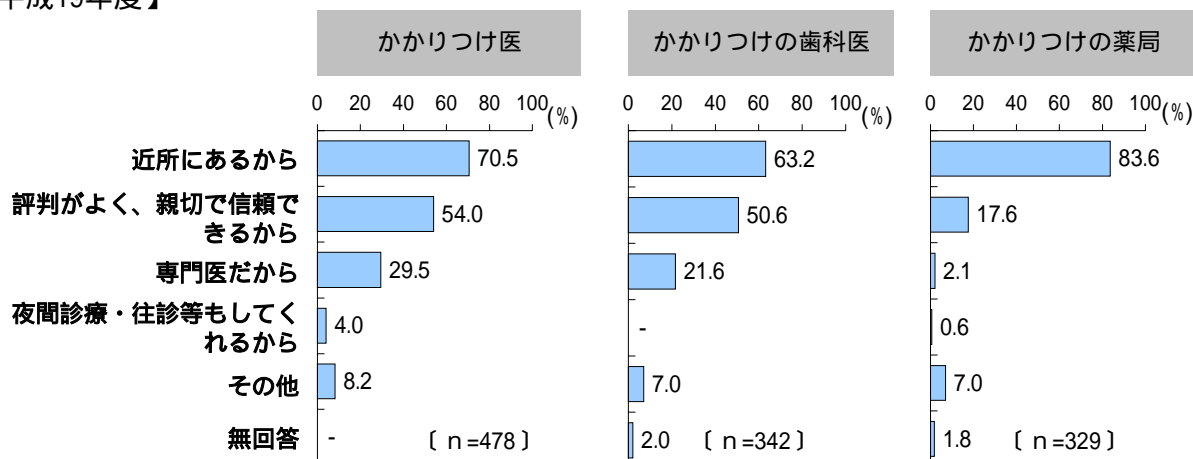
いずれの医薬機関も「近所にあるから」が最も大きな理由

(問5 - 1で、1つでも「1 もっている」とお答えの方に)

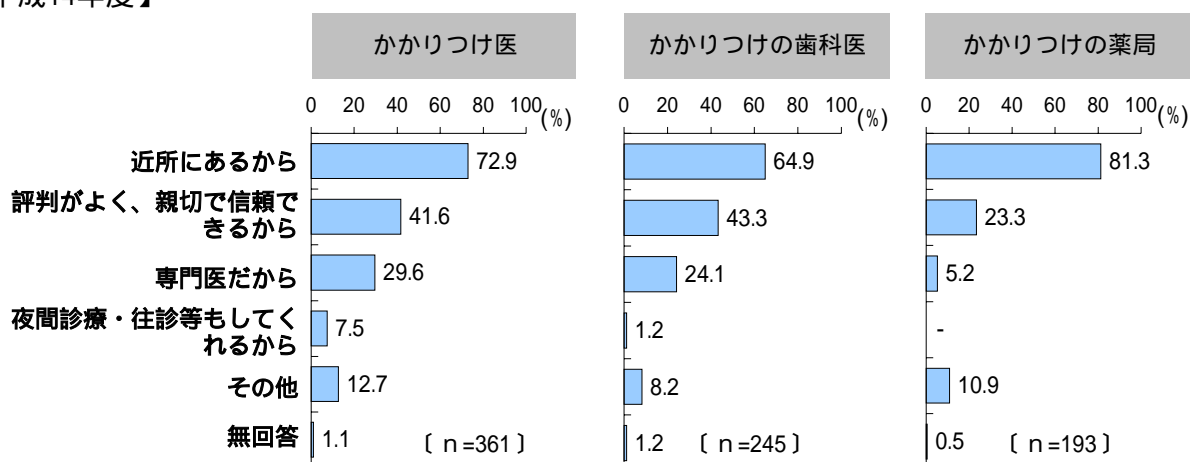
問5 - 2 どのような理由で選びましたか。(○はそれぞれいくつでも)

<図表 - 1 - 11> かかりつけの医薬機関を選んだ理由

【平成19年度】



【平成14年度】



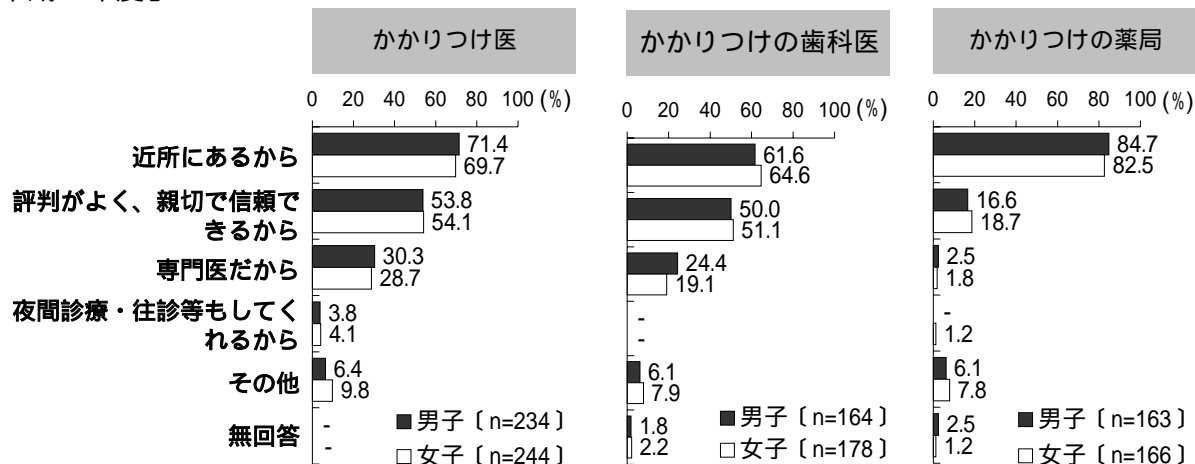
問5 - 1で、かかりつけの医薬機関を「もっている」と回答した人に、選んだ理由を聞いた。その結果、いずれの医薬機関とも「近所にあるから」が最も高く、特に、“かかりつけの薬局”(83.6%)は8割台半ばと高くなっている。2番目の理由としては、いずれも「評判がよく、親切で信頼できるから」であり、“かかりつけ医”(54.0%)は5割台半ば、“かかりつけの歯科医”(50.6%)は5割となっている。

平成14年度と比較すると、「評判がよく、親切で信頼できるから」での変化が大きく、“かかりつけ医”で12ポイント、“かかりつけの歯科医”で7ポイント増加している。その反面、“かかりつけの薬局”は6ポイント減少している。(図表 - 1 - 11)

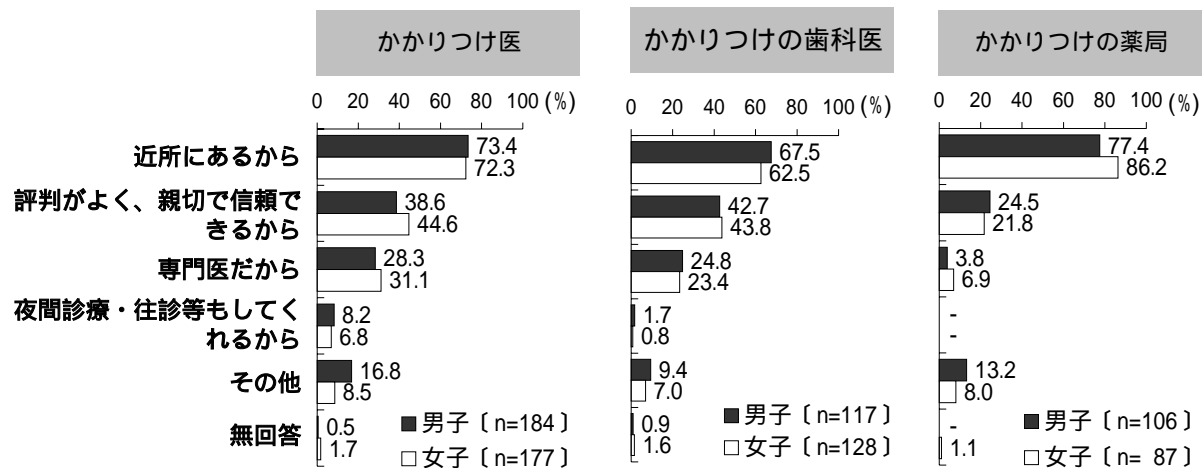
【性別】

< 図表 - 1 - 12 >

【平成19年度】



【平成14年度】



性別でみると、“かかりつけ医”と“かかりつけの薬局”では、特に大きな違いはみられない。“かかりつけの歯科医”では、「専門医だから」で男子の方が女子よりも5ポイント高くなっている。

平成14年度と比較すると、“かかりつけ医”は「評判がよく、親切で信頼できるから」が男女ともに増え、男子で15ポイント、女子で10ポイント増加となっている。“かかりつけの歯科医”でも、「評判がよく、親切で信頼できるから」は男女ともに増えており、ともに7ポイント増加している。“かかりつけの薬局”では、「近所にあるから」が男子で7ポイント増加し、逆に、男子は「評判がよく、親切で信頼できるから」が8ポイント減少している。また、女子は「専門医だから」で5ポイント減少している。(図表 - 1 - 12)

(7) かかりつけの医薬機関をもっていない理由

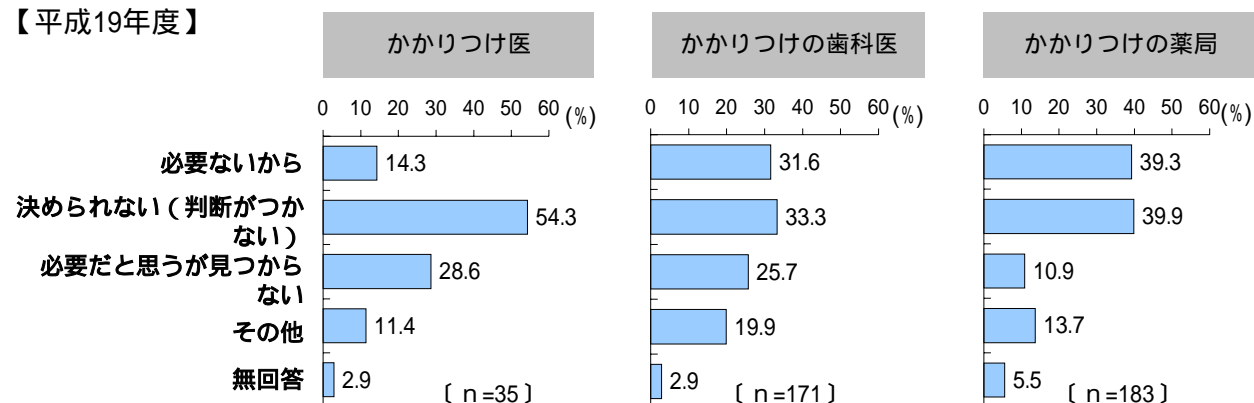
“かかりつけ医”は「決められない」が5割台半ばで目立つ

(問5 - 1で、1つでも「2 もっていない」とお答えの方に)

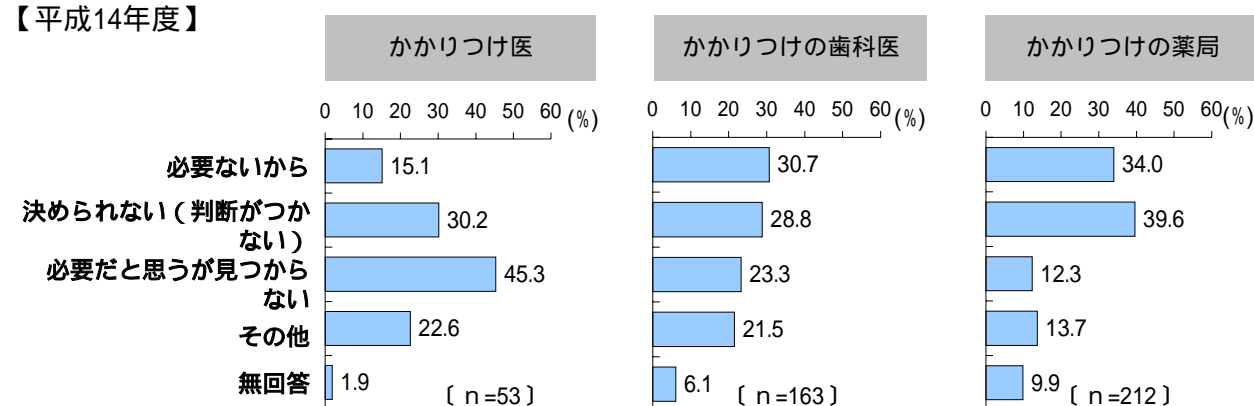
問5 - 3 もっていない理由に をつけてください(○はそれぞれいくつでも)

<図表 - 1 - 13> かかりつけの医薬機関をもっていない理由

【平成19年度】



【平成14年度】



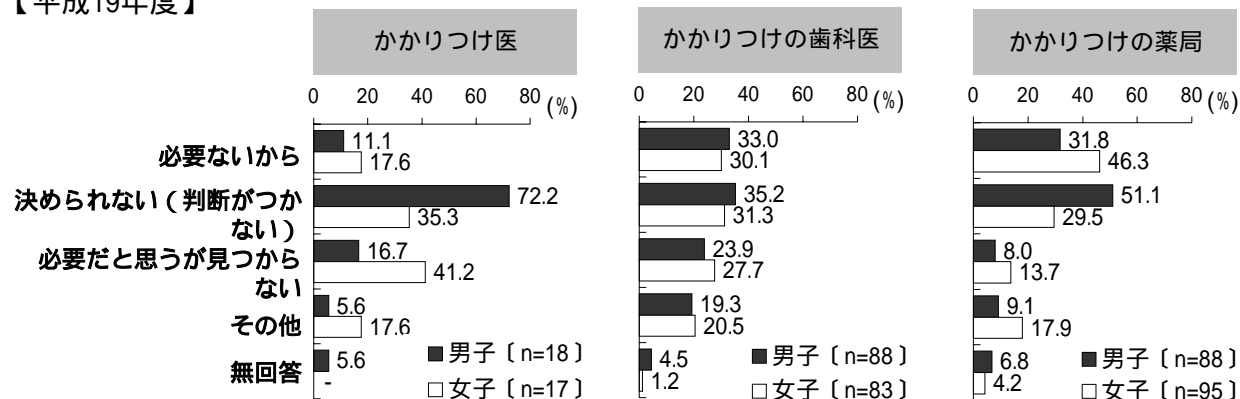
問5 - 1で、かかりつけの医薬機関を「もっていない」と回答した人に、もっていない理由を聞いた。その結果、“かかりつけ医”では、「決められない(判断がつかない)」(54.3%)が5割台半ばと最も高くなっている。“かかりつけの歯科医”と“かかりつけの薬局”では、「必要ないから」、「決められない(判断がつかない)」が並んで高く、特に、“かかりつけの薬局”は約4割となっている。

平成14年度と比較すると、「必要ないから」は“かかりつけの薬局”で5ポイント、「決められない(判断がつかない)」は“かかりつけ医”で24ポイント、“かかりつけの歯科医”で5ポイント増加している。一方で、「必要だと思うが見つからない」は“かかりつけ医”で17ポイント減少している。(図表 - 1 - 13)

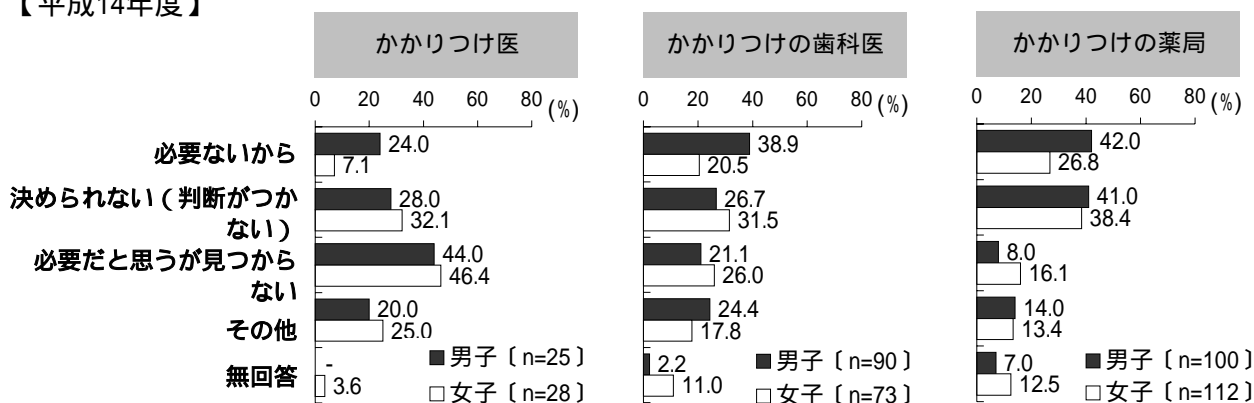
【性別】

< 図表 - 1 - 14 >

【平成19年度】



【平成14年度】



平成19年度の“かかりつけ医”は、男女ともに人数が少ないので参考として掲載するのみに留め、文中では述べていない。

性別でみると、“かかりつけの歯科医”では特に大きな違いはみられない。“かかりつけの薬局”では、「決められない(判断がつかない)」は男子の方が女子よりも22ポイント高くなっている。逆に、「必要ないから」は女子が15ポイント上回り、「必要だと思が見つかからない」でも女子は6ポイント高くなっている。

平成14年度と比較すると、“かかりつけの歯科医”と“かかりつけの薬局”ともに、「必要ないから」が男子で減少し、女子で増加している。順に列挙すると、“かかりつけの歯科医”は男子で6ポイント減少し、女子で10ポイント増加している。“かかりつけの薬局”は男子で10ポイント減少し、女子で20ポイント増加している。このほか、“かかりつけの歯科医”と“かかりつけの薬局”ともに、「決められない(判断がつかない)」が男子で増加しており、“かかりつけの歯科医”で9ポイント、“かかりつけの薬局”で10ポイント増加している。また、“かかりつけの薬局”における「決められない(判断がつかない)」は、女子で9ポイント減少している。(図表 - 1 - 14)

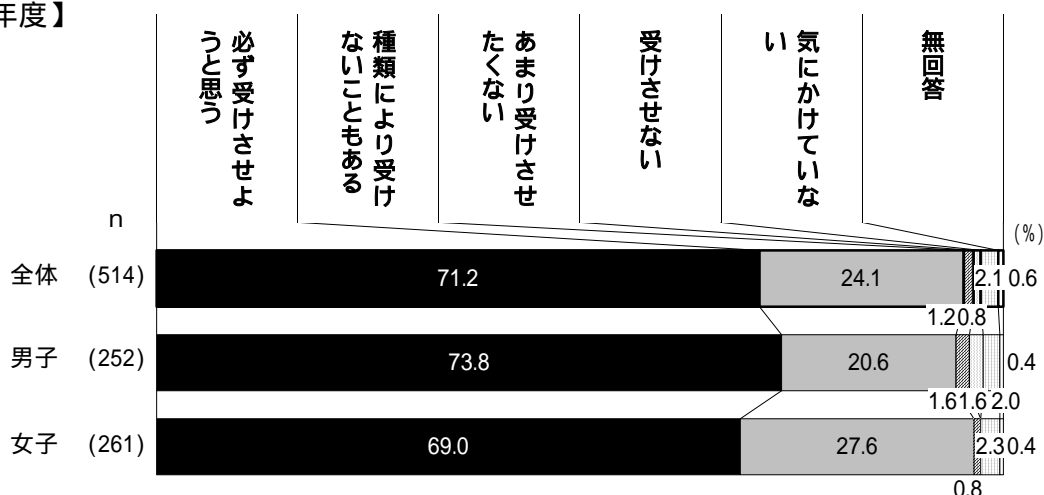
(8) 予防接種の心がけ

「必ず受けさせようと思う」が7割を超え最も高い

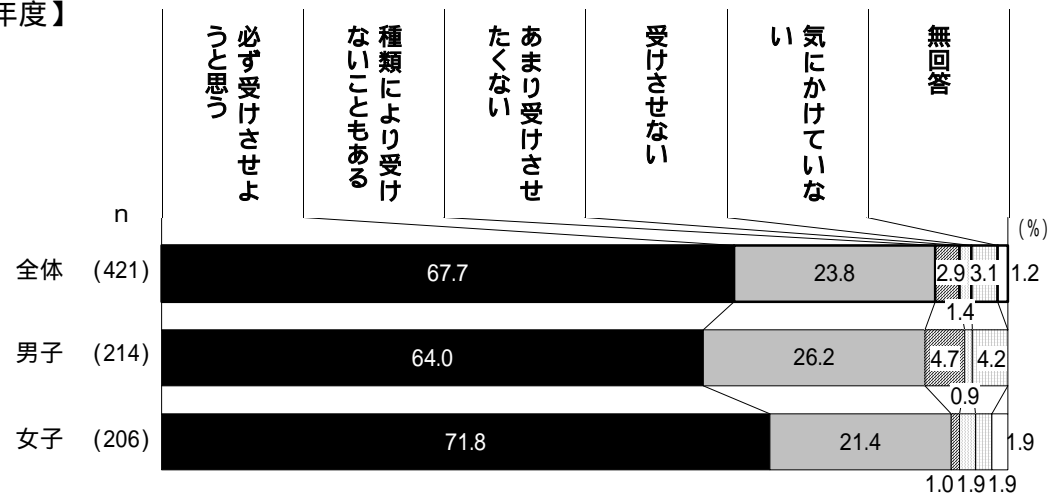
問6 あなたは、お子さんに定期的に予防接種をうけさせるよう心がけていますか。  
( は1つだけ)

< 図表 - 1 - 15 > 予防接種の心がけ

【平成19年度】



【平成14年度】



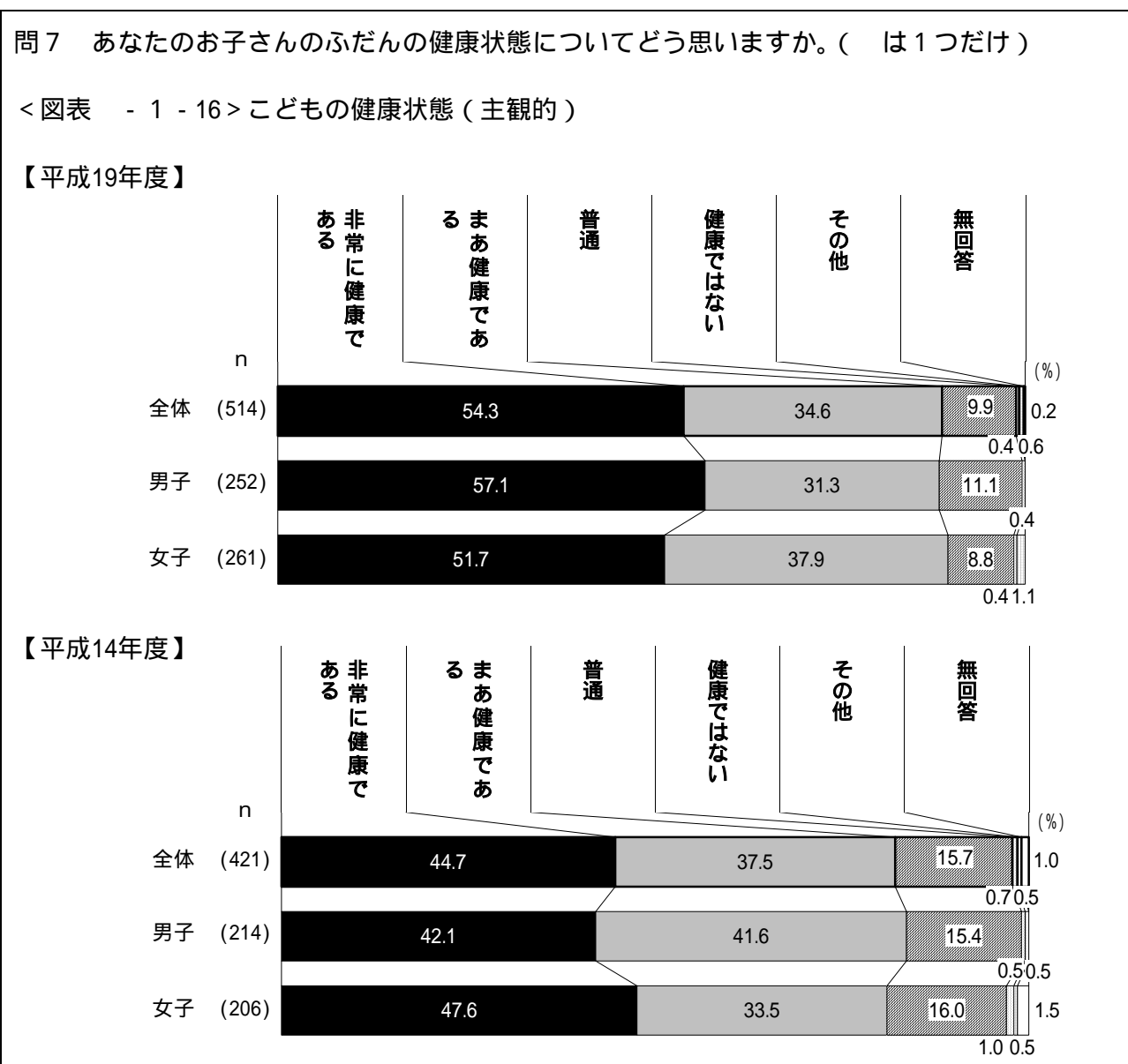
予防接種の心がけでは、「必ず受けさせようと思う」(71.2%)が7割を超え最も高くなっている。「種類により受けたくないこともある」(24.1%)が2割台半ばである。その一方で、「あまり受けさせたくない」(1.2%)、「受けさせない」(0.8%)、「気にかけていない」(2.1%)といった回答も少数ながらみられる。

性別でみると、「必ず受けさせようと思う」は男子の方が女子よりも5ポイント高く7割台半ばとなっている。逆に、「種類により受けたくないこともある」は女子が7ポイント上回り約3割である。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、「必ず受けさせようと思う」が男子で10ポイント増加し、「種類により受けたくないこともある」が女子で6ポイント増加している。(図表 - 1 - 15)

(9) こどもの健康状態(主観的)

《健康である》が約9割を占める



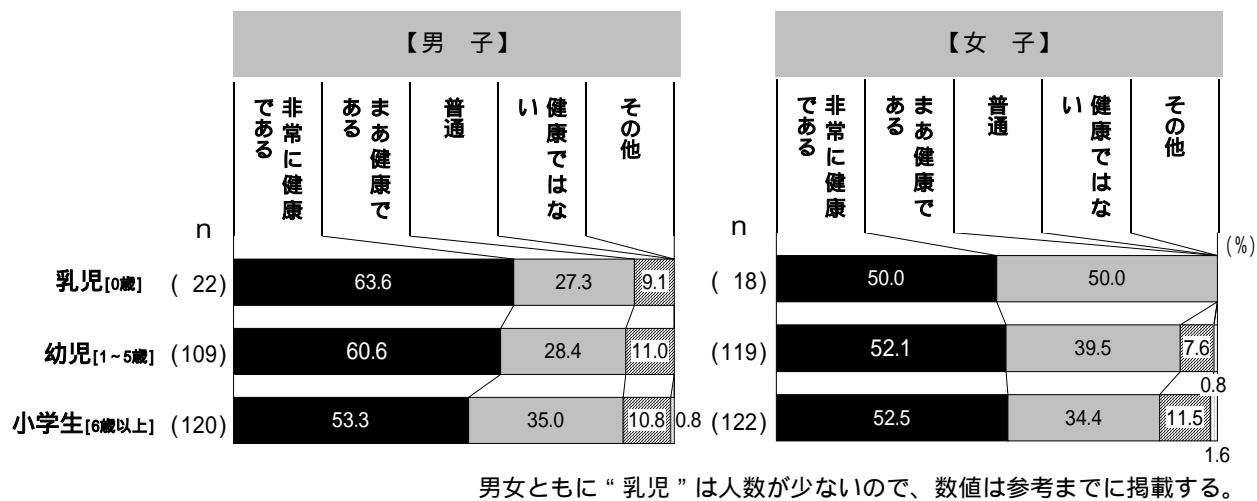
現在の健康状態(主観的)では、「非常に健康である」(54.3%)が5割台半ばで最も高く、「まあ健康である」(34.6%)が3割台半ばで続く。これらを合わせると《健康である》(88.9%)は約9割を占める。一方、「普通」(9.9%)は約1割である。

性別では、「非常に健康である」は男子の方が女子よりも5ポイント高く約6割で、「まあ健康である」は女子の方が7ポイント上回り約4割となっている。ただし、《健康である》としてみた場合の違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では「非常に健康である」が10ポイント増加し、《健康である》としてみた場合、7ポイント増加している。性別では、男子は《健康である》が5ポイント増加している。一方、女子は《健康である》が9ポイント増加し、「普通」が7ポイント減少している。なお、男子は「非常に健康である」が15ポイントと増加幅が大きい。(図表 - 1 - 16)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 1 - 17 >



男子では、「非常に健康である」が幼児で6割、小学生で5割台半ばとなっている。《健康である》としてみた場合、幼児と小学生ともに約9割を占めている。一方、女子では、「非常に健康である」が幼児と小学生ともに5割を超える。《健康である》としてみた場合、幼児は9割を超え、小学生は8割台半ばとなっている。(図表 - 1 - 17)

## 2 健康づくりについて

### (1) こどもの健康に関する情報源

「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」が7割で最も高い

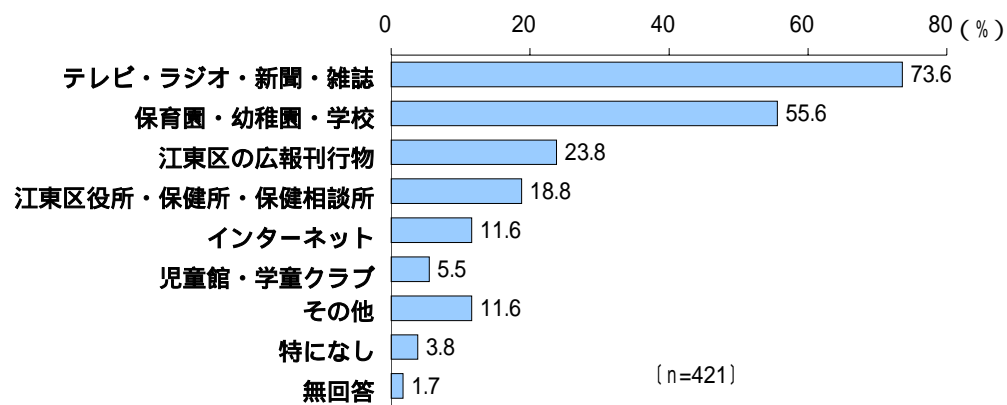
問8 あなたは、お子さんの健康に関する知識や情報をどのようなところから得ていますか。  
(はいくつでも)

<図表 - 2 - 1> こどもの健康に関する情報源

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの健康に関する情報源としては、「テレビ・ラジオ・新聞・雑誌」(70.0%)が7割で最も高く、次いで「保育園・幼稚園・学校」(48.4%)が約5割となっている。このほか、「インターネット」(33.5%)は3割台半ば、「江東区の広報刊行物」(26.1%)は2割台半ば、「江東区役所・保健所・保健相談所」(17.5%)は約2割と続く。

平成14年度と比較すると、「インターネット」が22ポイントと大きく増加している。逆に、「保育園・幼稚園・学校」は7ポイント減少している。(図表 - 2 - 1)

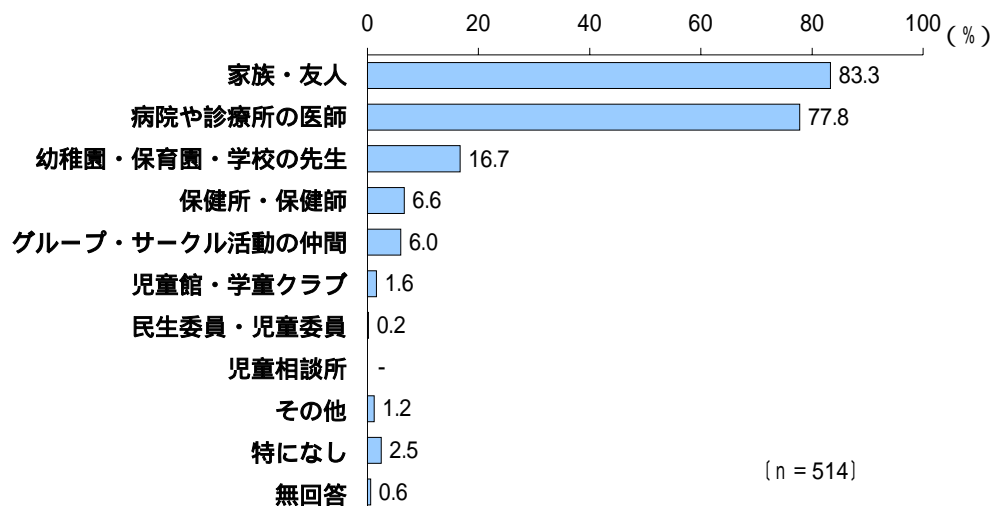
(2) こどもの健康に関する相談相手

「家族・友人」と「病院や診療所の医師」の上位2項目が突出

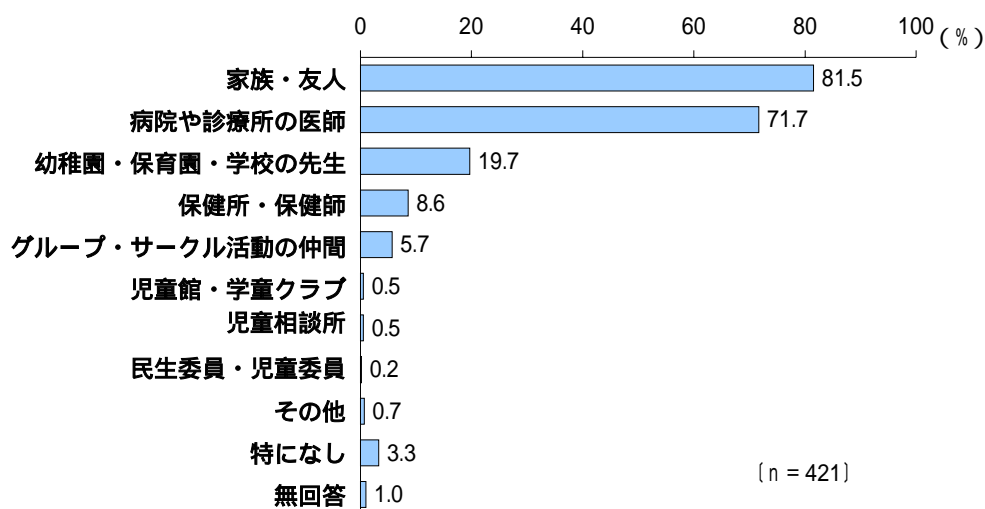
問9 お子さんの健康に関することを誰に相談しますか。(はいいくつでも)

<図表 - 2 - 2> こどもの健康に関する相談相手

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの健康に関する相談相手としては、「家族・友人」(83.3%)が8割台半ばで最も高く、「病院や診療所の医師」(77.8%)が約8割で続き、これら上位2項目が突出している。また、「幼稚園・保育園・学校の先生」(16.7%)は1割台半ばである。

平成14年度と比較すると、「病院や診療所の医師」が6ポイント増加している。(図表 - 2 - 2)

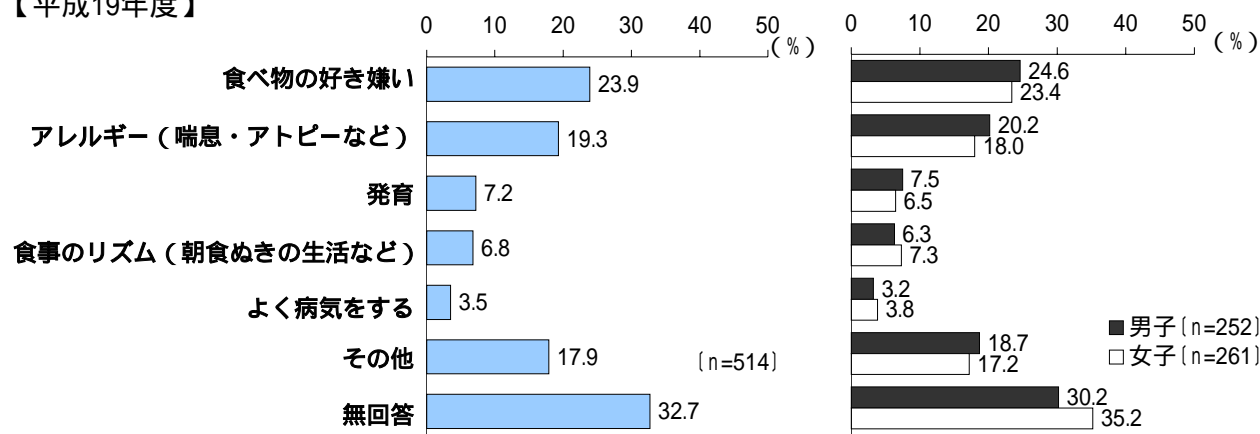
(3) こどもの健康状態についての悩み

「食べ物の好き嫌い」が2割台半ば、「アレルギー（喘息・アトピーなど）」が約2割

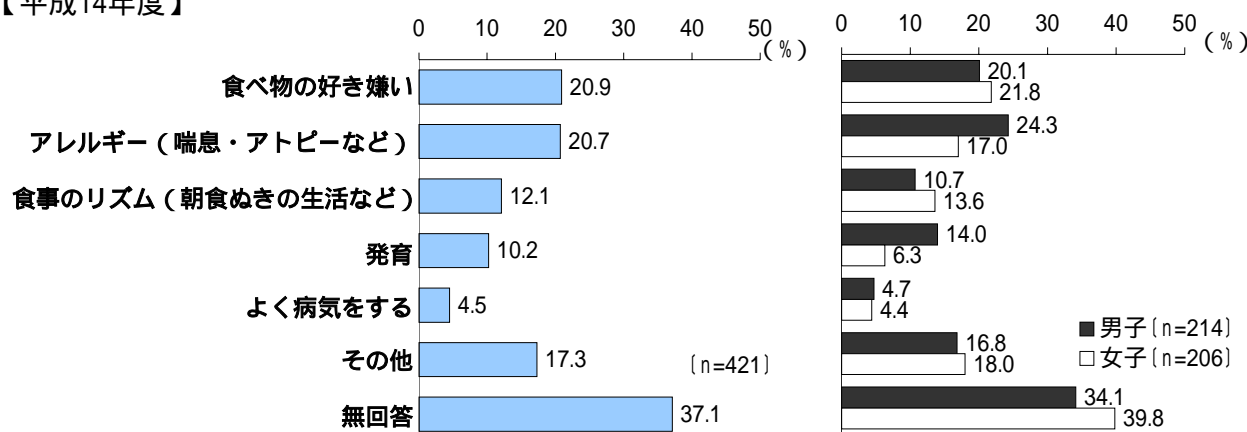
問10 あなたのお子さんの健康状態について困ったり悩んだりしていることはありますか。  
(はいいくつでも)

<図表 - 2 - 3> こどもの健康状態についての悩み

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの健康状態についての悩みとしては、「食べ物の好き嫌い」(23.9%)が2割台半ばで最も高くなっている。次いで「アレルギー(喘息・アトピーなど)」(19.3%)が約2割、「発育」(7.2%)と「食事のリズム(朝食ぬきの生活など)」(6.8%)が約1割である。また、「無回答」(32.7%)が3割を超え、「その他」(17.9%)も比較的高い。「無回答」については、「特に悩みがない」ということが考えられる。「その他」の内容には、「便秘」や「夜更かし」などがあげられている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、「食事のリズム(朝食ぬきの生活など)」が5ポイント減少している。性別では、「食べ物の好き嫌い」が男子で5ポイント増加している。また、「発育」は男子で7ポイント、「食事のリズム(朝食ぬきの生活など)」は女子で6ポイント減少している。(図表 - 2 - 3)

【性 / 年齢別・こどもの健康状態（主観的）別】

< 図表 - 2 - 4 > (全項目)

(%)

		n	食べ物の好き嫌い	アレルギー（喘息・アトピーなど）	発育	食事のリズム（朝食ぬきの生活など）	よく病気をする	その他	無回答
性 / 年齢別	男子	乳児 [0歳]	-	22.7	13.6	9.1	-	9.1	50.0
		幼児 [1~5歳]	24.8	20.2	8.3	10.1	4.6	17.4	30.3
		小学生 [6歳以上]	28.3	20.0	5.8	2.5	2.5	21.7	26.7
	女子	乳児 [0歳]	5.6	16.7	-	-	5.6	33.3	38.9
		幼児 [1~5歳]	31.1	12.6	7.6	9.2	2.5	16.0	31.9
		小学生 [6歳以上]	18.0	23.0	6.6	6.6	4.1	16.4	38.5
(主観的)健康状態別	非常に健康である	279	21.1	10.4	5.4	4.7	1.8	22.2	38.7
	まあ健康である	178	28.1	23.6	7.9	9.6	2.8	11.2	30.3
	普通	51	27.5	45.1	9.8	7.8	13.7	19.6	9.8
	健康ではない	2	-	100.0	-	-	50.0	-	-

性 / 年齢別では、男女ともに「乳児」は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。  
 こどもの健康状態（主観的）別の「その他」は分析を明確化するため省略している。  
 こどもの健康状態（主観的）別の「健康ではない」は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。  
 図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を[ ]で区別するようにした。なお、下を  
 向く実線の矢印は漸増傾向を表している。

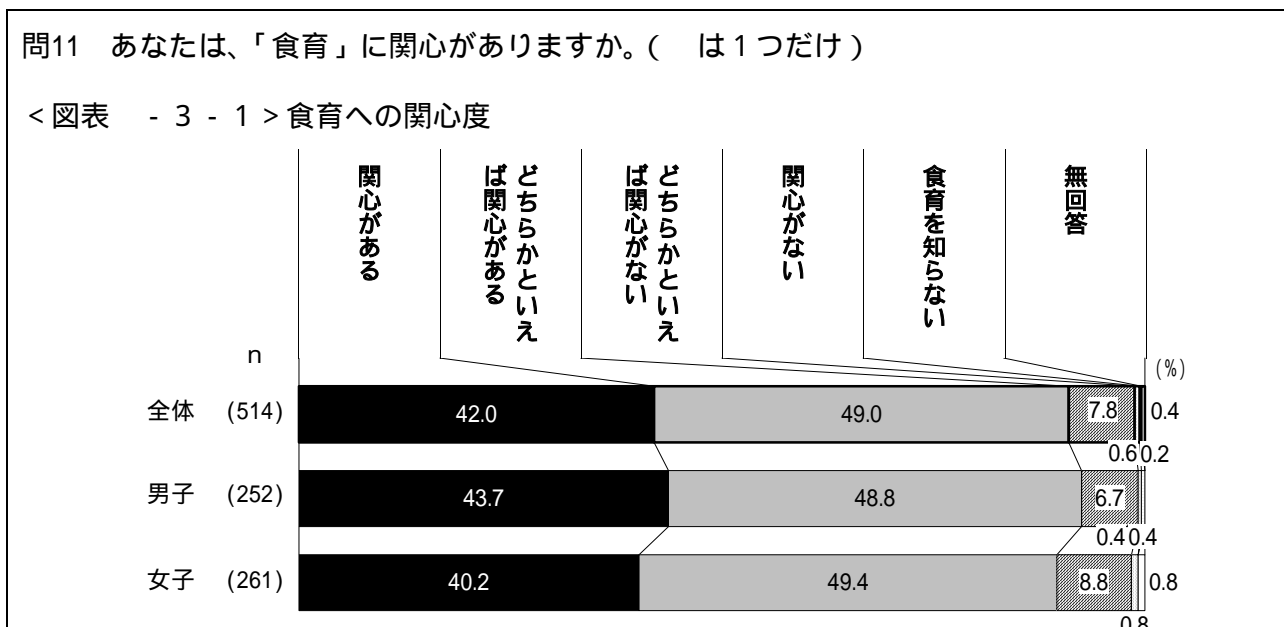
男子では、「食べ物の好き嫌い」が小学生で約3割と高く、「アレルギー（喘息・アトピーなど）」は幼児と小学生で2割となっている。また、「食事のリズム（朝食ぬきの生活など）」は幼児で1割である。一方、女子では、「食べ物の好き嫌い」が幼児で3割を超え高く、「アレルギー（喘息・アトピーなど）」が小学生で2割台半ばとなっている。

『問7 こどもの健康状態（主観的）』の回答別でみると、「アレルギー（喘息・アトピーなど）」、「発育」、「よく病気をする」で、健康ではないほど比率も高い傾向がみられる。（図表 - 2 - 4）

### 3 食生活・栄養について

#### (1) 食育への関心度

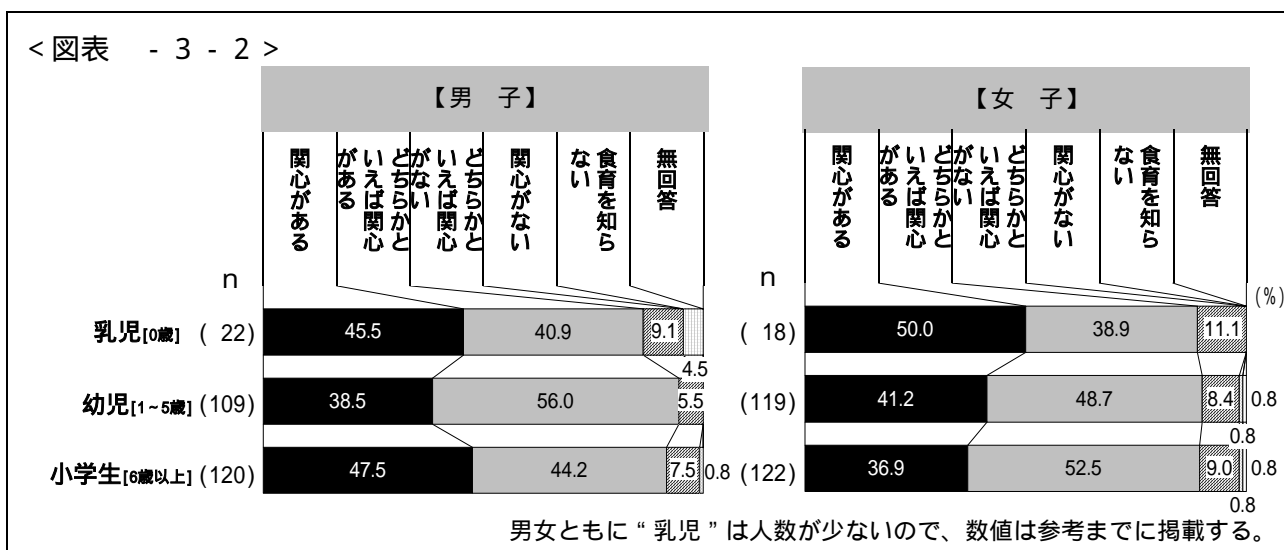
《関心がある》は9割を超える



食育への関心度としては、「関心がある」(42.0%)が4割を超え、「どちらかといえば関心がある」(49.0%)が約5割で最も高くなっている。これらを合わせると《関心がある》(91.0%)は9割を超える。一方、「どちらかといえば関心がない」(7.8%)と「関心がない」(0.6%)を合わせた《関心がない》(8.4%)は約1割となっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 1)

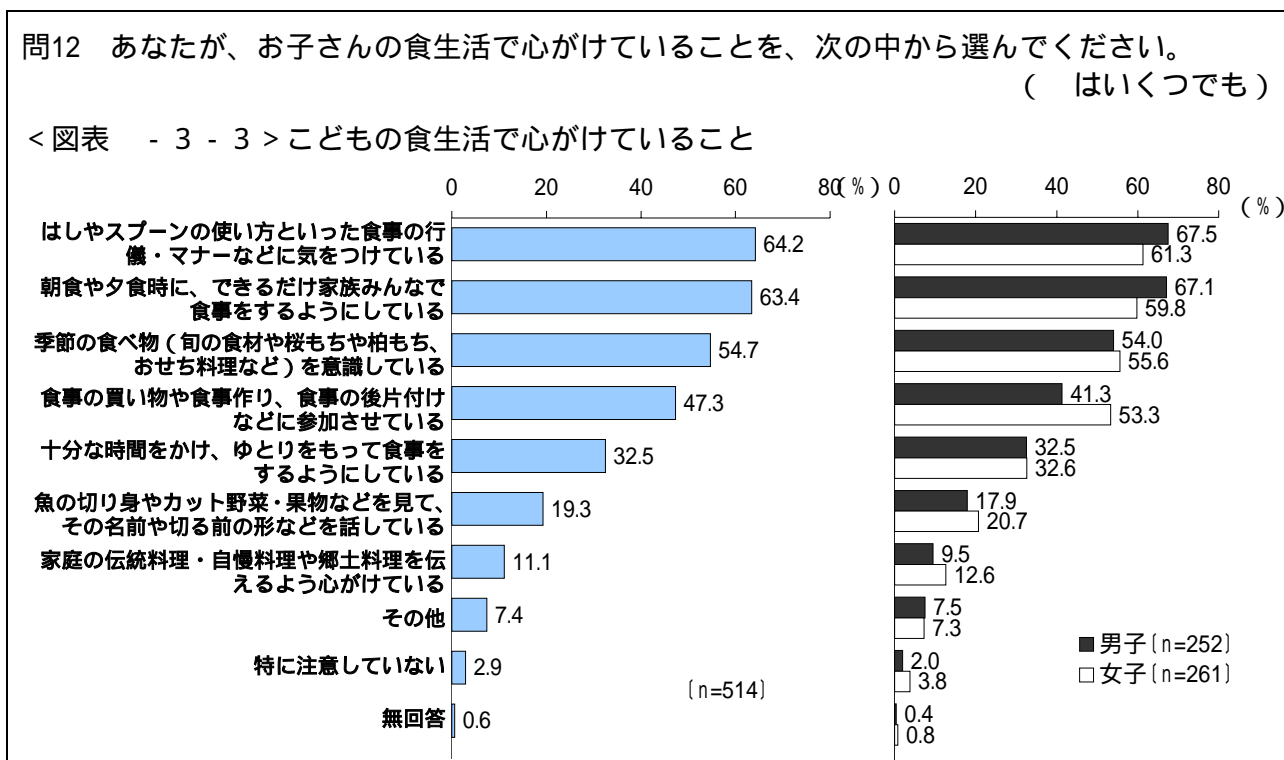
#### 【性/年齢別】



男女ともに《関心がある》は高く、中でも、男子の幼児は9割台半ばとなっている。(図表 - 3 - 2)

(2) こどもの食生活で心がけていること

「食事の行儀・マナー」と「できるだけ家族みんなで食事をする」が上位2項目



こどもの食生活で心がけていることとしては、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」(64.2%)と「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」(63.4%)の上位2項目が6割台半ばで並ぶ。このほか、「季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している」(54.7%)が5割台半ば、「食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている」(47.3%)が約5割と続く。

性別でみると、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は男子の方が女子よりも6ポイント高く、「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」でも男子は7ポイント上回る。逆に、「食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている」は、女子の方が12ポイント高くなっている。(図表 - 3 - 3)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 3 - 4 > (全項目)

(%)

		n	はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている	朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている	季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している	食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている	十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている	魚の切り身やカット野菜・果物などを見て、その名前や切る前の形などを話している	家庭の伝統料理・自慢料理や郷土料理を伝えるよう心がけている	その他	特に注意していない	無回答	
性 / 年齢別	男子	乳児 [0歳]	22	45.5	50.0	36.4	-	45.5	4.5	-	22.7	-	4.5
		幼児 [1~5歳]	109	64.2	70.6	56.9	37.6	36.7	21.1	9.2	6.4	1.8	-
		小学生 [6歳以上]	120	74.2	66.7	54.2	52.5	26.7	17.5	11.7	5.8	2.5	-
	女子	乳児 [0歳]	18	22.2	38.9	38.9	-	61.1	16.7	11.1	16.7	11.1	-
		幼児 [1~5歳]	119	58.0	61.3	56.3	46.2	35.3	25.2	10.9	10.1	4.2	0.8
		小学生 [6歳以上]	122	71.3	61.5	56.6	68.0	25.4	17.2	13.1	3.3	2.5	0.8

性 / 年齢別では、男女ともに「乳児」は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。  
 図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を [ ] で区別するようにした。なお、下を向く実線の矢印は漸増傾向を表している。

男子では、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は年齢が上がるほど漸増する傾向があり、小学生で7割台半ばとなっている。「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」、「季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している」、「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」、「魚の切り身やカット野菜・果物などを見て、その名前や切る前の形などを話している」は幼児で高く、特に、「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」は7割である。また、「食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている」は小学生で高く5割を超える。一方、女子では、小学生で高い項目が多く、特に、「はしやスプーンの使い方といった食事の行儀・マナーなどに気をつけている」は7割を超える。「朝食や夕食時に、できるだけ家族みんなで食事をするようにしている」、「季節の食べ物(旬の食材や桜もちや柏もち、おせち料理など)を意識している」については、幼児と小学生の差は小さいが、「食事の買い物や食事作り、食事の後片付けなどに参加させている」は小学生で約7割と高い。また、男子と同様に、「十分な時間をかけ、ゆとりをもって食事をするようにしている」、「魚の切り身やカット野菜・果物などを見て、その名前や切る前の形などを話している」は幼児で高くなっている。(図表 - 3 - 4)

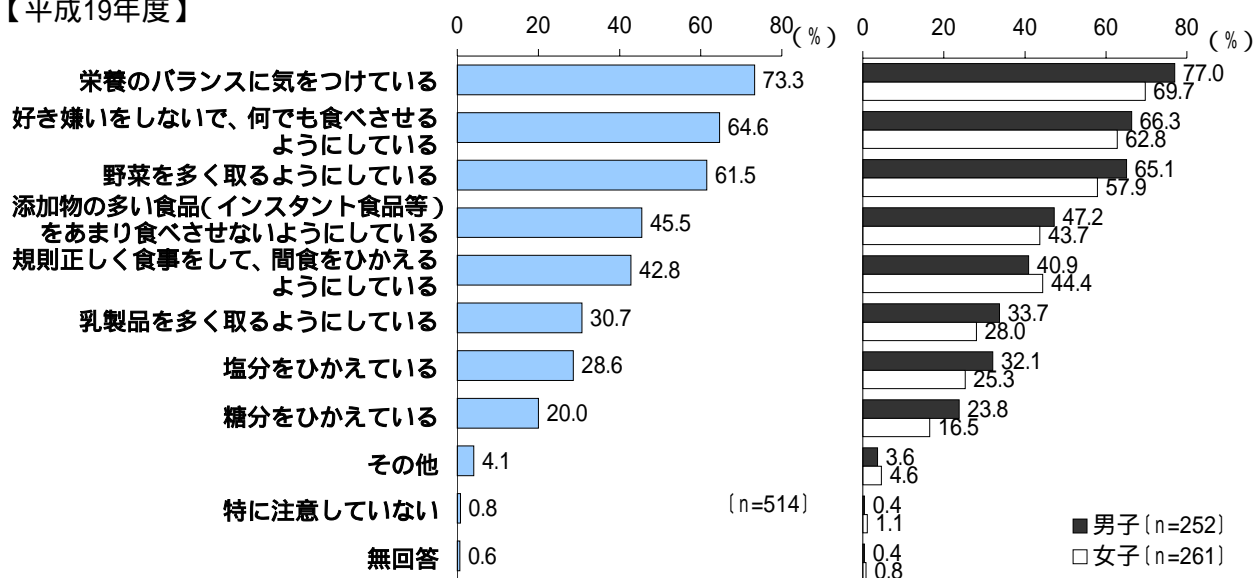
(3) こどもの食事の摂取で心がけていること

「栄養のバランスに気をつけている」が7割台半ばで最も高い

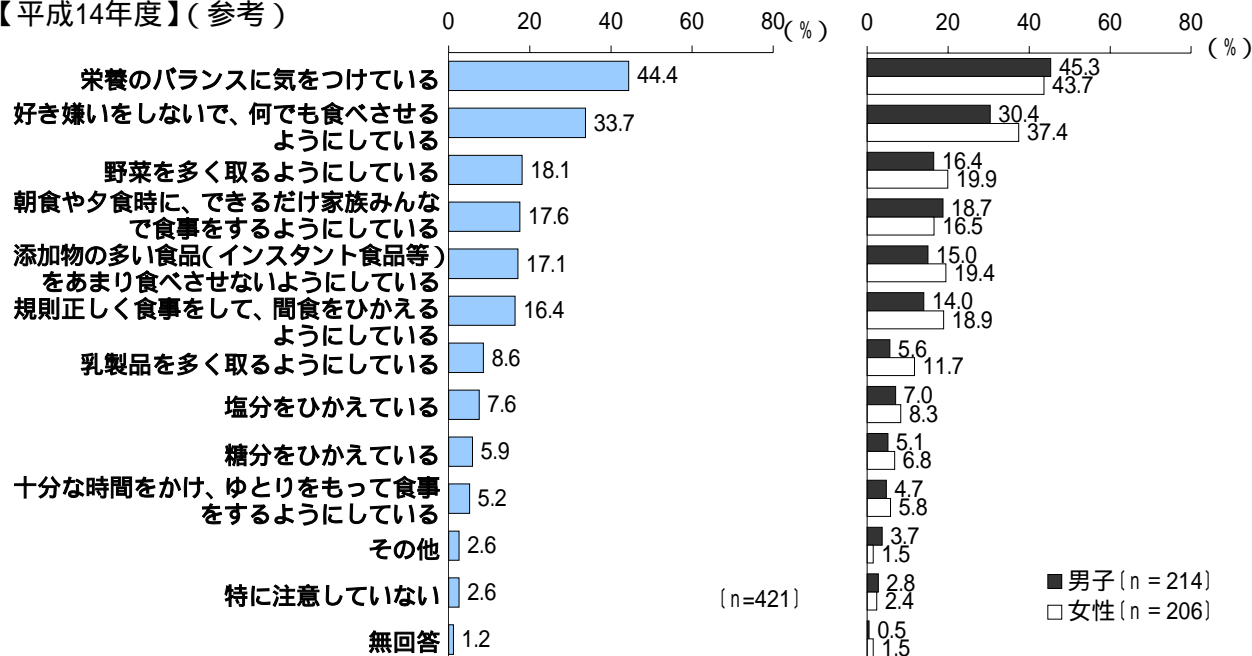
問13 あなたが、お子さんの食事の摂取で心がけていることを、次の中から選んでください。  
(はいいくつでも)

<図表 - 3 - 5> こどもの食事の摂取で心がけていること

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



こどもの食事の摂取で心がけていることとしては、「栄養のバランスに気をつけている」(73.3%)が7割台半ばで最も高く、次いで「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」(64.6%)が6割台半ば、「野菜を多く取るようにしている」(61.5%)が6割を超える。このほか、「添加物の多い食品(インスタント食品等)をあまり食べさせないようにしている」(45.5%)が4割台半ば、「規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている」(42.8%)も4割を超える。

性別でみると、男子の方が女子よりも高いものが多く、順に列挙すると、「栄養のバランスに気をつけている」、「野菜を多く取るようにしている」、「塩分をひかえている」、「糖分をひかえている」の4つは7ポイント高くなっている。また、「乳製品を多くとるようにしている」でも男子は6ポイント高い。

平成14年度との比較については、選択肢数が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 3 - 5)

【性/年齢別】

<図表 - 3 - 6> (8項目) (%)

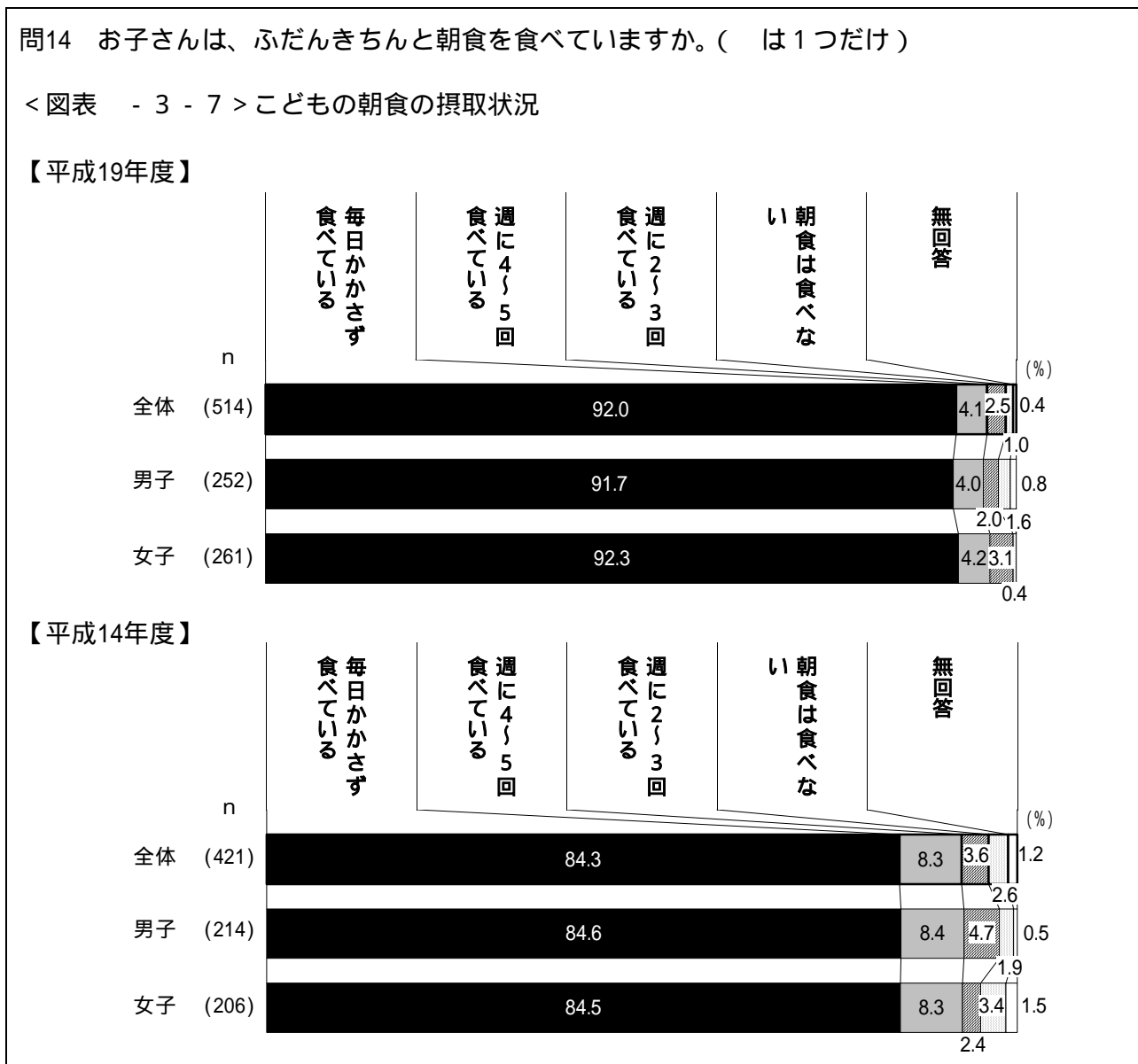
		n	栄養のバランスに気をつけている	好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている	野菜を多く取るようにしている	添加物の多い食品(インスタント食品等)をあまり食べさせないようにしている	規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている	乳製品を多くとるようにしている	塩分をひかえている	糖分をひかえている	
性/年齢別	男子	乳児[0歳]	22	59.1	50.0	63.6	31.8	22.7	27.3	54.5	36.4
		幼児[1~5歳]	109	80.7	67.9	70.6	48.6	45.9	30.3	33.9	26.6
		小学生[6歳以上]	120	76.7	67.5	60.0	48.3	39.2	38.3	25.8	19.2
	女子	乳児[0歳]	18	61.1	44.4	44.4	50.0	44.4	33.3	61.1	38.9
		幼児[1~5歳]	119	68.1	69.7	55.5	48.7	46.2	27.7	24.4	17.6
		小学生[6歳以上]	122	72.1	59.0	61.5	38.5	42.6	27.9	20.5	12.3

性/年齢別では、男女ともに“乳児”は人数が少ないので、数値は参考までに掲載する。  
 図表の見方としては、人数の確保できた最も比率の高い層を      で区別するようにした。なお、下を向く実線の矢印は漸増傾向を表している。

男子では、幼児の方が小学生よりも高い項目が多く、中でも、「栄養のバランスに気をつけている」は幼児で8割、「野菜を多く取るようにしている」は幼児で7割となっている。このほか、「規則正しく食事をして、間食をひかえるようにしている」、「塩分をひかえている」、「糖分をひかえている」でも、幼児と小学生の違いをみることができる。一方、女子では、「栄養のバランスに気をつけている」は年齢が上がるほど漸増し、小学生で7割を超える。「野菜を多く取るようにしている」でも年齢が上がるほど漸増し、小学生で6割を超えている。一方、「好き嫌いをしないで、何でも食べさせるようにしている」は幼児の方が小学生よりも高く約7割で、「添加物の多い食品(インスタント食品等)をあまり食べさせないようにしている」と「糖分をひかえている」などで、幼児と小学生の違いをみることができる。(図表 - 3 - 6)

(4) こどもの朝食の摂取状況

「毎食かかさず食べている」は9割を超える



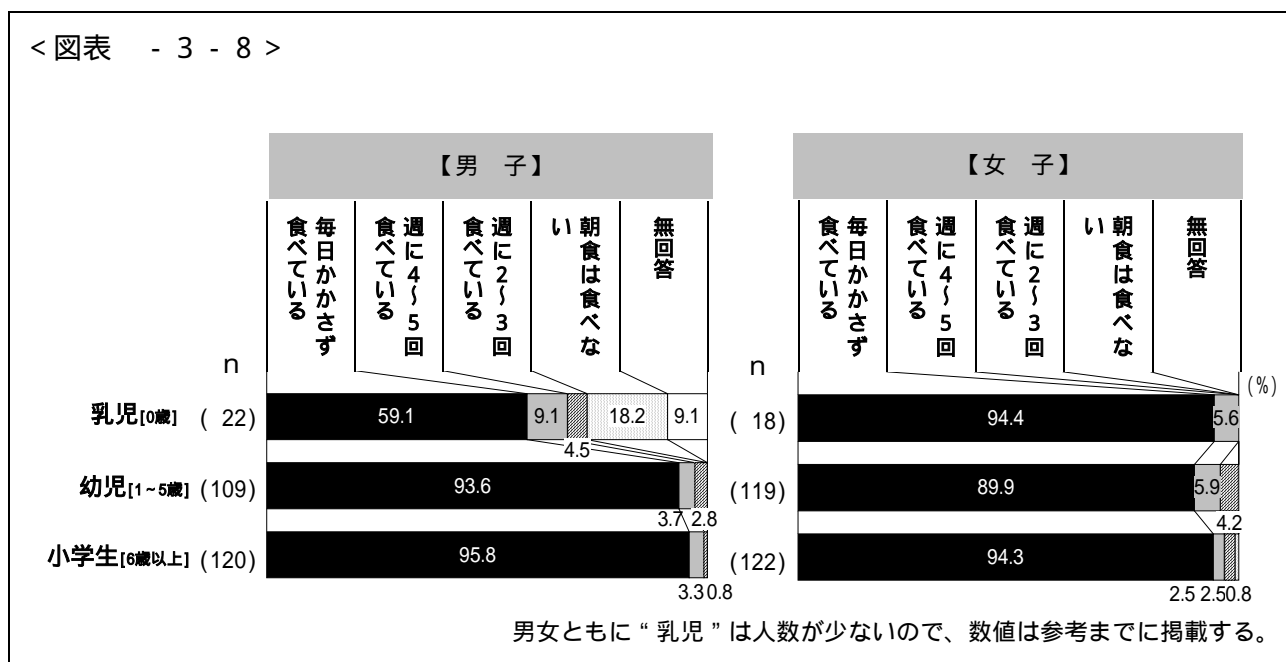
こどもが朝食を「毎日かかさず食べている」(92.0%)は9割を超える。また、「週に4~5回食べている」(4.1%)、「週に2~3回食べている」(2.5%)、「朝食は食べない」(1.0%)と、朝食を食べる頻度が減るほど比率も下がっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、「毎日かかさず食べている」が、全体と女子で8ポイント、男子で7ポイント増加している。(図表 - 3 - 7)

【性 / 年齢別】

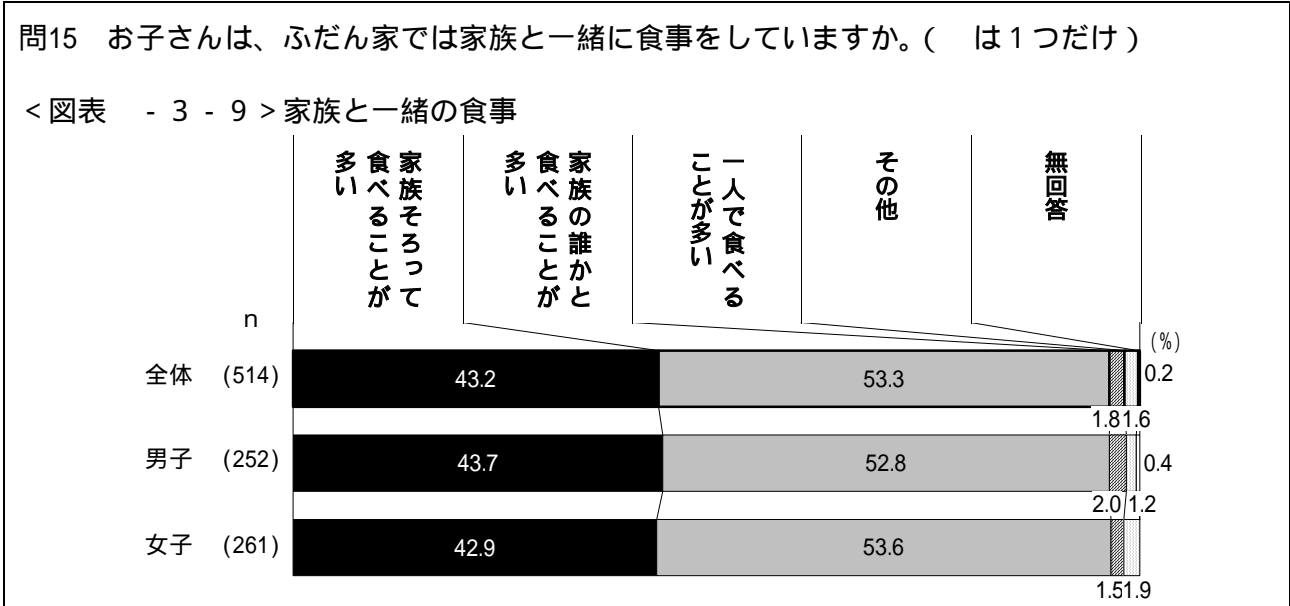
< 図表 - 3 - 8 >



男子では、「毎日かかさず食べている」が幼児と小学生で9割台半ばとなっている。一方、女子では、「毎日かかさず食べている」が幼児で約9割、小学生で9割台半ばとなっている。(図表 - 3 - 8)

(5) 家族と一緒に食事

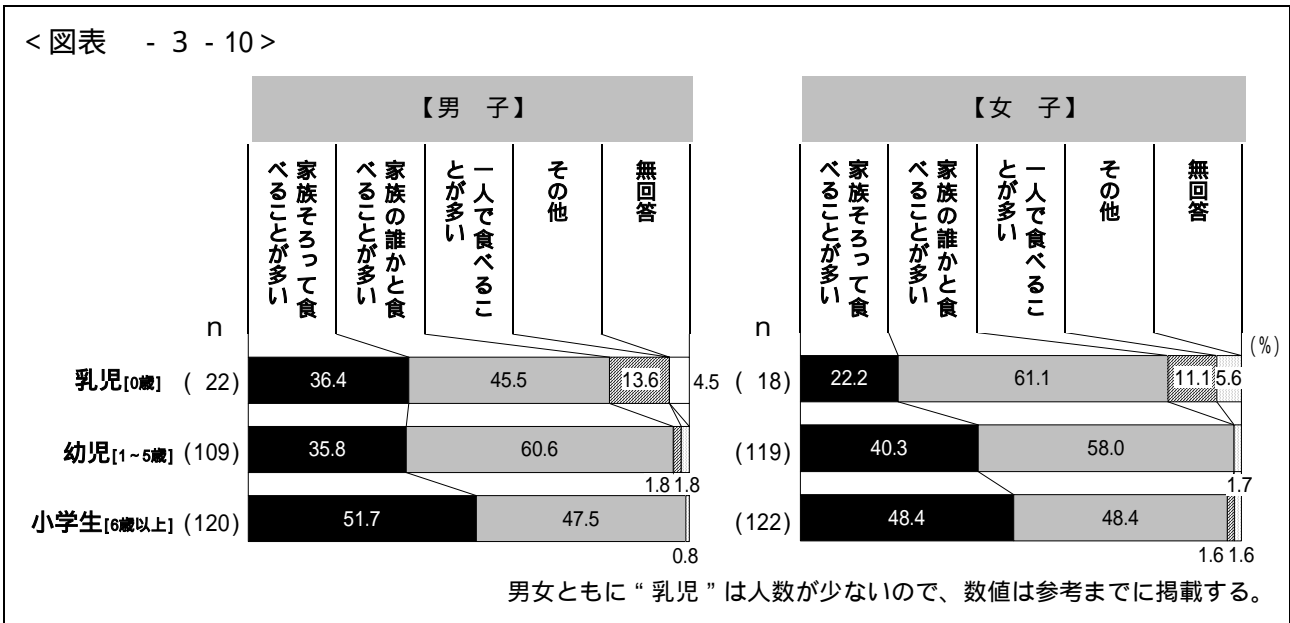
《家族と食事する》が9割台半ば



食事を「家族そろって食べることが多い」(43.2%)は4割台半ばで、「家族の誰かと食べるが多い」(53.3%)が5割台半ばと最も高い。これらを合わせると、《家族と食事する》(96.5%)は9割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 9)

【性/年齢別】



男女ともに、小学生は「家族そろって食べるが多い」が高く、幼児は「家族の誰かと食べるが多い」が高くなっている。《家族と食事する》としてみた場合は、男女ともに、年齢による大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 10)

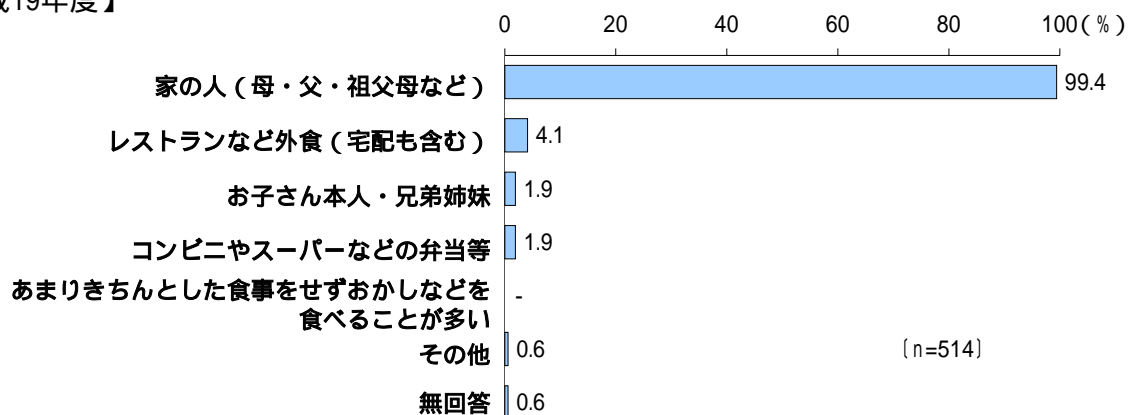
## (6) こどもの食事の提供者

「家の人(母・父・祖父母など)」がほぼ全員

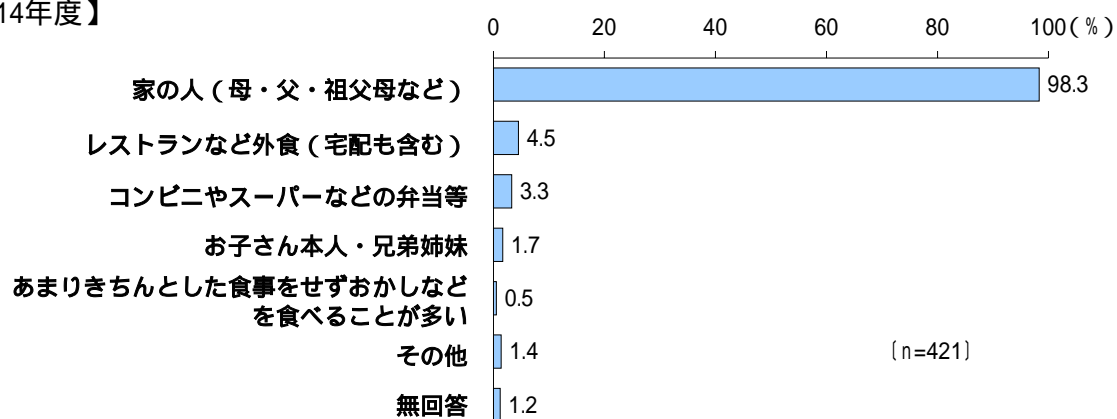
問16 ふだん、お子さんの食事を主に作る(提供する)のは誰ですか。(は3つまで)

&lt;図表 - 3 - 11&gt; こどもの食事の提供者

## 【平成19年度】



## 【平成14年度】



こどもの食事の提供者としては、「家の人(母・父・祖父母など)」(99.4%)がほぼ全員に近い。

平成14年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 11)

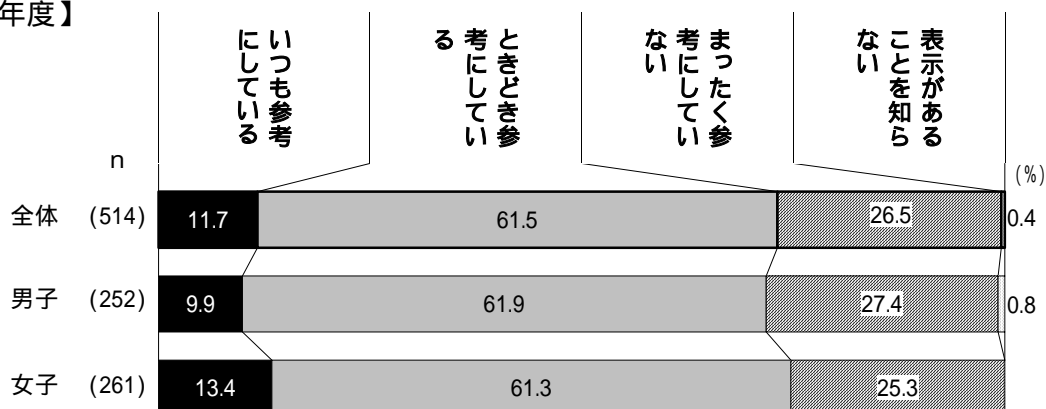
(7) 栄養成分表示を参考にしている程度

《参考にしている》は7割台半ば。一方、「まったく参考にしていない」は2割台半ば

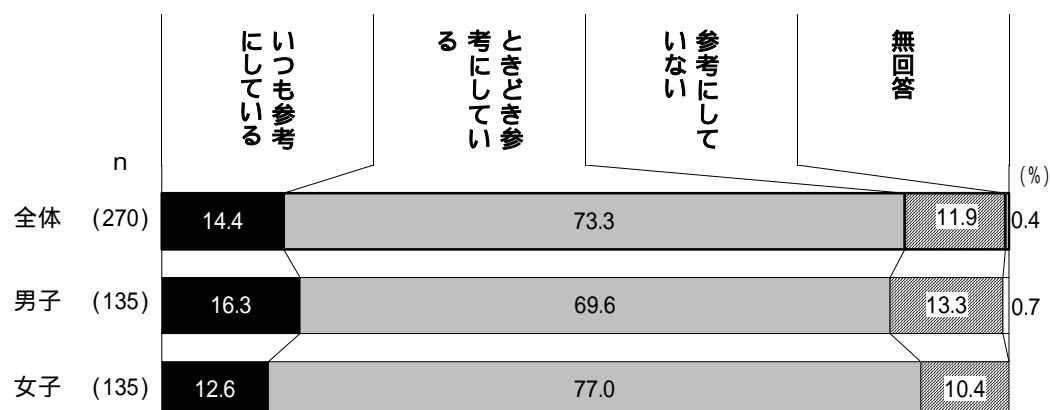
問17 あなたは、飲食店や食品売場等で栄養成分表示を参考にしてメニューや食品を選びますか。( は1つだけ)

<図表 - 3 - 12> 栄養成分表示を参考にしている程度

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



栄養成分表示を「いつも参考にしている」(11.7%)は1割を超えるに留まるが、「ときどき参考にしている」(61.5%)は6割を超え高く、これらを合わせると《参考にしている》(73.2%)は7割台半ばとなっている。一方、「まったく参考にしていない」(26.5%)が2割台半ばである。

性別では、特に大きな違いはみられない。

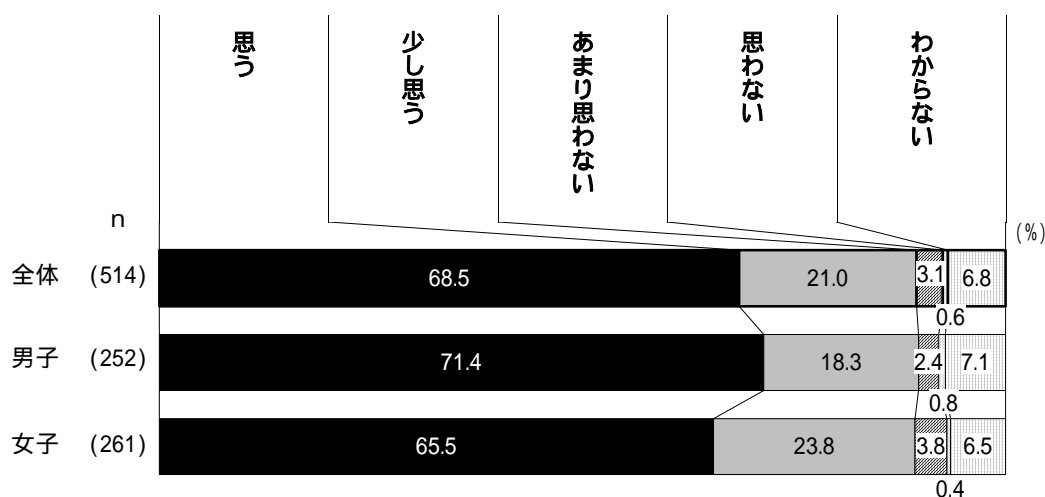
平成14年度との比較については、選択肢数が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 3 - 12)

## (8) 家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成

《思う》が約9割

問18 家庭での食事や生活を通じて、お子さんが健康的な食習慣を身につけていくことができると思いますか。( は1つだけ)

< 図表 - 3 - 13 > 家庭におけるこどもの健康的な食習慣の形成



家庭での食事や生活を通じて、こどもの健康的な食習慣を身につけていくことができると「思う」(68.5%)は約7割で最も高く、「少し思う」(21.0%)が2割を超える。これらを合わせると《思う》(89.5%)は約9割となっている。

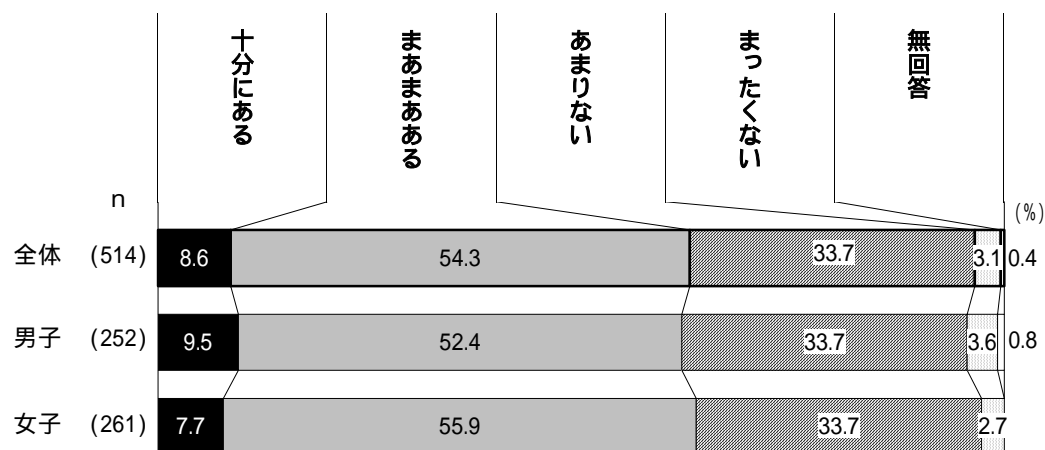
性別でみると、「思う」は男子の方が女子よりも6ポイント高く7割を超える。逆に、「少し思う」は女子が6ポイント上回るが、《思う》としてみた場合の特に大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 13)

(9) 食事に関する必要な知識や技術の有無

《ある》が6割を超える。一方、《ない》は3割台半ば

問19 あなたは、食品を選んだり、バランスのよい食事を作るのに必要な知識や技術があると思いますか。( は1つだけ)

<図表 - 3 - 14> 食事に関する必要な知識や技術の有無



食事に関する必要な知識や技術が「十分にある」(8.6%)は約1割だが、「まあまあある」(54.3%)は5割台半ばで最も高くなっている。これらを合わせると《ある》(62.9%)は6割を超える。一方、「あまりない」(33.7%)と「まったくない」(3.1%)を合わせた《ない》(36.8%)は3割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。(図表 - 3 - 14)

## 4 身体活動・運動について

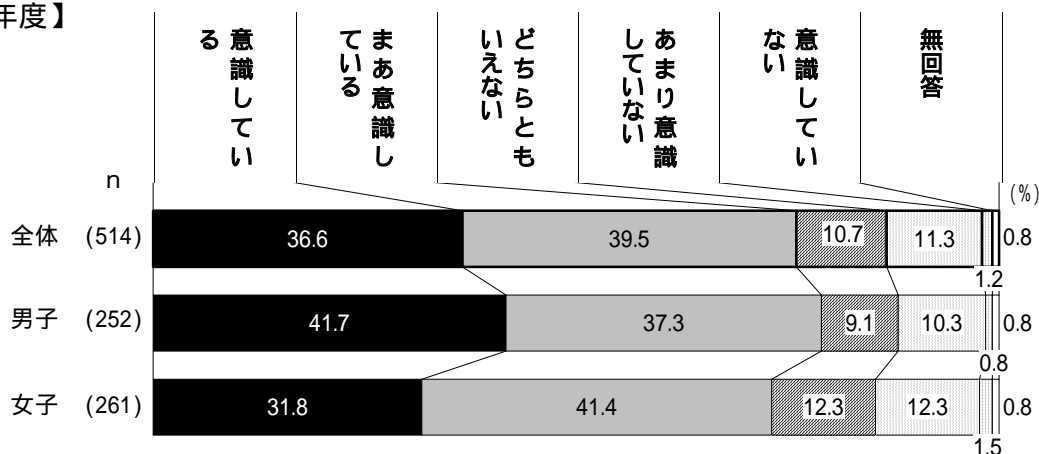
## (1) こどもに運動させる心がけ

《意識している》は7割台半ば。一方、《意識していない》は1割を超える

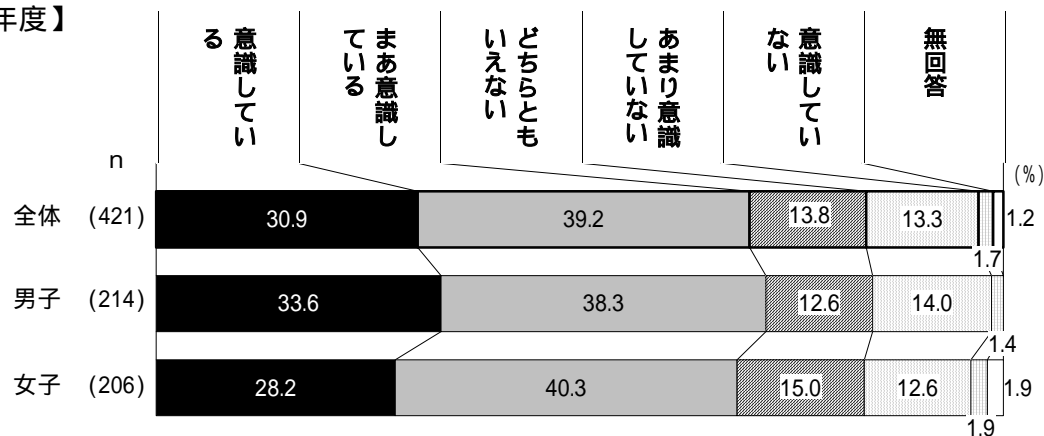
問20 あなたは、お子さんに意識して身体を動かすようにさせていますか。( は1つだけ)

<図表 - 4 - 1> こどもに運動させる心がけ

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもに運動させる心がけを「意識している」(36.6%)は3割台半ばで、「まあ意識している」(39.5%)が約4割と最も高い。これらを合わせると《意識している》(76.1%)は7割台半ばとなっている。一方、「あまり意識していない」(11.3%)と「意識していない」(1.2%)を合わせた《意識していない》(12.5%)は1割を超える。

性別でみると、「意識している」は男子の方が女子よりも10ポイント高く4割を超える。《意識している》としてみた場合、男子は6ポイント上回り約8割となっている。

平成14年度と比較すると、《意識している》が全体で6ポイント、男子で7ポイント、女子で5ポイント増加している。(図表 - 4 - 1)

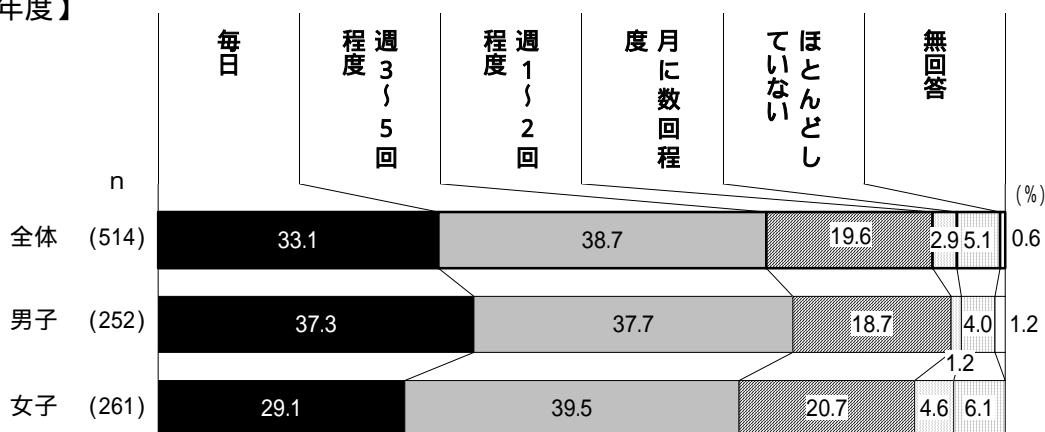
(2) こどもの運動や外遊びの頻度

「週3～5回程度」が約4割で最も高く、次いで「毎日」が3割台半ば

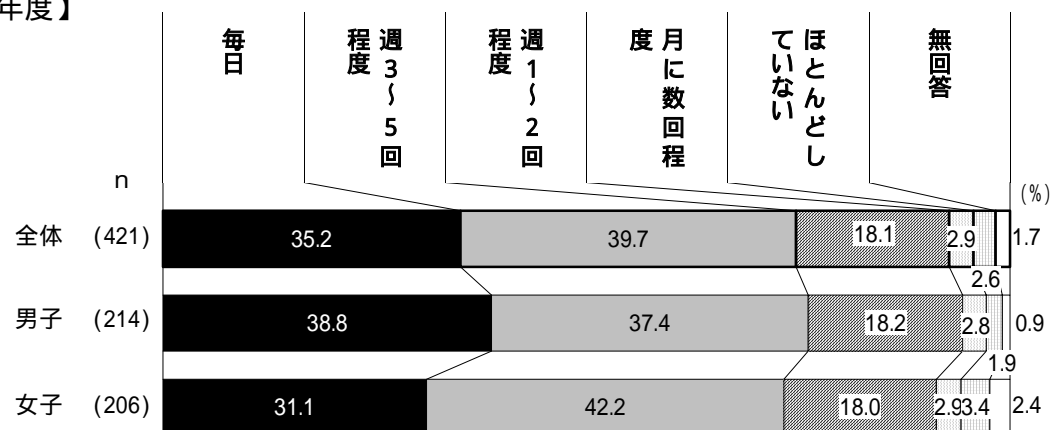
問21-1 お子さんは、どれくらい運動・外遊びをしますか。(は1つだけ)  
地域でのスポーツ活動、習い事、ボーイスカウトなども含みます。(体育の授業を除く)

<図表 - 4 - 2> こどもの運動や外遊びの頻度

【平成19年度】



【平成14年度】



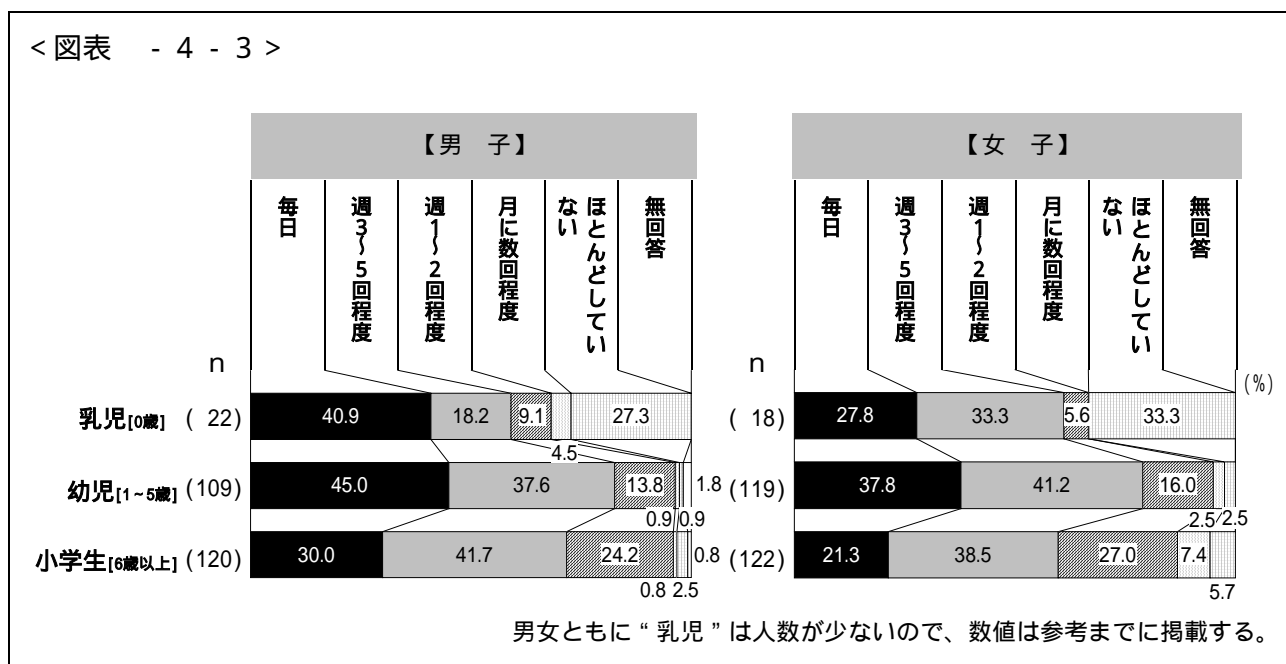
こどもの運動や外遊びの頻度としては、「毎日」(33.1%)が3割台半ばで、「週3～5回程度」(38.7%)が約4割と最も高くなっている。「週1～2回程度」(19.6%)は約2割で、「月に数回程度」(2.9%)、「ほとんどしていない」(5.1%)といった頻度の少ない回答も少数ながらみられる。

性別でみると、「毎日」は男子の方が女子よりも8ポイント高く約4割となっている。

平成14年度と比較すると、全体、性別ともに特に大きな違いはみられない。(図表 - 4 - 2)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 4 - 3 >



男子では、「毎日」が幼児で4割台半ば、「週3～5回程度」は小学生で4割を超え、それぞれ高くなっている。「週に1～2回程度」は年齢が上がるほど漸増し、小学生で2割台半ばとなっている。一方、女子では、「毎日」が幼児で約4割と高く、「週3～5回程度」で幼児と小学生ともに4割前後となっている。「週に1～2回程度」は年齢が上がるほど漸増し、小学生で約3割である。  
 (図表 - 4 - 3)

(3) こどもが運動や外遊びをしない理由

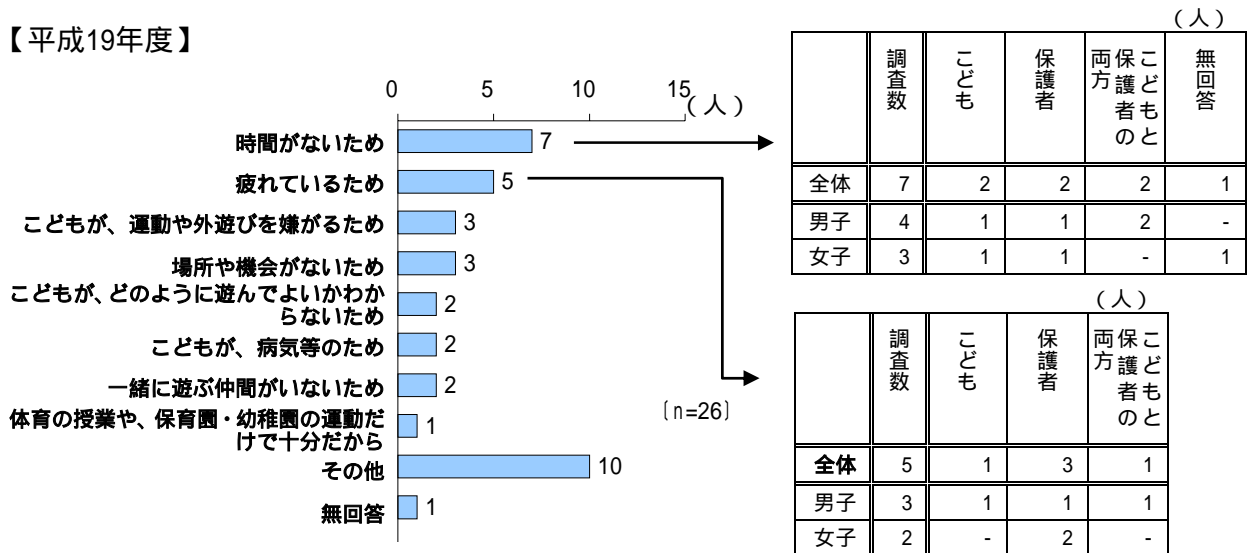
「時間がないため」が多い傾向

(問21-1で、「5 ほとんどしていない」とお答えの方に)

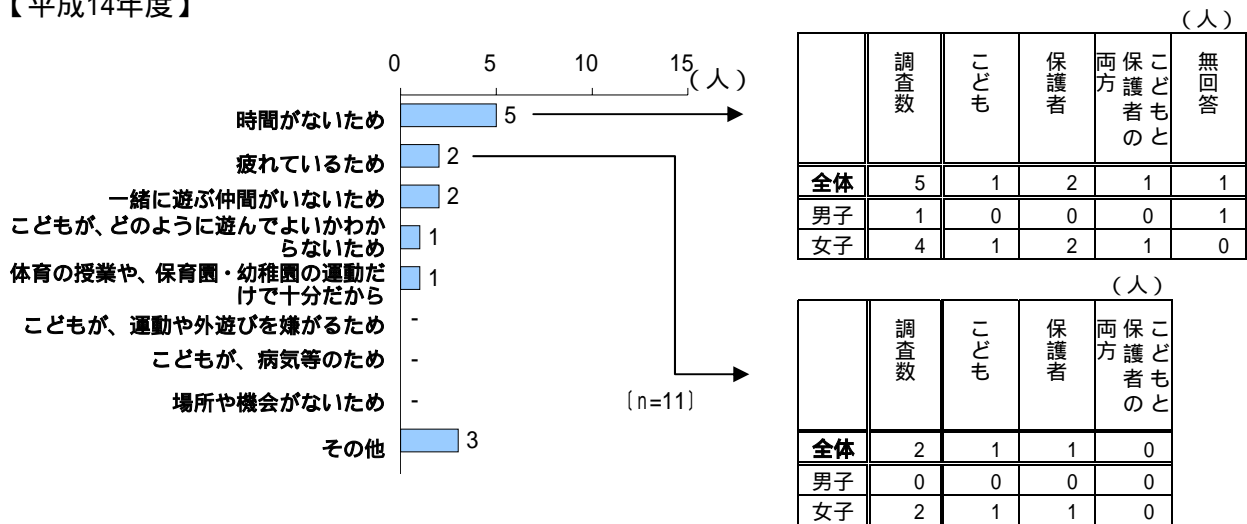
問21-2 運動・外遊びをほとんどしない理由は何ですか。(はいくつでも)

<図表 - 4 - 4> こどもが運動や外遊びをしない理由

【平成19年度】



【平成14年度】



問21-1で、「ほとんどしていない」と回答した人にその理由を聞いた。ここでは回答すべき人数が少ないため、参考までに図表を掲載するに留める。このほか、「時間がないため」と「疲れているため」と回答した方には、それが誰なのかを聞いた結果も右に記載してある。

また、平成14年度との比較については、参考までに図示するに留める。(図表 - 4 - 4)

## (4) こどもが運動や外遊びをする場所

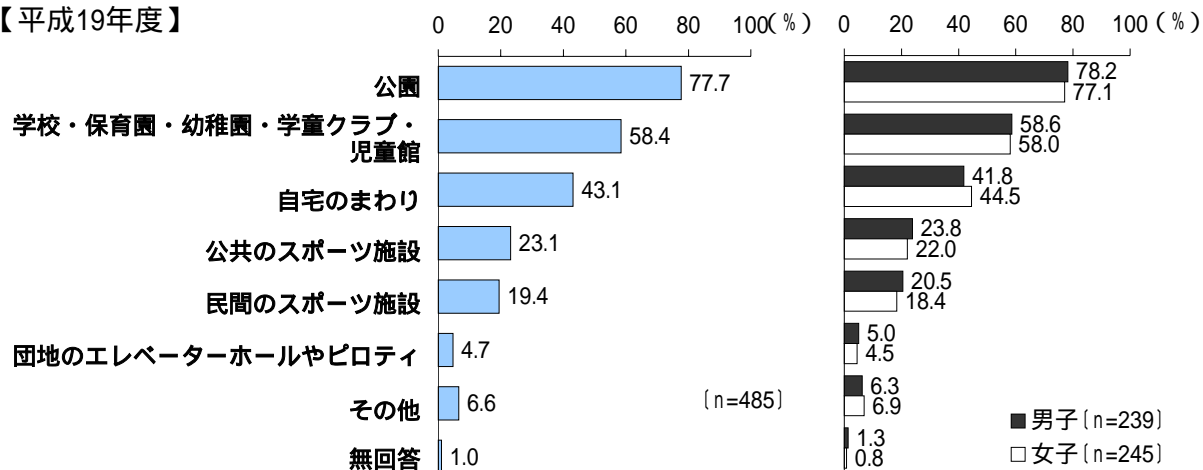
「公園」が約8割で最も高い

(問21-1で、「1」～「4」とお答えの方に)

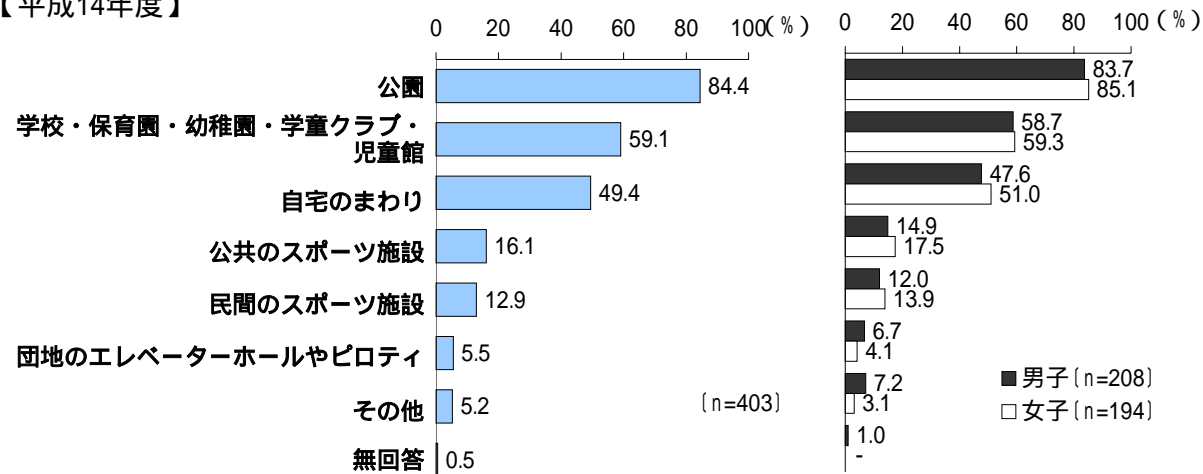
問21-3 運動・外遊びをどこでしていますか。(はいいくつでも)

&lt;図表 - 4 - 5&gt; こどもが運動や外遊びをする場所

【平成19年度】



【平成14年度】



問21-1で、運動・外遊びをしていると回答した人にその場所を聞いた結果、「公園」(77.7%)が約8割で最も高くなっている。次いで「学校・保育園・幼稚園・学童クラブ・児童館」(58.4%)が約6割、「自宅のまわり」(43.1%)が4割台半ばとなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、「公共のスポーツ施設」と「民間のスポーツ施設」が7ポイント増加し、逆に、「公園」が7ポイント、「自宅のまわり」が6ポイント減少している。性別では、「公共のスポーツ施設」と「民間のスポーツ施設」が、ともに男子で9ポイント、女子で5ポイント増加している。逆に、「公園」は男子で6ポイント、女子で8ポイント減少し、「自宅のまわり」は男子で6ポイント、女子で7ポイント減少している。(図表 - 4 - 5)

(5) こどもの平均的な運動や外遊びの時間

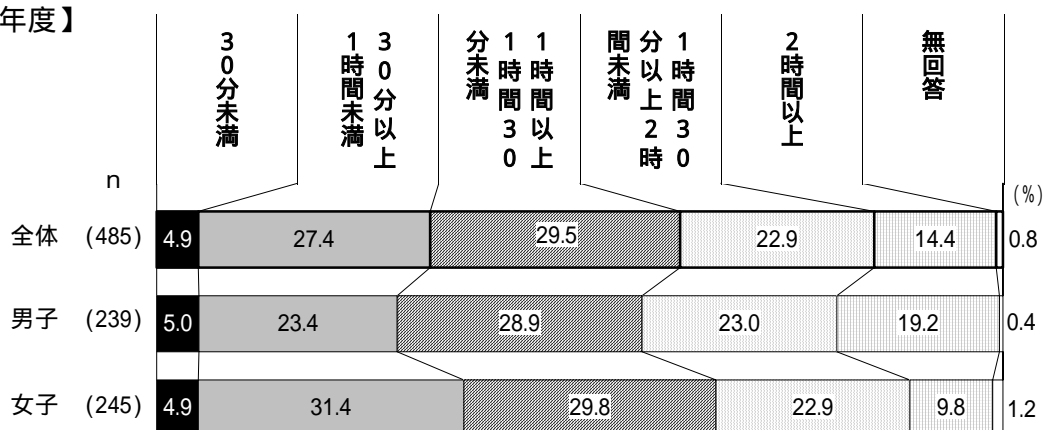
「30分以上1時間未満」と「1時間以上1時間30分未満」が、それぞれ約3割

(問21-1で、「1」～「4」とお答えの方に)

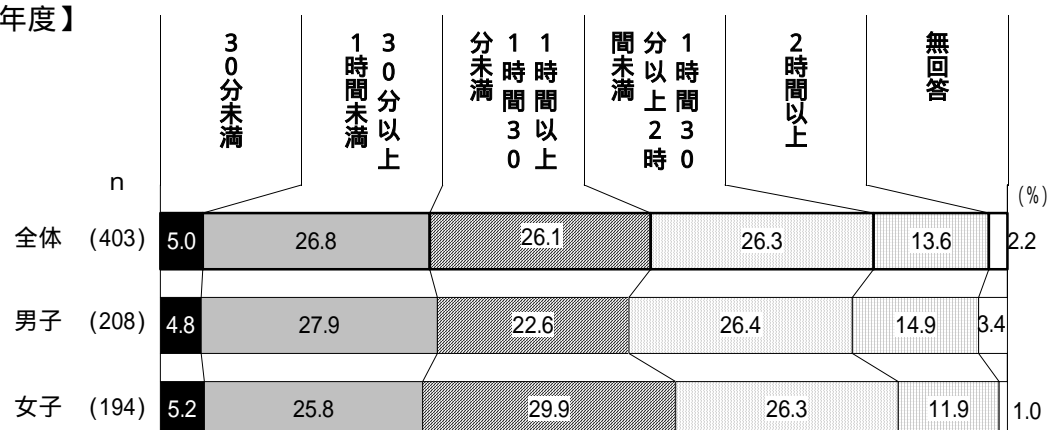
問21-4 1日平均どのくらい運動・外遊びをしますか。( は1つだけ)

<図表 - 4 - 6> こどもの平均的な運動や外遊びの時間

【平成19年度】



【平成14年度】



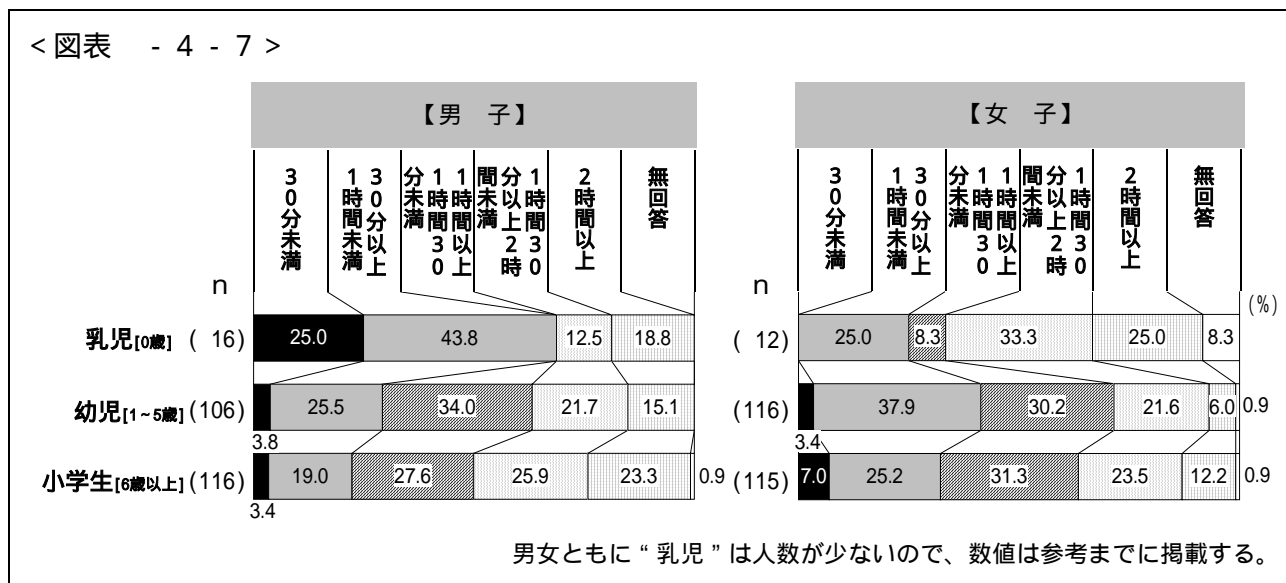
問21-1で、運動・外遊びをしていると回答した人にどの程度の時間を聞いたところ、「30分以上1時間未満」(27.4%)と「1時間以上1時間30分未満」(29.5%)が、それぞれ約3割で高くなっている。また、「1時間30分以上2時間未満」(22.9%)は2割を超え、「2時間以上」(14.4%)が1割を超える。

性別で見ると、「30分以上1時間未満」は女子の方が男子よりも8ポイント高く3割を超える。逆に、「2時間以上」は男子が9ポイント上回り約2割となっている。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、男子で「30分以上1時間未満」が5ポイント減少し、逆に、「1時間以上1時間30分未満」が6ポイント増加している。女子は「30分以上1時間未満」が6ポイント増加している。(図表 - 4 - 6)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 4 - 7 >



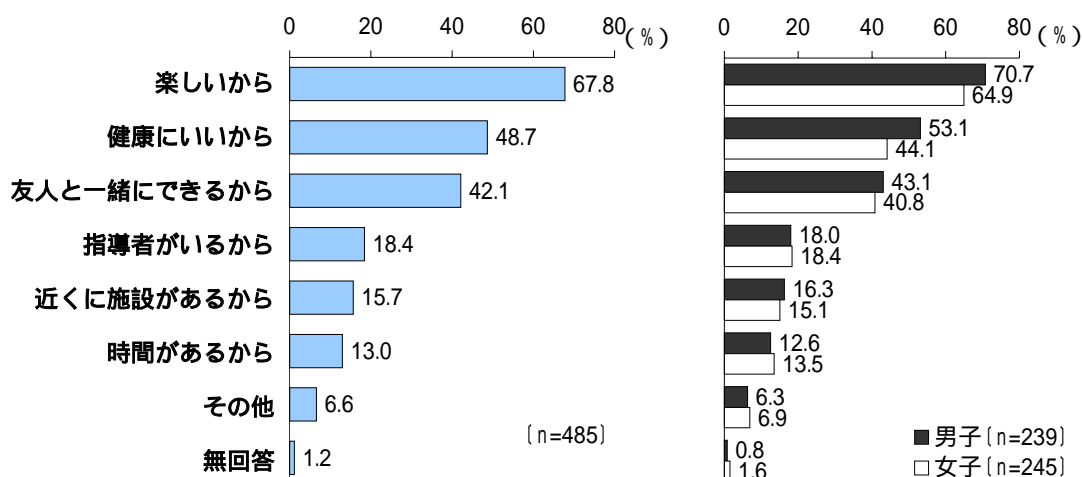
男子では、「1時間以上1時間30分未満」が幼児で3割台半ばと小学生に比べて高くなっている。「1時間30分以上2時間未満」と「2時間以上」は小学生で高く2割台半ばである。一方、女子では、「30分以上1時間未満」が幼児で約4割と小学生に比べて高くなっている。「2時間以上」は小学生で1割を超える。(図表 - 4 - 7)

(6) こどもが運動を続ける理由

「楽しいから」が約7割で最も高い

(問21-1で、「1」～「4」とお答えの方に)  
問21-5 運動を続ける理由は何ですか。(はいいくつでも)

<図表 - 4 - 8> こどもが運動を続ける理由



問21-1で、運動・外遊びをしていると回答した人に、こどもが運動を続ける理由を聞いたところ、「楽しいから」(67.8%)が約7割で最も高くなっている。次いで「健康にいいから」(48.7%)が約5割、「友人と一緒にできるから」(42.1%)が4割を超える。

性別で見ると、「健康にいいから」は男子の方が女子よりも9ポイント高く、「楽しいから」でも男子は6ポイント上回っている。(図表 - 4 - 8)

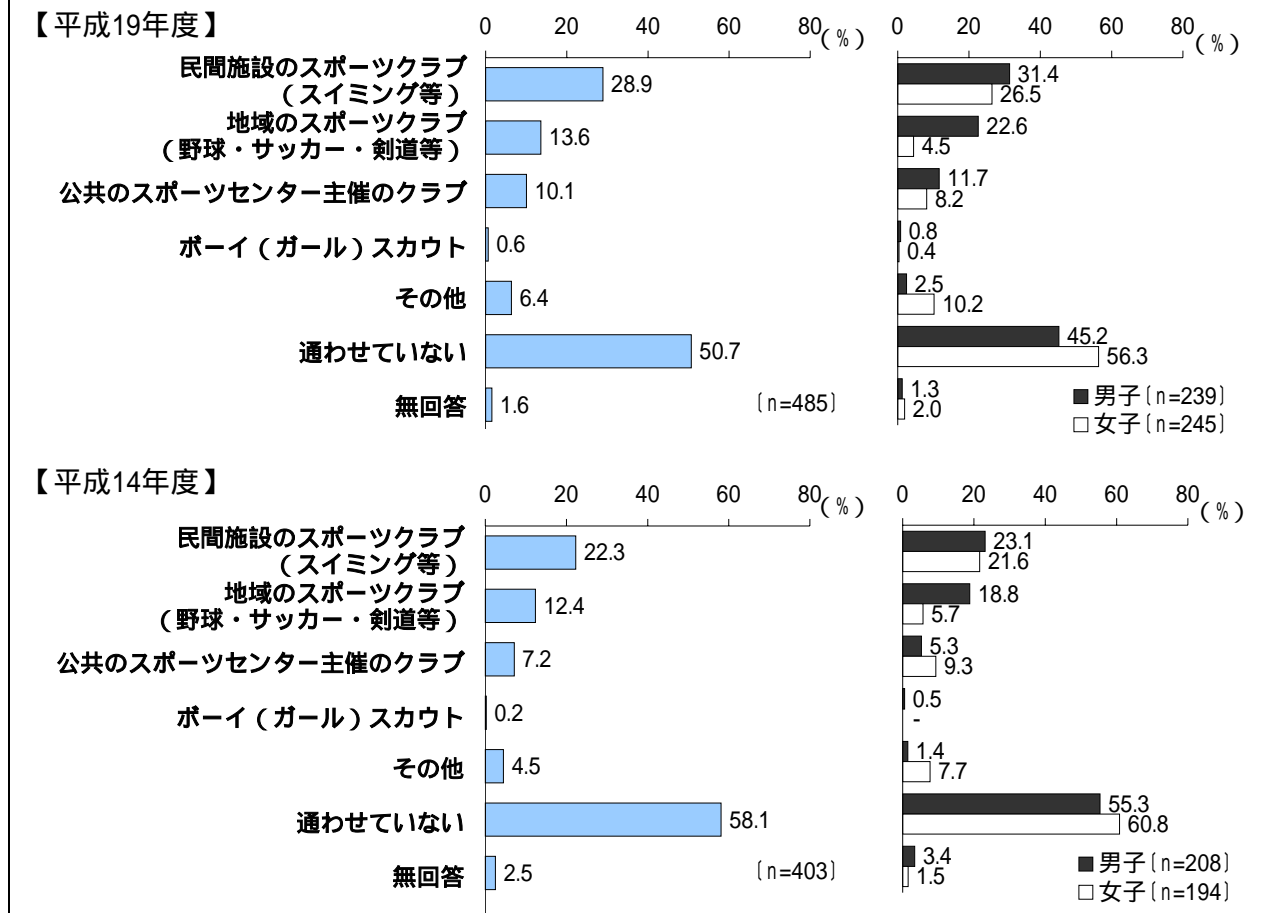
## (7) こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無

「通わせていない」が5割

(問21-1で、「1」～「4」とお答えの方に)

問21-6 スポーツ活動や運動の習い事に通わせていますか。(はいいくつでも)

&lt;図表 - 4 - 9&gt; こどものスポーツ活動や運動の習い事の有無



問21-1で、運動・外遊びをしていると回答した人にこどものスポーツ活動や運動の習い事の有無を聞いたところ、通わせている中では、「民間施設のスポーツクラブ(スイミング等)」(28.9%)が約3割で高く、次いで「地域のスポーツクラブ(野球・サッカー・剣道等)」(13.6%)が1割台半ばとなっている。一方、「通わせていない」(50.7%)は5割と最も高い。

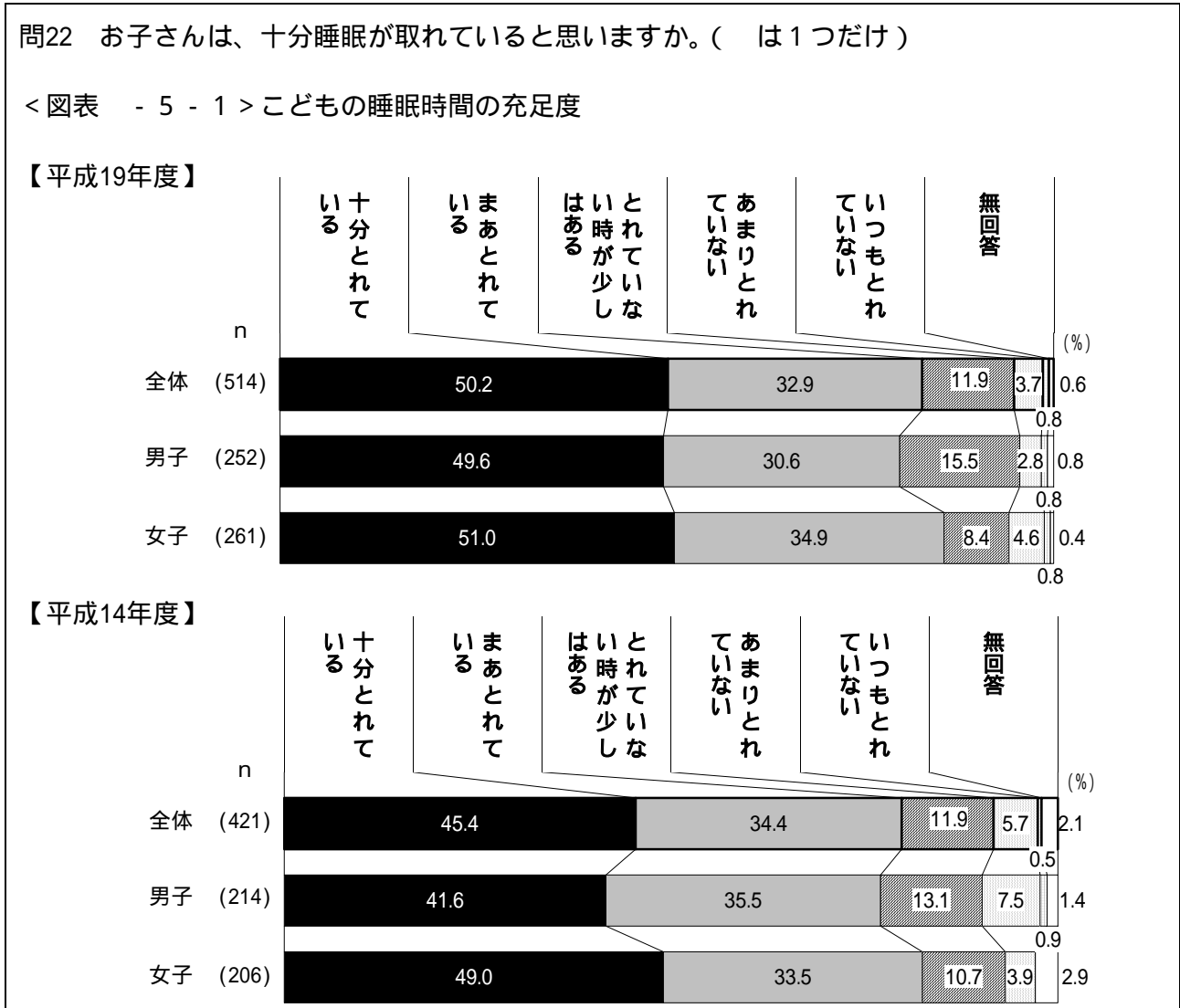
性別で見ると、「地域のスポーツクラブ(野球・サッカー・剣道等)」は男子の方が女子よりも18ポイント高く、「民間施設のスポーツクラブ(スイミング等)」でも男子は5ポイント上回っている。逆に、「通わせていない」は女子が11ポイント上回っている。

平成14年度と比較すると、全体では、「民間施設のスポーツクラブ(スイミング等)」が7ポイント増加し、「通わせていない」が7ポイント減少している。性別では、「民間施設のスポーツクラブ(スイミング等)」が男子で8ポイント、女子で5ポイント増加し、「公共のスポーツセンター主催のクラブ」は男子で6ポイント増加している。また、「通わせていない」は男子で10ポイント、女子で5ポイント減少している。(図表 - 4 - 9)

## 5 こころの健康・休養について

### (1) こどもの睡眠時間の充足度

《とれている》が8割台半ば。一方、《とれていない》が1割台半ば



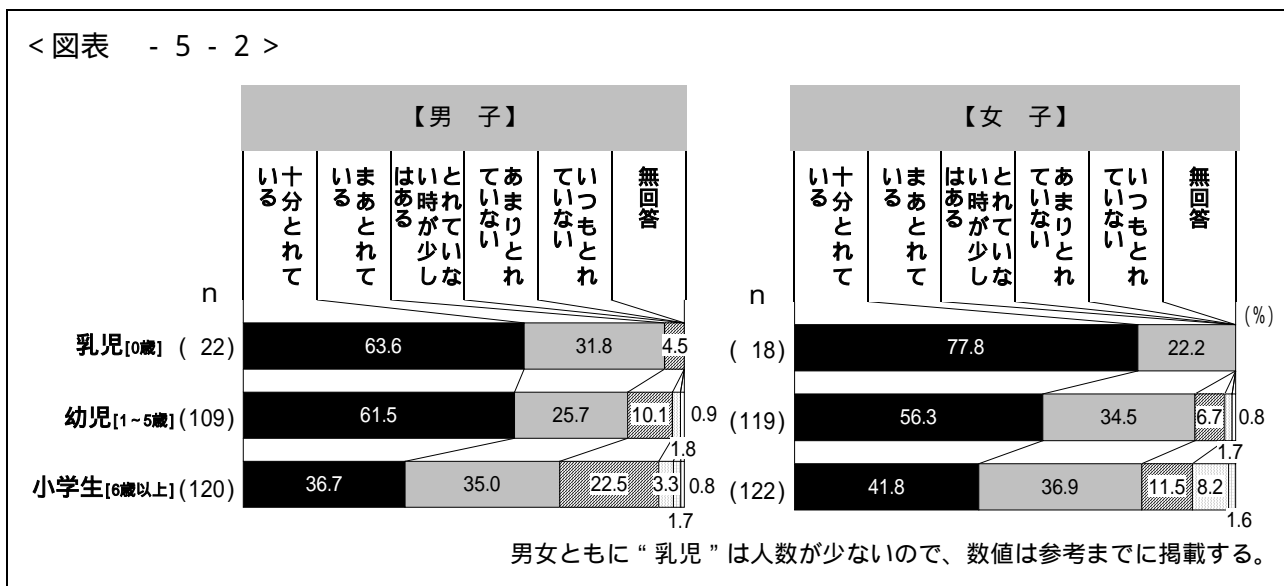
こどもの睡眠時間の充足度としては、「十分とれている」(50.2%)が5割で最も高く、「まあとれている」(32.9%)が3割を超える。これらを合わせると《とれている》(83.1%)は8割台半ばとなっている。一方、「とれていない時が少しはある」(11.9%)から「あまりとれていない」(3.7%)、「いつもとれていない」(0.8%)までを合わせると、《とれていない》(16.4%)は1割台半ばである。

性別でみると、《とれている》は女子の方が男子よりも6ポイント高く8割台半ばとなっている。逆に、《とれていない》は男子が5ポイント上回り約2割となっている。

平成14年度と比較すると、「十分とれている」が全体で5ポイント、男子で8ポイント増加している。なお、《とれている》や《とれていない》としてみた場合、全体、性別での特に大きな違いはみられない。(図表 - 5 - 1)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 5 - 2 >



《とれている》は、男女ともに年齢が上がるほど漸減する傾向がみられる。特に、《とれていない》については、男子の小学生で約3割と高くなっている。(図表 - 5 - 2)

(2) こどもの平日の就寝時間・起床時間

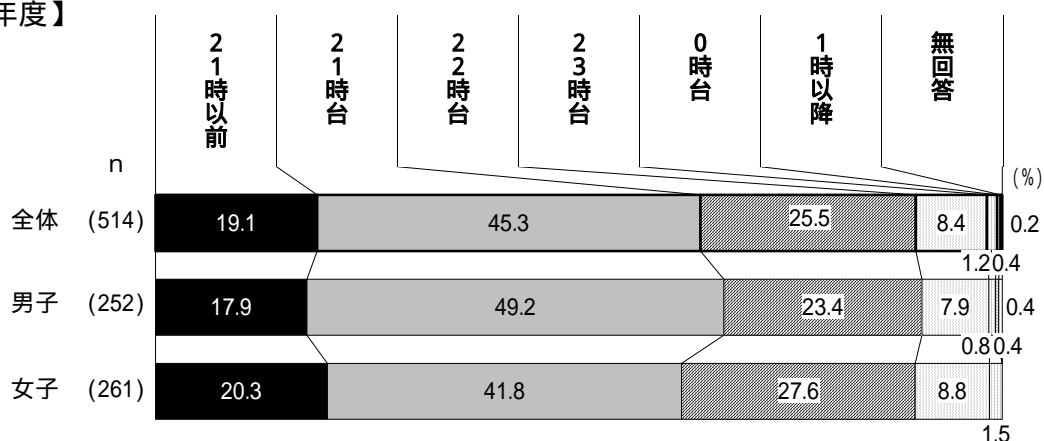
こどもの平日の就寝時間

就寝時間は「21時台」が4割台半ばで最も高く、次いで「22時台」が2割台半ば

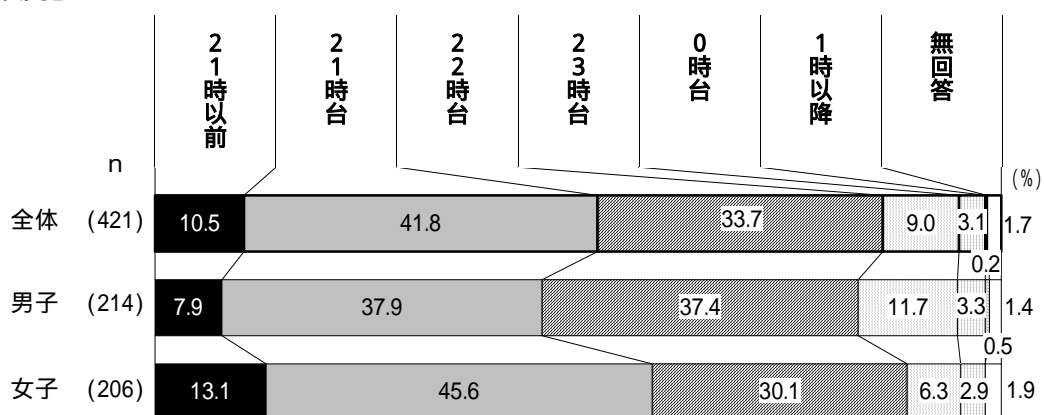
問23 お子さんの平日の『夜、眠りにつく時間』と『朝、起きる時間』についてうかがいます。  
(24時間制でご記入ください...例 午後8時30分 20時30分)

<図表 - 5 - 3> こどもの平日の就寝時間

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの平日の就寝時間は、「21時台」(45.3%)が4割台半ばで最も高く、次いで「22時台」(25.5%)が2割台半ば、「21時以前」(19.1%)が約2割となっている。

性別でみると、「21時台」は男子の方が女子よりも7ポイント高く約5割となっている。

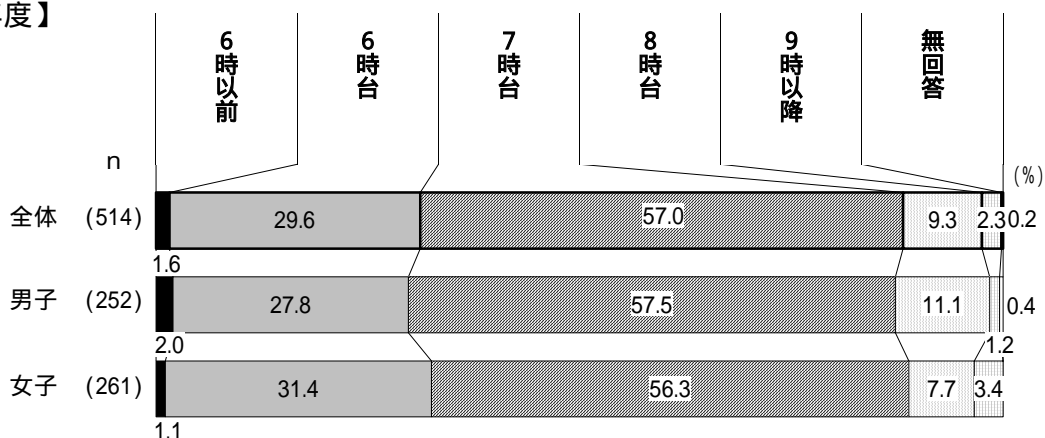
平成14年度と比較すると、全体では「21時以前」が9ポイント増加し、逆に、「22時台」が8ポイント減少している。性別では、男子は「21時以前」が10ポイント、「21時台」が11ポイント増加し、逆に、「22時台」が14ポイント減少している。一方、女子は、「21時以前」が7ポイント増加している。(図表 - 5 - 3)

こどもの平日の起床時間

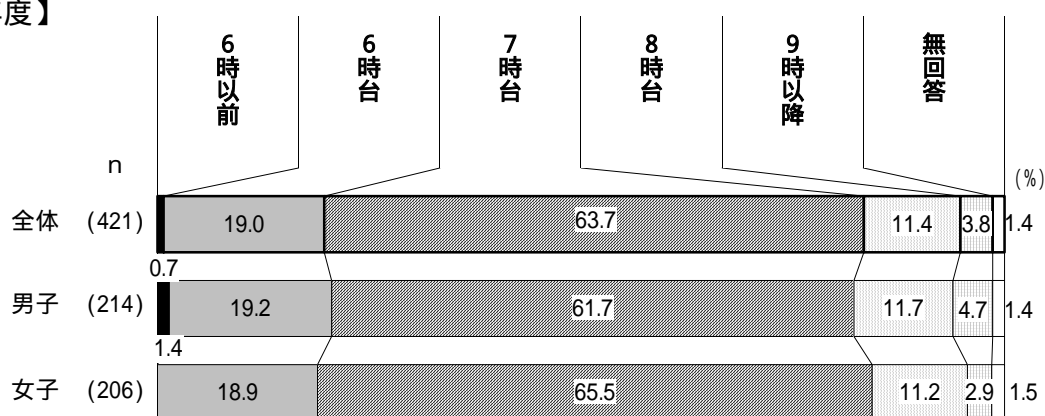
起床時間は7時台が約6割で最も高い

<図表 - 5 - 4> こどもの平日の起床時間

【平成19年度】



【平成14年度】



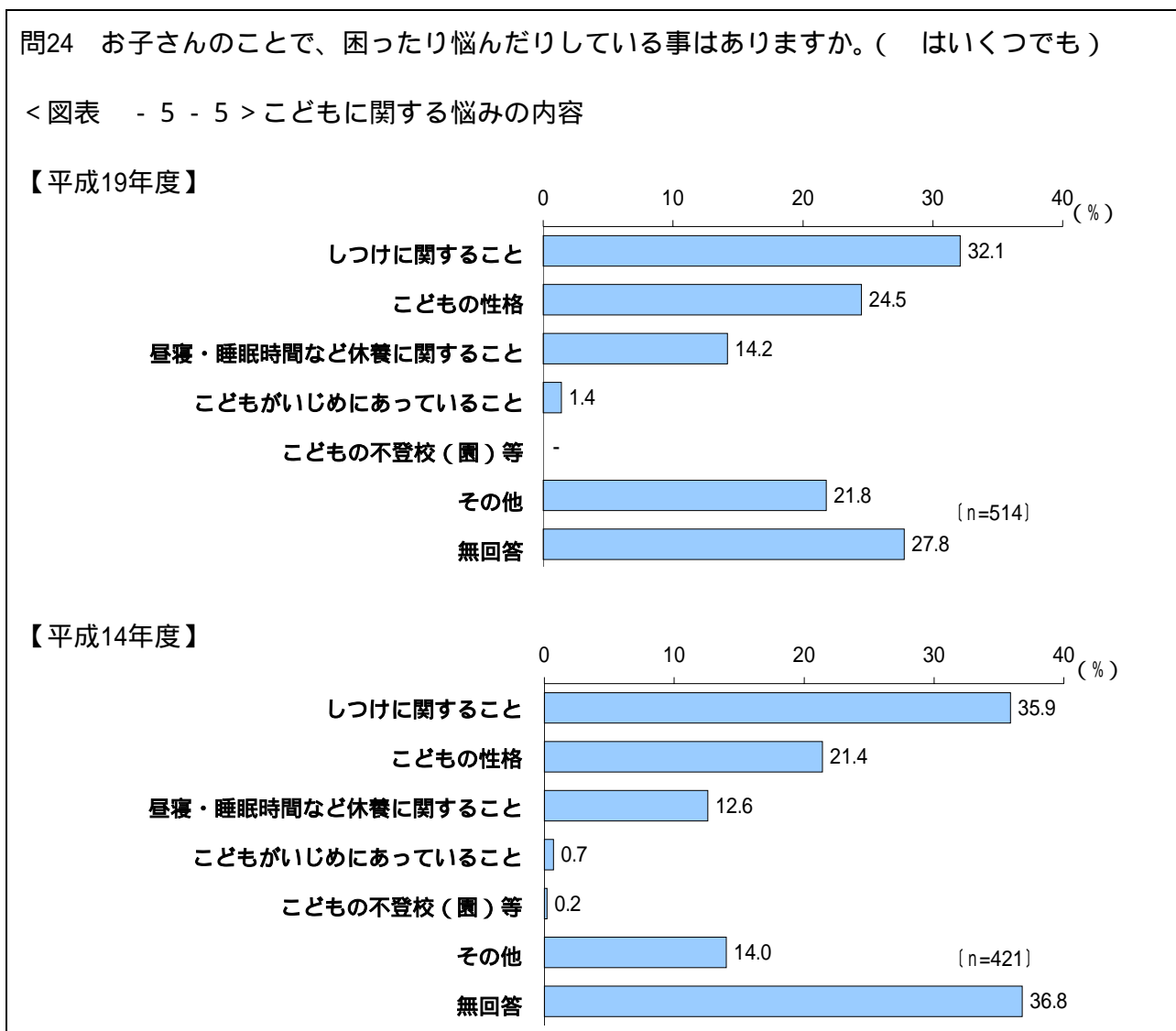
こどもの平日の起床時間は、「7時台」(57.0%)が約6割で最も高くなっている。次いで「6時台」(29.6%)が約3割である。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、「6時台」が11ポイント増加し、「7時台」が7ポイント減少している。性別では、「6時台」が男子で9ポイント、女子で13ポイント増加し、「7時台」が女子で9ポイント減少している。(図表 - 5 - 4)

(3) こどもに関する悩みの内容

「しつけに関すること」が3割を超え最も高い



こどもに関する悩みの内容としては、「しつけに関すること」(32.1%)が3割を超え最も高く、次いで「こどもの性格」(24.5%)が2割台半ば、「昼寝・睡眠時間など休養に関すること」(14.2%)が1割台半ばとなっている。また、「無回答」(27.8%)が約3割で、「その他」(21.8%)も比較的高い。「無回答」については、「特に悩みがない」ということが考えられる。「その他」の内容には、「友達関係」と「少食・偏食」、「病気・障害」などがあげられている。

平成14年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表 - 5 - 5)

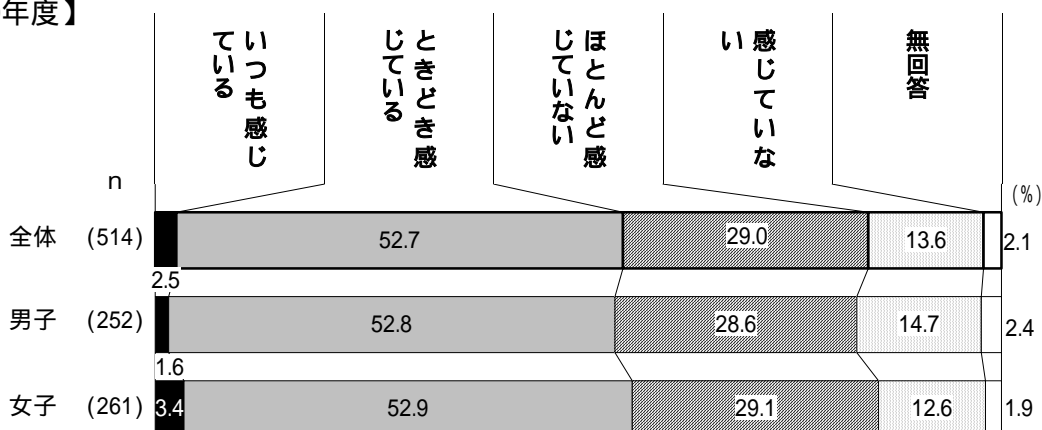
(4) こどものストレスの有無

《感じている》が5割台半ば。一方、《感じていない》が4割を超える

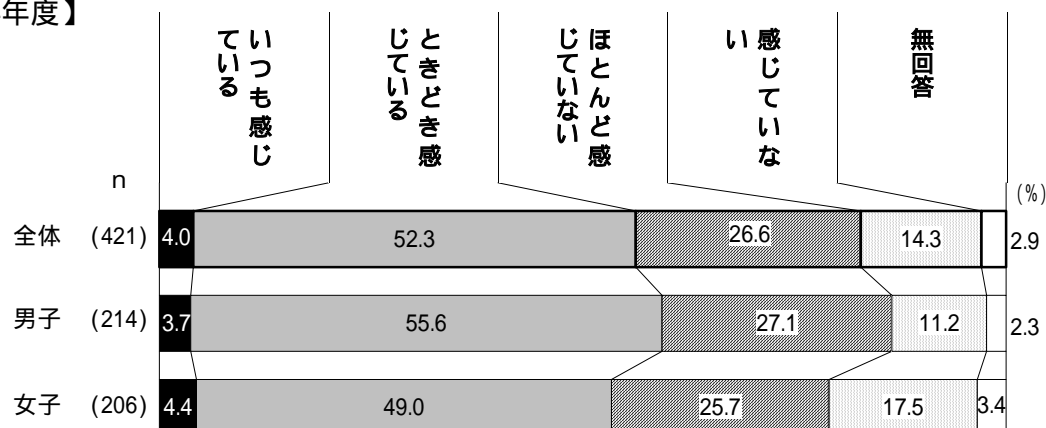
問25 お子さんが日常生活の中でストレスを感じていると思われる時がありますか。  
( は1つだけ)

<図表 - 5 - 6> こどものストレスの有無

【平成19年度】



【平成14年度】



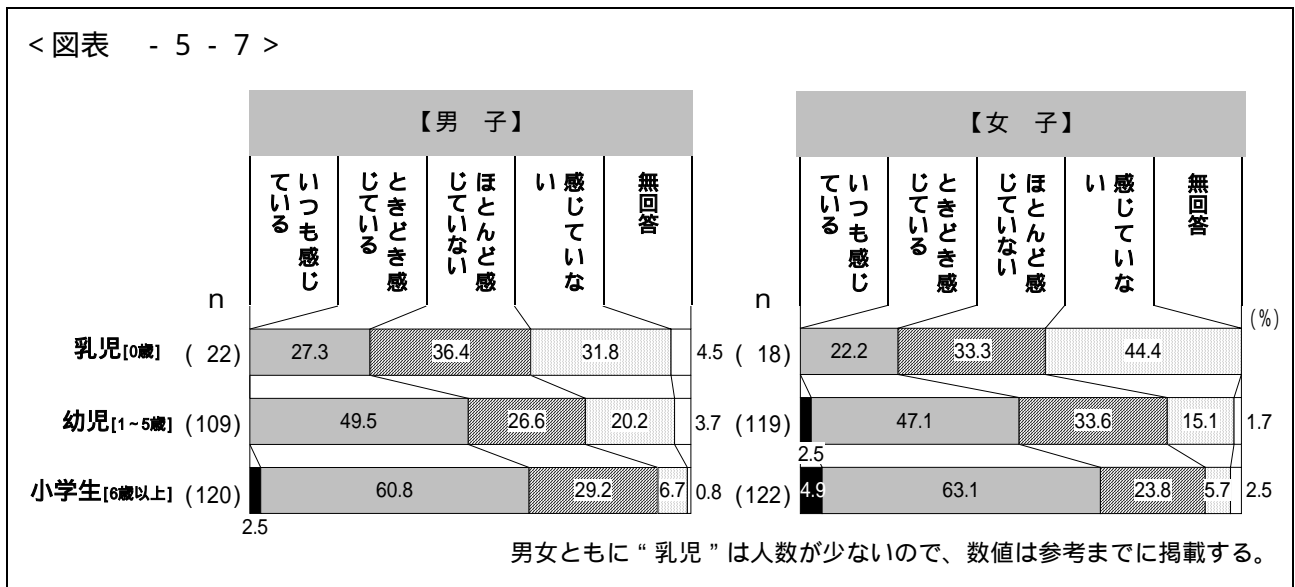
こどもがストレスを「いつも感じている」(2.5%)は少数ながら、「ときどき感じている」(52.7%)は5割を超え最も高くなっている。これらを合わせると《感じている》(55.2%)は5割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」(29.0%)と「感じていない」(13.6%)を合わせると、《感じていない》(42.6%)は4割を超える。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、《感じている》が男子で5ポイント減少し、《感じていない》が5ポイント増加している。(図表 - 5 - 6)

【性 / 年齢別】

< 図表 - 5 - 7 >

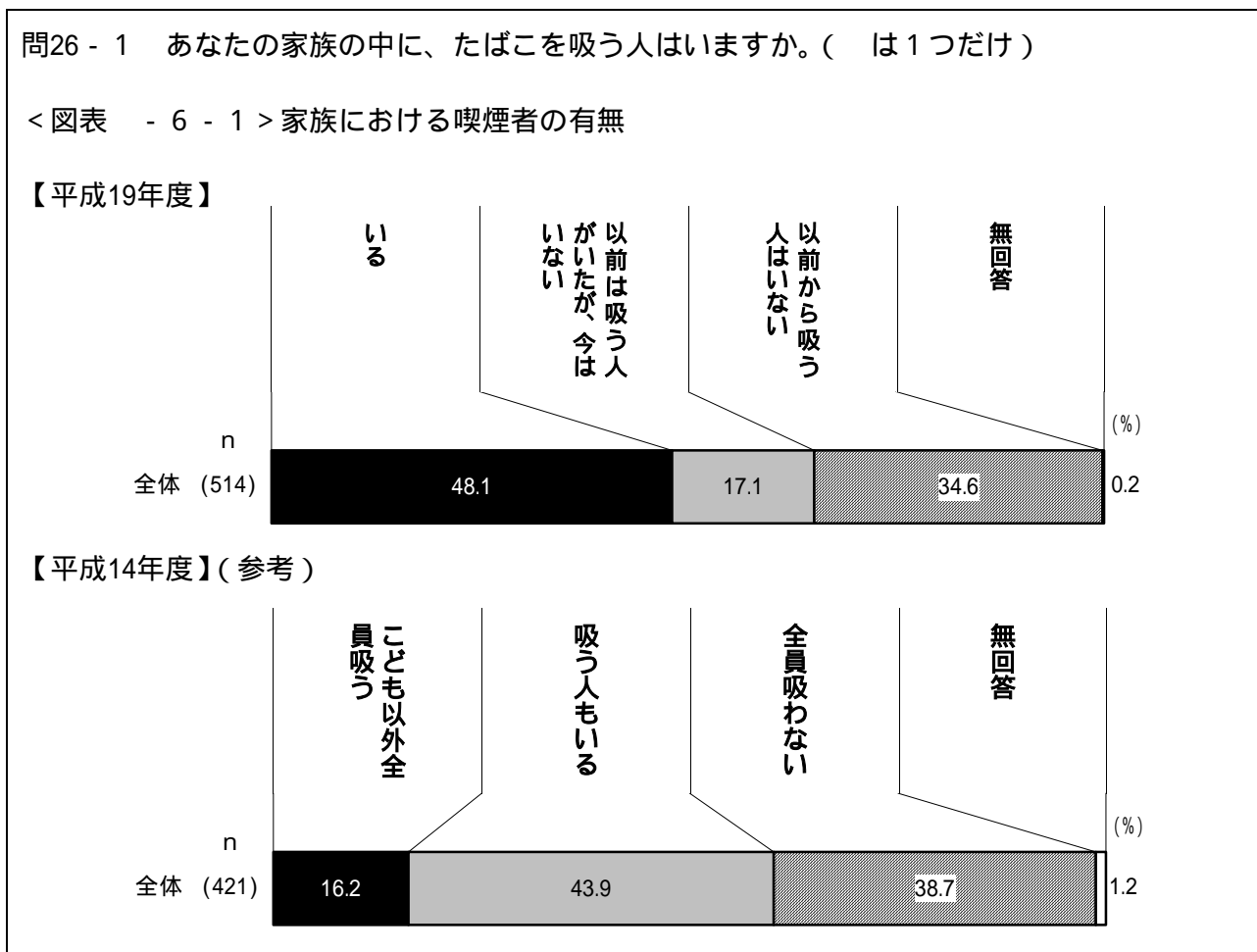


男女とも《感じている》は年齢が上がるほど漸増し、男子の小学生で6割を超え、女子の小学生で約7割となっている。(図表 - 5 - 7)

## 6 たばこ・アルコールについて

## (1) 家族における喫煙者の有無

「いる」が約5割



家族に喫煙者が「いる」(48.1%)は約5割となっている。一方、「以前は吸う人がいたが、今はいない」(17.1%)は約2割、「以前から吸う人はいない」(34.6%)は3割台半ばである。

平成14年度との比較については、選択肢が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 6 - 1)

(2) 家族全員が禁煙することの検討状況

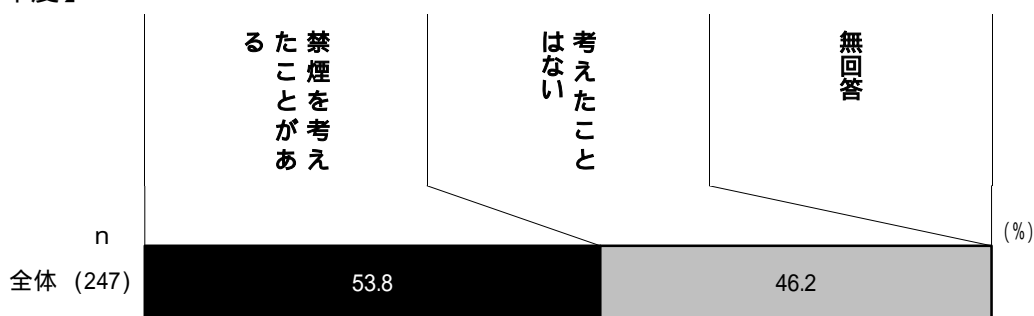
「禁煙を考えたことがある」は5割台半ば

(問26-1で、「1 いる」とお答えの方に)

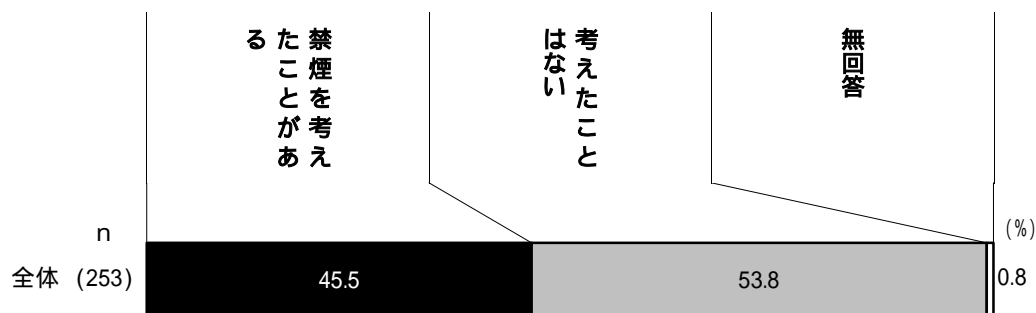
問26-2 お子さんのために、家族全員で禁煙を考えたことはありますか。( は1つだけ)

<図表 - 6 - 2> 家族全員が禁煙することの検討状況

【平成19年度】



【平成14年度】



問26-1で、家族に喫煙者が「いる」と回答した人に、こどものために家族全員が禁煙することを考えたことがあるか聞いたところ、「禁煙を考えたことがある」(53.8%)は5割台半ばとなっている。一方、「考えたことはない」(46.2%)は4割台半ばである。

平成14年度と比較すると、「禁煙を考えたことがある」が8ポイント増加し、逆に、「考えたことはない」が8ポイント減少している。(図表 - 6 - 2)

## (3) 禁煙実行の有無

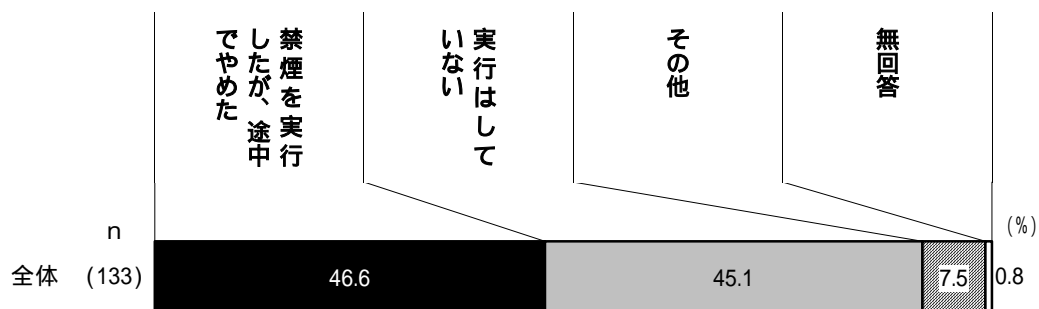
「禁煙を実行したが、途中でやめた」と「実行はしていない」がそれぞれ4割台半ば

(問26 - 2で、「1 禁煙を考えたことがある」とお答えの方に)

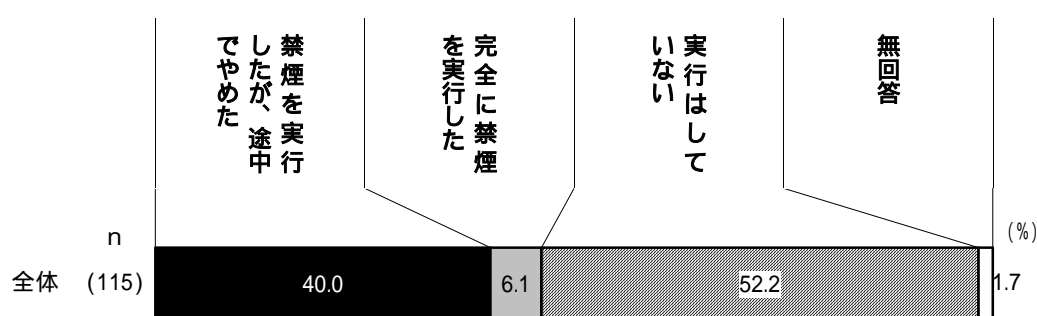
問26 - 3 禁煙を実行しましたか。( は1つだけ)

< 図表 - 6 - 3 > 禁煙実行の有無

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



問26 - 2で、「禁煙を考えたことがある」と回答した人にその後の経過を聞いたところ、「禁煙を実行したが、途中でやめた」(46.6%)と「実行はしていない」(45.1%)が、ともに4割台半ばで並ぶ。

平成14年度との比較については、選択肢が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 6 - 3)

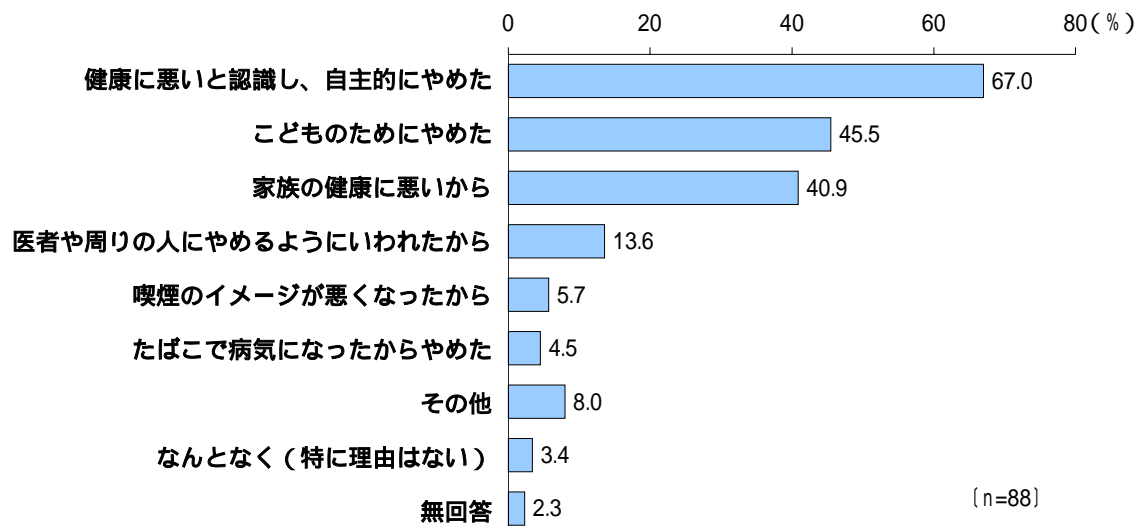
(4) 禁煙をした理由

「自主的にやめた」が約7割で最も高く、次いで「こどものためにやめた」が4割台半ば

(問26 - 1で、「2 以前は吸う人がいたが、今はいない」とお答えの方に)

問26 - 4 禁煙をした理由は何ですか。(はいくつでも)

<図表 - 6 - 4> 禁煙をした理由



問26 - 1で、「以前は吸う人がいたが、今はいない」と回答した人に、禁煙をした理由を聞いたところ、「健康に悪いと認識し、自主的にやめた」(67.0%)が約7割で最も高く、次いで「こどものためにやめた」(45.5%)が4割台半ば、「家族の健康に悪いから」(40.9%)が4割となっている。(図表 - 6 - 4)

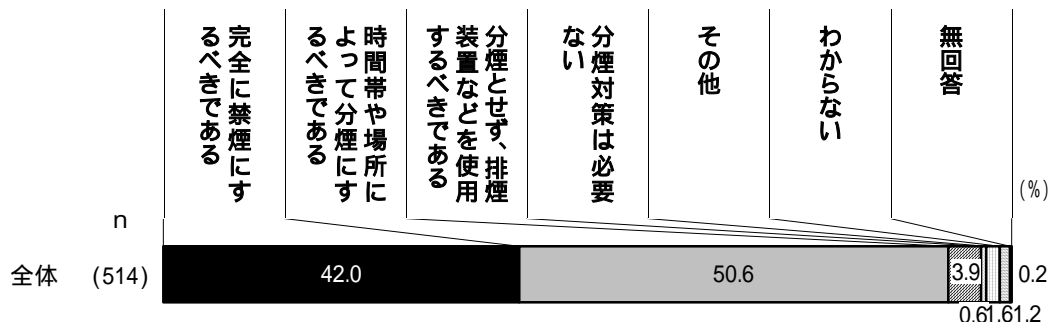
(5) 公共の場等での分煙についての考え

「時間帯や場所によって分煙にするべきである」が5割で最も高い

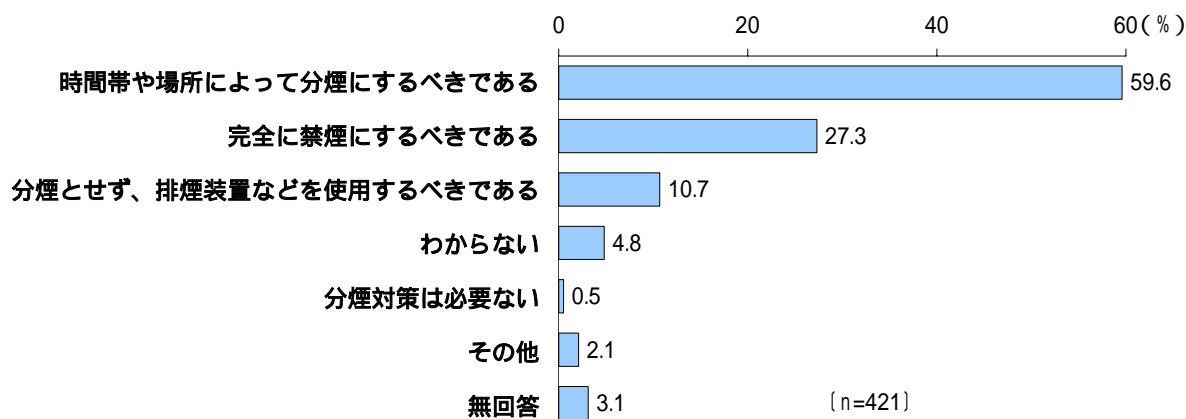
問27 公共の場等での分煙対策について、あなたの考えにあてはまるものを選んでください。( は1つだけ)

< 図表 - 6 - 5 > 公共の場等での分煙についての考え

【平成19年度】



【平成14年度】(参考)



分煙とは、たばこを吸っても良い場所と吸ってはいけない場所を分けることや、同じ場所でも、吸う時間帯を分けることです。

公共の場等での分煙についての考えとしては、「時間帯や場所によって分煙にするべきである」(50.6%)が5割で最も高く、次いで「完全に禁煙にするべきである」(42.0%)が4割を超える。

平成14年度との比較については、設問形式が異なることから、参考までに図示するに留める。(図表 - 6 - 5)

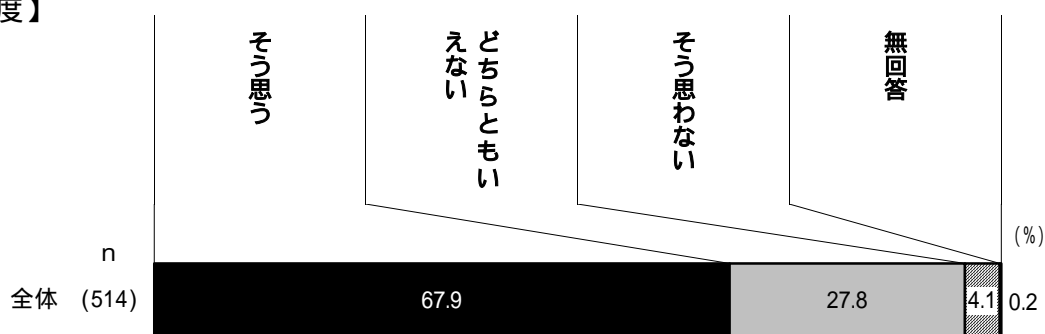
(6) 学校や職場での禁煙教育の取り組み

「そう思う」が約7割で最も高い

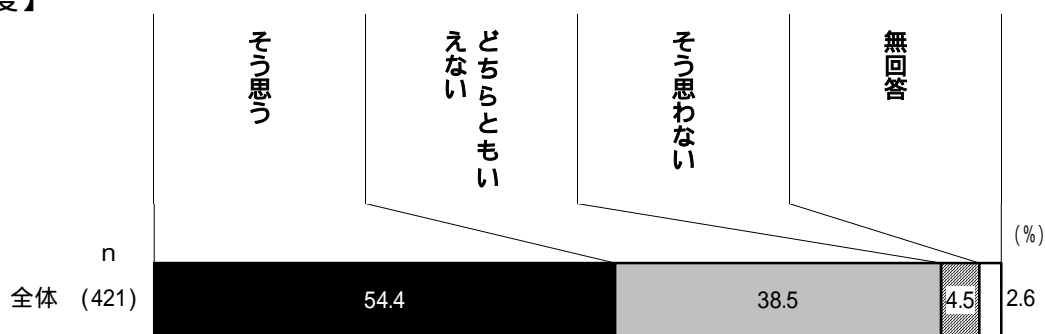
問28 学校や職場で、さらに積極的に禁煙教育に取り組むべきだと思いますか。( は1つだけ)

<図表 - 6 - 6> 学校や職場での禁煙教育の取り組み

【平成19年度】



【平成14年度】



学校や職場で禁煙教育に取り組むべきかについては、「そう思う」(67.9%)が約7割で最も高くなっている。これに対して、「どちらともいえない」(27.8%)は約3割で、「そう思わない」(4.1%)も少数ながらみられる。

平成14年度と比較すると、「そう思う」が14ポイント増加している。(図表 - 6 - 6)

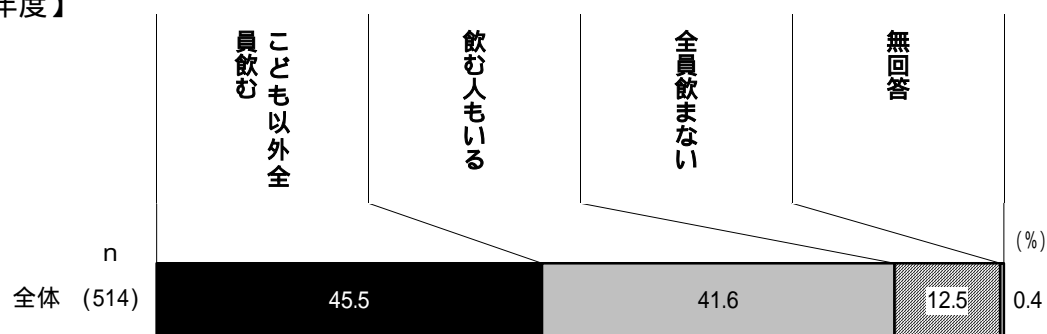
## (7) 家族における飲酒者の有無

《家族の中で飲酒者がいる》が約9割

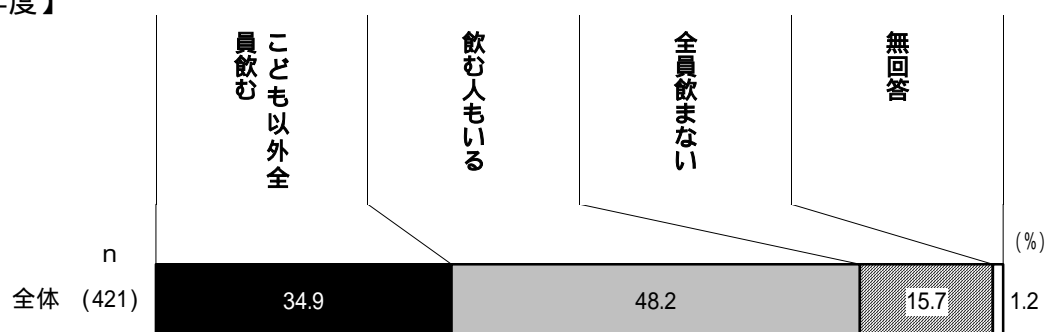
問29 - 1 あなたの家族の中に、アルコールを飲む人はいますか。( は1つだけ)

&lt;図表 - 6 - 7&gt; 家族における飲酒者の有無

【平成19年度】



【平成14年度】



家族における飲酒者の有無では、「子ども以外全員飲む」(45.5%)が4割台半ばで最も高く、次いで「飲む人もいる」(41.6%)が4割を超える。これらを合わせると《家族の中で飲酒者がいる》(87.1%)は約9割となっている。逆に、「全員飲まない」(12.5%)は1割を超えるに留まる。

平成14年度と比較すると、「子ども以外全員飲む」が11ポイント増加し、逆に、「飲む人もいる」が7ポイント減少している。(図表 - 6 - 7)

( 8 ) こどものための節酒の検討状況

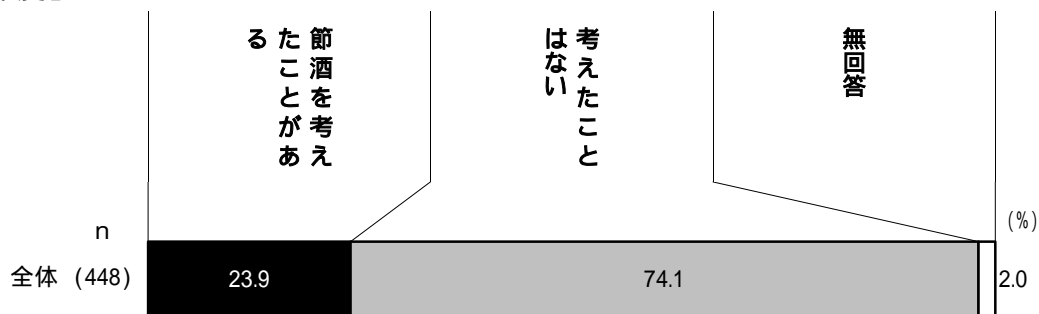
「考えたことはない」が7割台半ば

(問29 - 1で、「1」か「2」とお答えの方に)

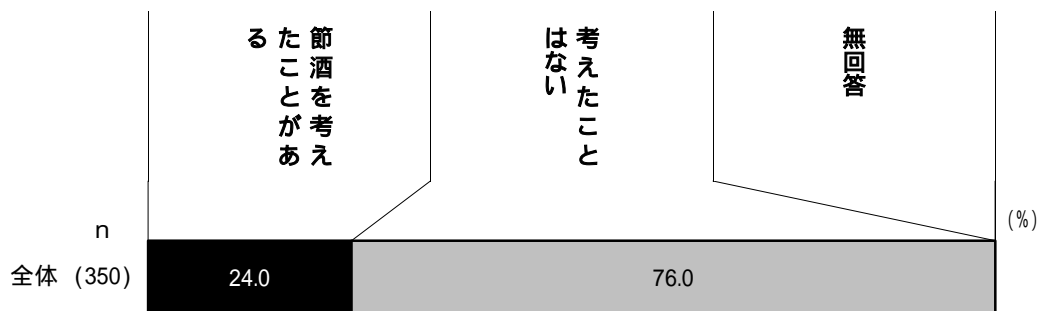
問29 - 2 お子さんのために、節酒を考えたことはありますか。( は1つだけ)

< 図表 - 6 - 8 > こどものための節酒の検討状況

【平成19年度】



【平成14年度】



問29 - 1で、《家族の中で飲酒者がいる》と回答した人に、こどものために節酒を考えたことがあるか聞いたところ、「節酒を考えたことがある」(23.9%)は2割台半ばに留まり、「考えたことはない」(74.1%)が7割台半ばと高くなっている。

平成14年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表 - 6 - 8)

## (9) 節酒実行の有無

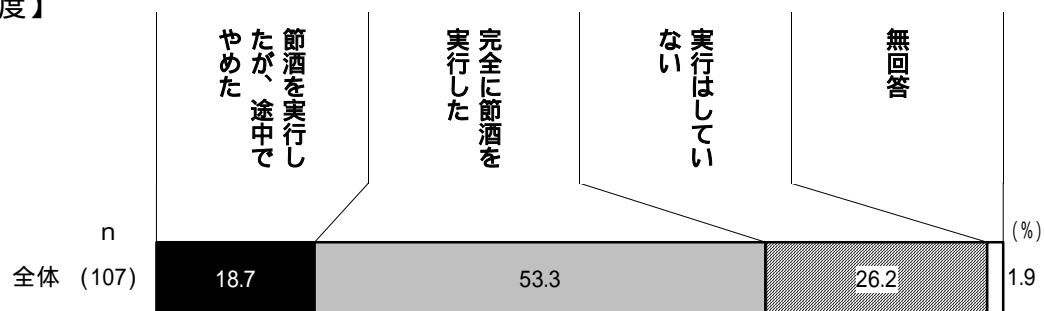
「完全に節酒を実行した」が5割台半ばで最も高い

(問29 - 2で、「1 節酒を考えたことがある」とお答えの方に)

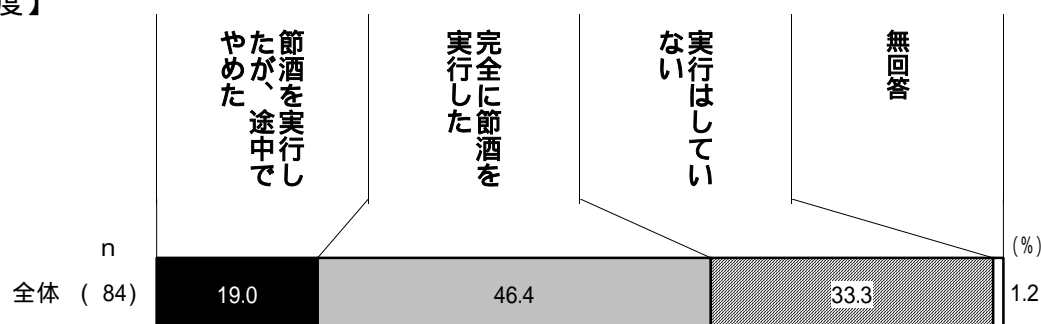
問29 - 3 節酒を実行しましたか。( は1つだけ)

< 図表 - 6 - 9 > 節酒実行の有無

## 【平成19年度】



## 【平成14年度】



問29 - 2で、「節酒を考えたことがある」と回答した人にその後の経過を聞いたところ、「完全に節酒を実行した」(53.3%)が5割台半ばで最も高くなっている。一方、「節酒を実行したが、途中でやめた」(18.7%)は約2割、「実行はしていない」(26.2%)は2割台半ばである。

平成14年度と比較すると、「完全に節酒を実行した」が7ポイント増加し、逆に、「実行はしていない」が7ポイント減少している。(図表 - 6 - 9)

## 7 歯の健康について

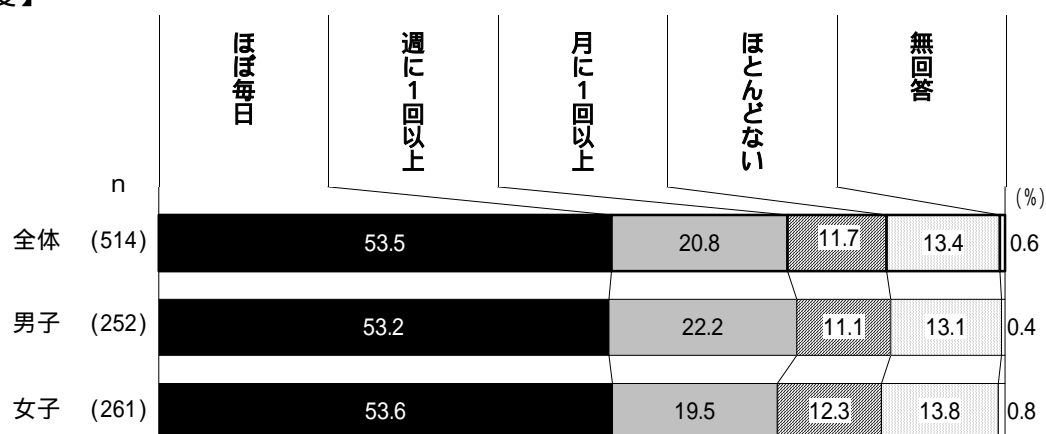
### (1) こどもの歯や歯ぐきの観察習慣

「ほぼ毎日」が5割台半ばで最も高い

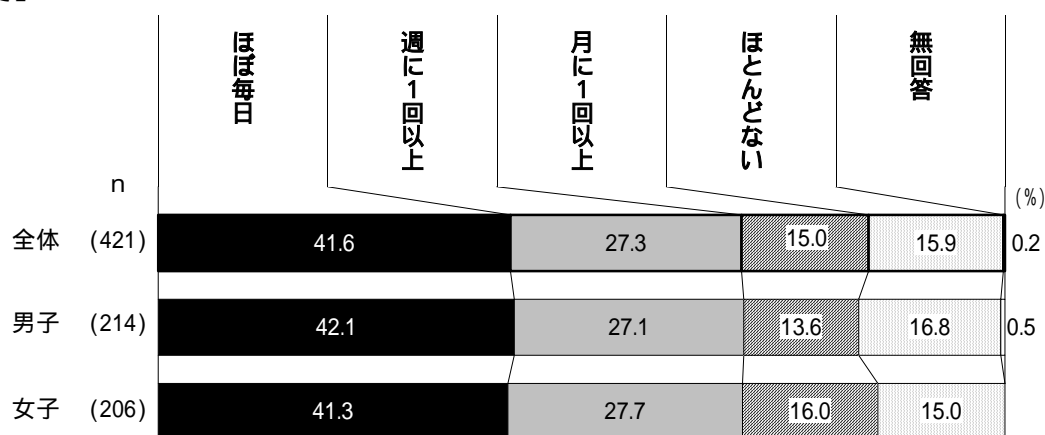
問30 あなたは、お子さんの口の中（歯や歯ぐきなど）の様子を観察してあげていますか。  
（ は1つだけ）

<図表 - 7 - 1> こどもの歯や歯ぐきの観察習慣

#### 【平成19年度】



#### 【平成14年度】



こどもの歯や歯ぐきの観察を「ほぼ毎日」(53.5%)が5割台半ばで最も高く、次いで「週に1回以上」(20.8%)が2割となっており、短い間隔での観察が多くなっている。一方、「月に1回以上」(11.7%)は1割を超え、「ほとんどない」(13.4%)が1割台半ばである。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、「ほぼ毎日」が全体と女子で12ポイント、男子で11ポイント増加している。逆に、「週に1回以上」が全体で7ポイント、男子で5ポイント、女子で8ポイント減少している。(図表 - 7 - 1)

## 【年齢別】

&lt;図表 - 7 - 2 &gt;

(%)

	n	ほぼ毎日	週に1回以上	月に1回以上	ほとんどない	無回答
0歳	40	60.0	32.5	2.5	5.0	-
1歳	47	74.5	23.4	-	-	2.1
2歳	57	86.0	12.3	1.8	-	-
3歳	42	90.5	4.8	4.8	-	-
4歳	40	67.5	20.0	10.0	2.5	-
5歳	42	64.3	19.0	11.9	2.4	2.4
6歳	42	61.9	23.8	4.8	9.5	-
7歳	35	57.1	17.1	14.3	11.4	-
8歳	40	32.5	35.0	15.0	15.0	2.5
9歳	40	12.5	27.5	27.5	32.5	-
10歳	38	13.2	23.7	34.2	28.9	-
11歳	47	10.6	17.0	17.0	55.3	-

「ほぼ毎日」は2歳で8割台半ば、3歳で9割と高く、それ以降年齢が上がるほどおおむね漸減する傾向がみられる。「週に1回以上」は8歳で、「月に1回以上」は10歳で3割台半ばと最も高くなっている。「ほとんどない」は、おおむね年齢が上がるほど漸増し、11歳で5割台半ばと高くなる。(図表 - 7 - 2)

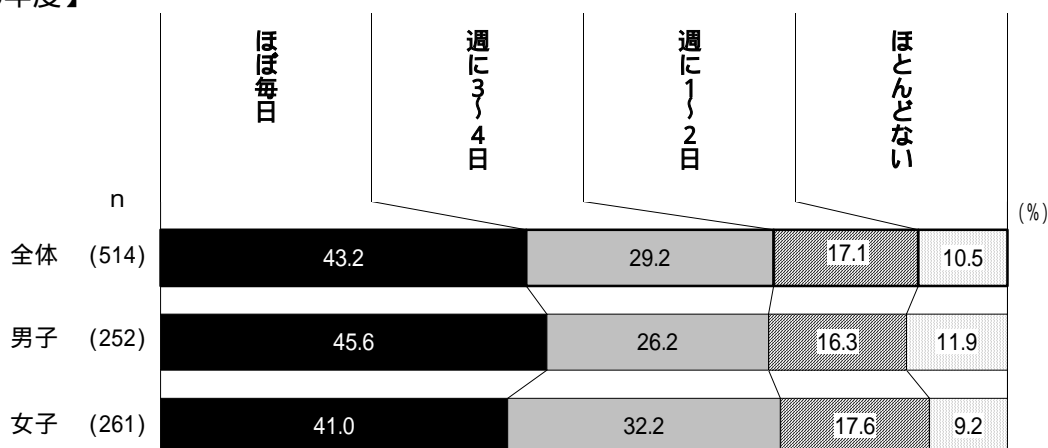
(2) こどもが1週間に甘味食品や飲み物を摂る頻度

「ほぼ毎日」が4割台半ばで最も高い

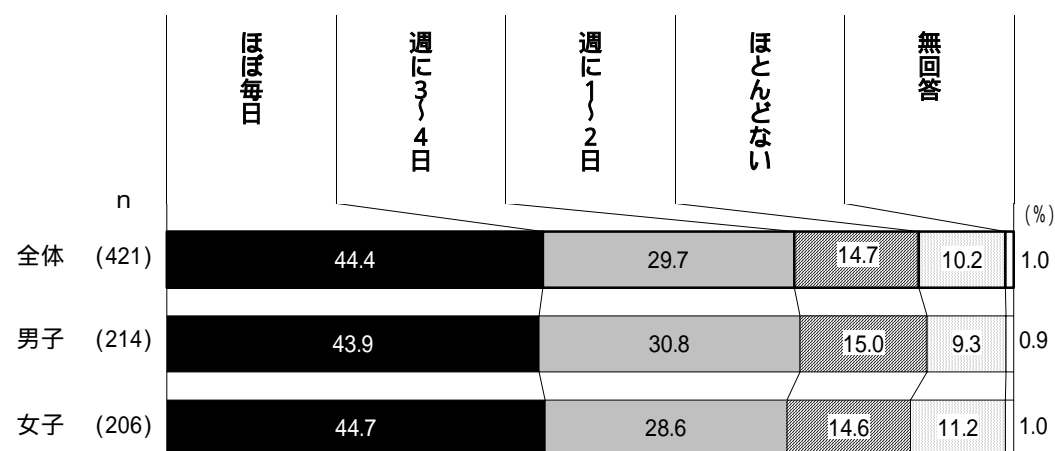
問31 お子さんは、甘いお菓子・飲み物(アメ・チョコ・ガム・アイス・乳酸菌飲料・スポーツドリンクなど)を1週間にどのくらい食べたり、飲んだりしますか。( は1つだけ)

< 図表 - 7 - 3 > こどもが1週間に甘味食品や飲み物を摂る頻度

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの1週間に甘味食品や飲み物を摂る頻度としては、「ほぼ毎日」(43.2%)が4割台半ばで最も高く、次いで「週に3~4日」(29.2%)が約3割、「週に1~2日」(17.1%)が約2割となっている。

性別で見ると、「ほぼ毎日」は男子の方が女子より5ポイント高く4割台半ばとなっている。逆に、「週に3~4日」は女子が6ポイント上回り3割を超える。

平成14年度と比較すると、全体では特に大きな違いはみられない。性別では、「週に3~4日」が男子で5ポイント減少している。(図表 - 7 - 3)

## 【年齢別】

&lt;図表 - 7 - 4 &gt;

(%)

	n	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんどない
0歳	40	7.5	2.5	12.5	77.5
1歳	47	27.7	25.5	21.3	25.5
2歳	57	54.4	29.8	8.8	7.0
3歳	42	50.0	28.6	16.7	4.8
4歳	40	42.5	32.5	17.5	7.5
5歳	42	50.0	35.7	14.3	-
6歳	42	42.9	23.8	33.3	-
7歳	35	54.3	25.7	17.1	2.9
8歳	40	45.0	35.0	20.0	-
9歳	40	52.5	32.5	12.5	2.5
10歳	38	39.5	44.7	15.8	-
11歳	47	48.9	36.2	14.9	-

「ほぼ毎日」が多くの年齢層で高くなっているが、特に、2歳と7歳では5割台半ばとなっている。(図表 - 7 - 4)

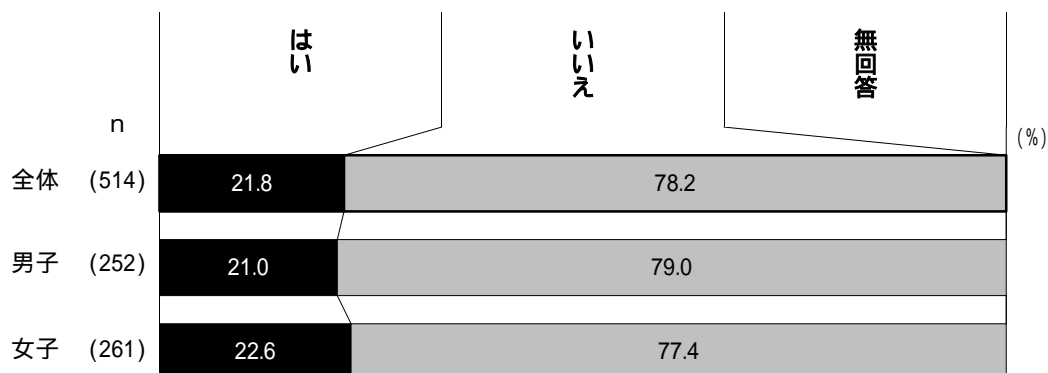
(3) こどもへのキシリトール配合ガム推奨の有無

「はい」は2割を超えるが、「いいえ」が約8割と高い

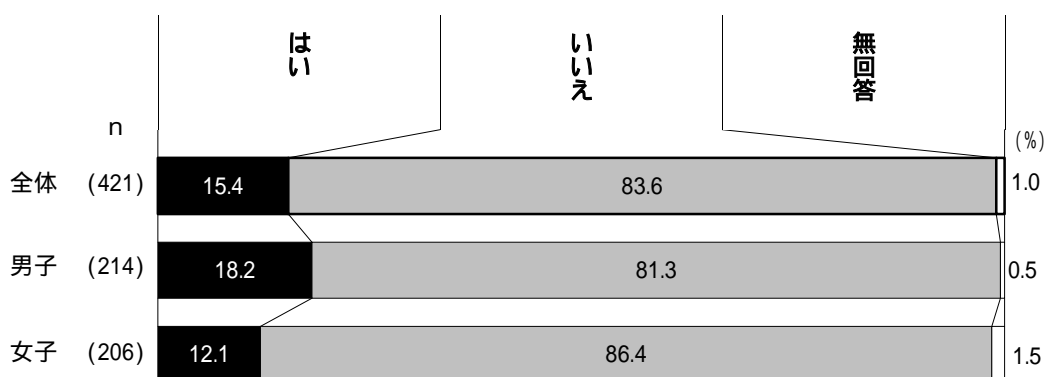
問32 あなたは、虫歯予防のため、お子さんにキシリトール配合のガムを食べさせていますか。  
( は1つだけ)

< 図表 - 7 - 5 > こどもへのキシリトール配合ガム推奨の有無

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもへキシリトール配合ガムを推奨しているかと聞いたところ、「はい」(21.8%)は2割を超えるが、「いいえ」(78.2%)が約8割と高くなっている。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較すると、全体では、「はい」が6ポイント増加し、「いいえ」が5ポイント減少している。性別では、女子での変化が大きく、「はい」が11ポイント増加し、「いいえ」が9ポイント減少している。(図表 - 7 - 5)

## 【年齢別】

&lt;図表 - 7 - 6 &gt;

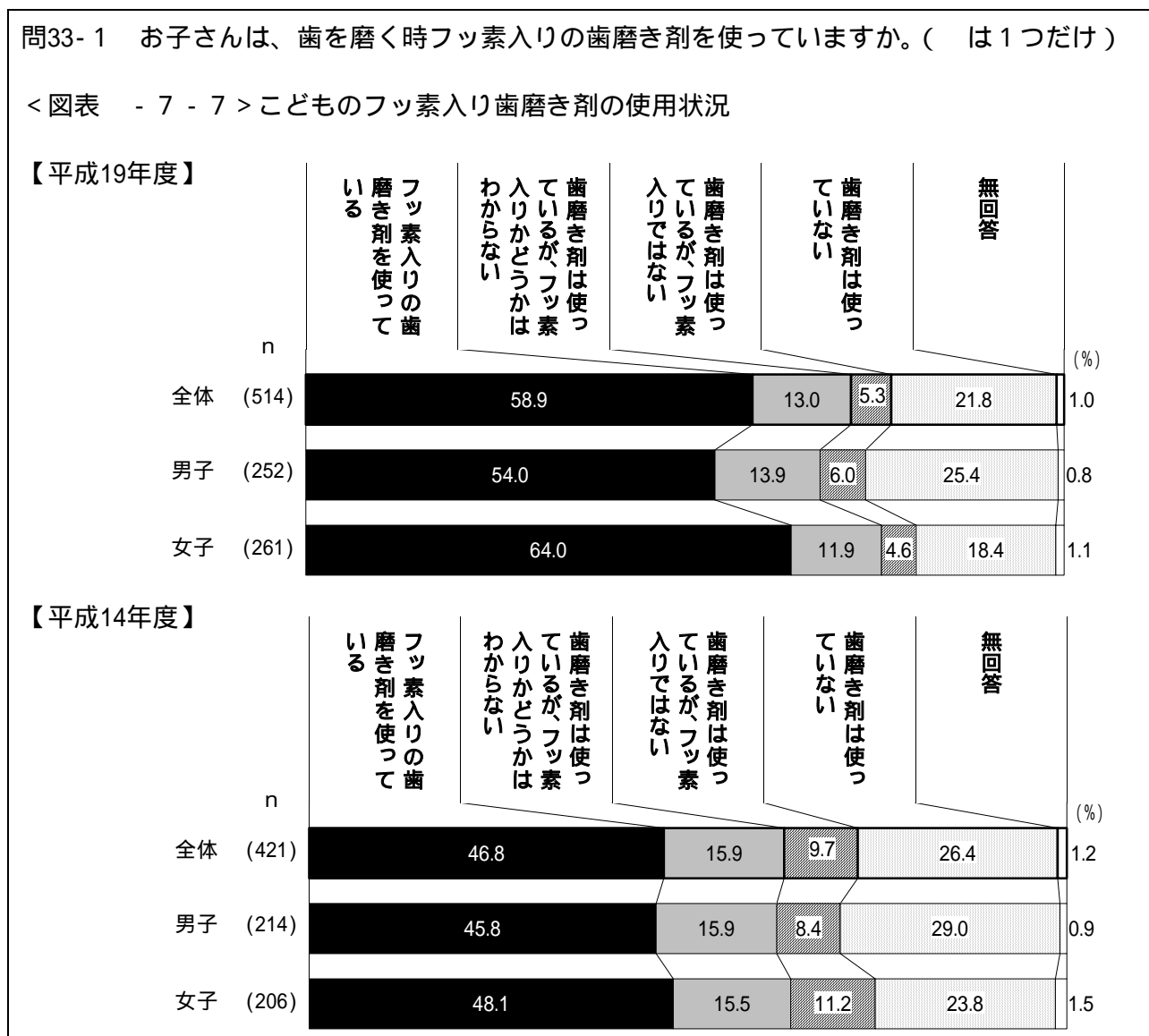
(%)

	n	はい	いいえ
0歳	40	2.5	97.5
1歳	47	8.5	91.5
2歳	57	12.3	87.7
3歳	42	11.9	88.1
4歳	40	30.0	70.0
5歳	42	26.2	73.8
6歳	42	23.8	76.2
7歳	35	37.1	62.9
8歳	40	30.0	70.0
9歳	40	35.0	65.0
10歳	38	18.4	81.6
11歳	47	31.9	68.1

「はい」は7歳で約4割と最も高く、9歳が3割台半ばと僅差で続く。なお、全ての年齢層において、「いいえ」が「はい」を上回っている。(図表 - 7 - 6)

(4) こどものフッ素入り歯磨き剤の使用状況

「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」が約6割で最も高い



こどものフッ素入り歯磨き剤の使用状況としては、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」(58.9%)が約6割で最も高くなっている。「歯磨き剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない」(13.0%)は1割台半ばである。一方で、「歯磨き剤は使っていない」(21.8%)が2割を超える。

性別で見ると、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」は女子の方が男子より10ポイント高く6割台半ばとなっている。逆に、「歯磨き剤は使っていない」は男子が7ポイント上回り2割台半ばである。

平成14年度と比較すると、全体では、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」が12ポイント増加し、「歯磨き剤は使っていない」が5ポイント減少している。性別では、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」が、男子で8ポイント、女子で16ポイント増加している。また、女子は、「歯磨き剤は使っているが、フッ素入りではない」で7ポイント、「歯磨き剤は使っていない」で5ポイント減少している。(図表 - 7 - 7)

## 【年齢別】

&lt;図表 - 7 - 8 &gt;

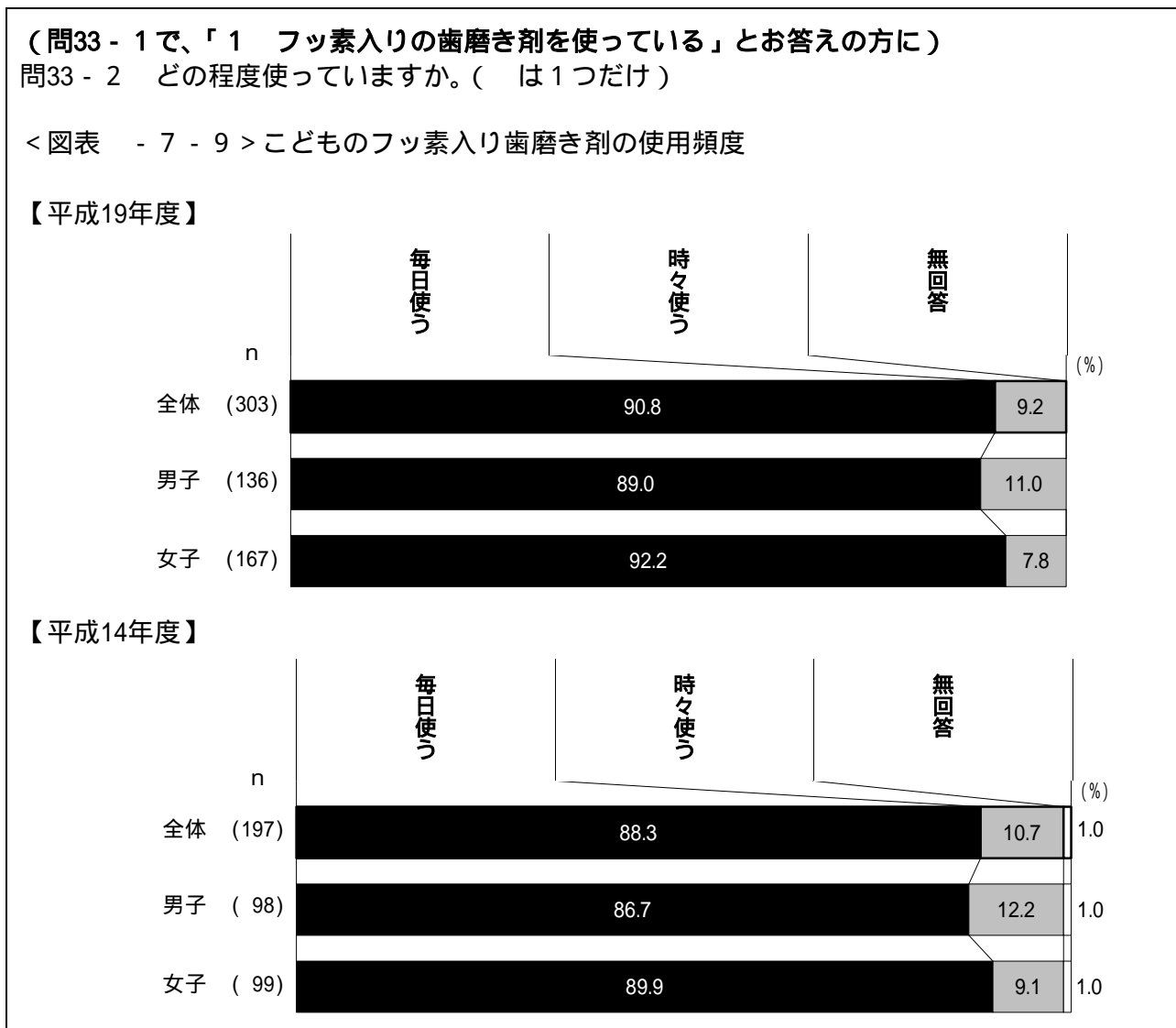
(%)

	n	フッ素入りの歯磨き剤を使っている	歯磨き剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない	歯磨き剤は使っていないが、フッ素入りではない	歯磨き剤は使っていない	無回答
0歳	40	7.5	2.5	-	77.5	12.5
1歳	47	40.4	2.1	2.1	55.3	-
2歳	57	64.9	8.8	-	26.3	-
3歳	42	78.6	-	7.1	14.3	-
4歳	40	80.0	7.5	2.5	10.0	-
5歳	42	66.7	14.3	4.8	14.3	-
6歳	42	61.9	21.4	4.8	11.9	-
7歳	35	71.4	17.1	5.7	5.7	-
8歳	40	72.5	17.5	5.0	5.0	-
9歳	40	57.5	22.5	10.0	10.0	-
10歳	38	52.6	21.1	7.9	18.4	-
11歳	47	55.3	21.3	14.9	8.5	-

「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」は、3歳～4歳で8割前後と高く、7歳～8歳で7割を超える。「歯磨き剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない」は、6歳と9歳以上で2割を超える。(図表 - 7 - 8)

(5) こどものフッ素入り歯磨き剤の使用頻度

「毎日使う」が9割を占める



問33 - 1で、「フッ素入りの歯磨き剤を使っている」と回答した人にその使用頻度を聞いたところ、「毎日使う」(90.8%)が9割を占める。

性別では、特に大きな違いはみられない。

平成14年度と比較しても、特に大きな違いはみられない。(図表 - 7 - 9)

## 【年齢別】

&lt;図表 - 7 - 10&gt;

(%)

	n	毎日使う	時々使う
0歳	3	100.0	-
1歳	19	84.2	15.8
2歳	37	94.6	5.4
3歳	33	90.9	9.1
4歳	32	93.8	6.3
5歳	28	78.6	21.4
6歳	26	100.0	-
7歳	25	88.0	12.0
8歳	29	100.0	-
9歳	23	91.3	8.7
10歳	20	80.0	20.0
11歳	26	88.5	11.5

人数の少ない年齢層が多いものの、概して「毎日使う」としている傾向にある。(図表 - 7 - 10)

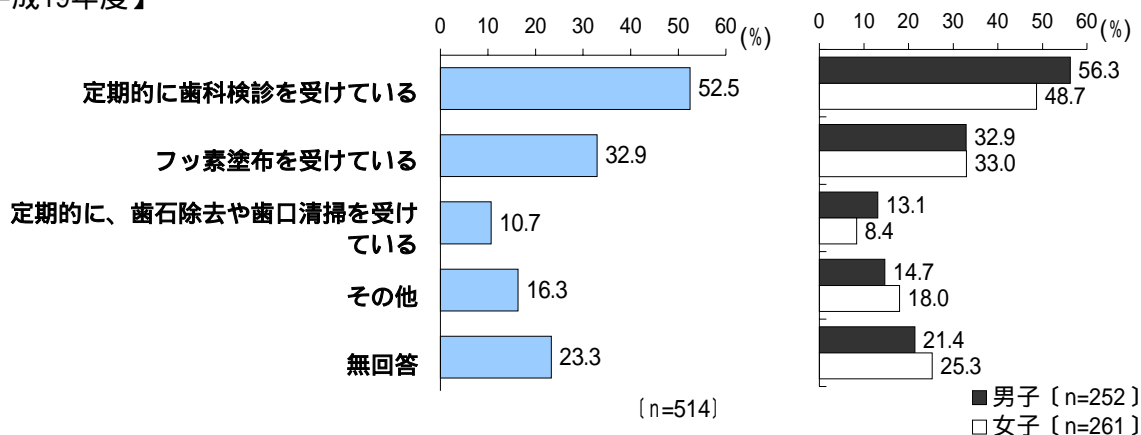
(6) こどもの定期的な歯科検診の受診状況

「定期的に歯科検診を受けている」が5割を超え最も高い

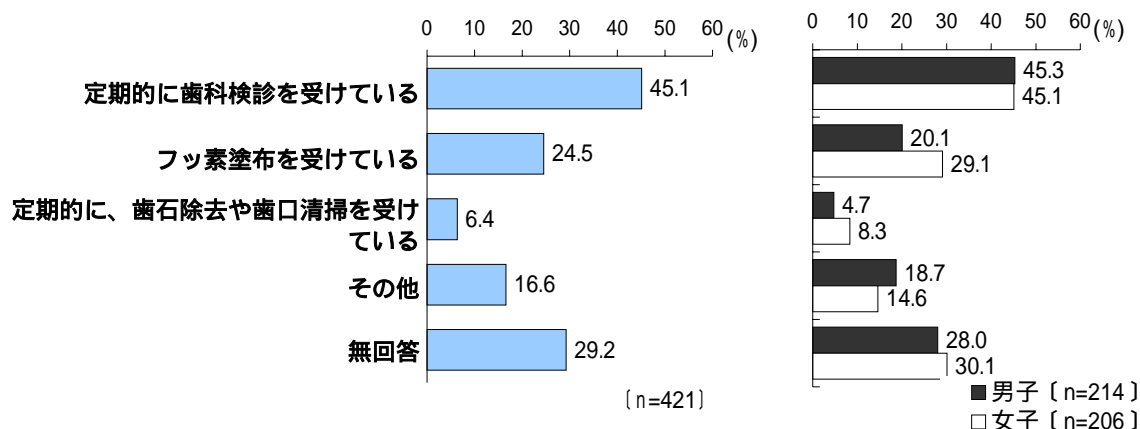
問34 お子さんは、保育園や幼稚園、学校の歯科検診以外に、次のような処置を受けていますか。  
(はいいくつでも)

<図表 - 7 - 11> こどもの定期的な歯科検診の受診状況

【平成19年度】



【平成14年度】



こどもの定期的な歯科検診の受診状況としては、「定期的に歯科検診を受けている」(52.5%)が5割を超え最も高く、次いで「フッ素塗布を受けている」(32.9%)が3割を超える。また、「無回答」(23.3%)と「その他」(16.3%)の比率が高い。なお、「無回答」は、「特に受けていない」とほぼ同義と考えられる。一方、「その他」の内容には、「まだ歯が生えそろうてない」とか「虫歯の治療中」などがある。

性別でみると、「定期的に歯科検診を受けている」は男子の方が女子よりも8ポイント高く、「定期的に、歯石除去や歯口清掃を受けている」でも男子は5ポイント上回っている。

平成14年度と比較すると、全体では、「定期的に歯科検診を受けている」が7ポイント、「フッ素塗布を受けている」が8ポイント増加している。性別では、男子での変化が大きく、「定期的に歯科検診を受けている」で11ポイント、「フッ素塗布を受けている」で13ポイント、「定期的に、歯石除去や歯口清掃を受けている」で8ポイント増加している。(図表 - 7 - 11)

## 【年齢別】

&lt; 図表 - 7 - 12 &gt; (全項目)

(%)

	n	定期的 に歯科 検診を 受けて いる	フッ 素塗 布を 受けて いる	定期的 に、歯 石除去 や歯口 清掃を 受けて いる	その他	無回 答
0歳	40	17.5	7.5	2.5	37.5	40.0
1歳	47	44.7	21.3	2.1	14.9	38.3
2歳	57	42.1	42.1	3.5	15.8	28.1
3歳	42	71.4	45.2	14.3	16.7	9.5
4歳	40	57.5	40.0	12.5	20.0	17.5
5歳	42	54.8	31.0	7.1	11.9	21.4
6歳	42	59.5	42.9	14.3	14.3	14.3
7歳	35	68.6	51.4	22.9	14.3	14.3
8歳	40	60.0	40.0	12.5	7.5	22.5
9歳	40	55.0	32.5	17.5	12.5	17.5
10歳	38	55.3	26.3	15.8	7.9	26.3
11歳	47	48.9	17.0	10.6	23.4	25.5

「定期的に歯科検診を受けている」は、3歳と7歳で7割前後と高く、次いで、8歳で6割となっている。「フッ素塗布を受けている」も7歳は唯一5割を超え最も高く、3歳が4割台半ばで続く。また、「定期的に、歯石除去や歯口清掃を受けている」でも7歳は2割を超え高い。(図表 - 7 - 12)

## 8 自由回答

今後の保健衛生事業・健康づくり・計画へのご要望・ご意見・ご提案等ございましたら、ご自由にご記入ください。

区への意見や要望に対しては、116人から延べ140件の回答が寄せられた。ここでは、意見や要望を分類し、各項目別で記載した。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれを各テーマに分類している。

### 【育児】 25

公園・遊び場の整備・充実	12
育児に関する教室と交流の場の充実	5
保育園や託児サービス施設の整備・充実	4
放課後の学校開放について	3
スクールカウンセラーの希望	1

### 【健康づくり・健康意識】 24

スポーツや健康に関する教室やイベントの充実	8
学校教育での取り組み	6
予防接種(無料・一部助成)の希望	5
健康についての考え	3
食事についての考え	2

### 【環境】 23

禁煙や分煙の推進・強化	20
大気汚染の心配	2
エコ活動の促進	1

### 【医療】 20

医療に関する機関や制度の整備・充実	5
予防接種の方法や体制	4
日本脳炎予防接種の今後の展開	4
休日・夜間診療の医療施設の充実	3
医療機関や医師等の情報がほしい	3
医療費を下げしてほしい	1

<b>【健康診断】</b>	15
歯科検診の充実、フッ素塗布（無料）の再開	13
健康診断の義務化	1
手軽に受けられる健診、低料金化の希望	1
<b>【情報提供】</b>	9
健康に関する活動・指導等の情報提供を充実	5
食に関する情報提供の充実	4
<b>【健康づくり施設】</b>	7
健康・スポーツ施設の整備・充実	5
施設を低料金で利用できるように	1
休日・夜間等でも利用できる健康施設がほしい	1
<b>【保健所】</b>	2
相談所の整備・充実	2
<b>【区役所・行政】</b>	2
行政・区役所の取り組みの充実	2
<b>【その他】</b>	13
アンケートに関して	3
その他	10

